

調査データのトレーサビリティの確認結果

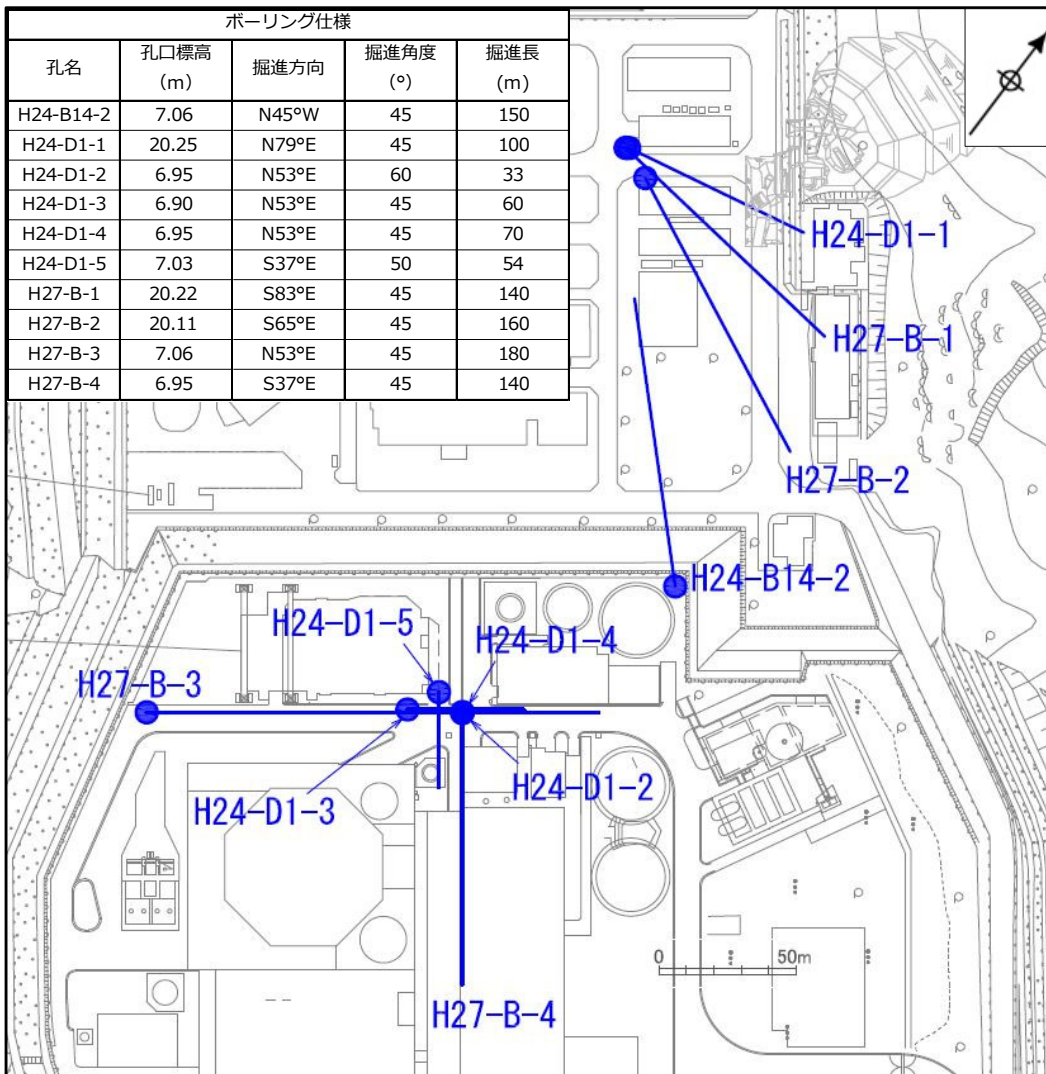
元となるデータ:ボーリング柱状図 (報告書柱状図)

令和4年11月25日
日本原子力発電株式会社

余白

目次

ボーリング孔名	頁
H24-D1-1	3-8-5
H27-B-1	3-8-27
H27-B-2	3-8-57
H24-B14-2	3-8-91
H24-D1-3	3-8-123
H24-D1-2	3-8-137
H24-D1-4	3-8-145
H27-B-3	3-8-161
H27-B-4	3-8-199
H24-D1-5	3-8-229



ボーリング調査位置図

余白

H24-D1-1

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)							
														0	10	20	30	40												50						
6	16.40	5.45		コア欠如	にぶい黄橙					4.97~5.45m: スライム 灰黄色粘土からなる泥材と粗粒砂からなる。径10mm以下の黒色砂岩の礫を含む。ルーズである。																										
	15.77	6.33		明褐灰						5.45~6.33m: 礫 径30~280mmの硬質な花崗斑岩の亜角礫からなる。半クサリ~クサリ礫は分布しない。																										
	15.59	6.59		砂礫	にぶい黄橙						6.33~6.59m: 砂礫 径2~80mmの花崗斑岩の亜円~亜角礫の硬質礫と中~粗粒砂のやや締った基質からなる。礫率は30%前後。所々に未分解で炭化していない単片を含む。																									
	15.50	6.72		シルト混じり砂	褐灰						6.59~6.72m: シルト混じり細砂 有機質で径1~2mmの石英、長石、岩片を含む。また、炭化物片や未分解の単片も含む。褐色を呈する。やや締っている。																									
	15.46	6.78		粘土							6.72~6.78m: 粘土 傾斜20°、幅40~50mmの灰色粘土で径10mmの硬質な花崗斑岩の岩片を含む。やや締っている。																									
7	15.30	7.00	砂礫							6.78~7.00m: 礫混じり粗粒砂 径5~30mmの花崗斑岩の亜円礫を多く含む。褐色を呈する。ルーズ。																										
	13.55	9.48	砂礫	にぶい橙						7.00~9.48m: スライム 中~粗粒砂からなる。均質でルーズ。稀に径60mm以下の花崗斑岩の礫を含む。																										
8				コア欠如	にぶい黄橙																															
9																																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)															
														(N値~深度) 図																														
		13.00	10.25	砂礫	にぶい橙									0	10	20	30	40	50																									
		12.47	11.00	中砂	にぶい黄橙					10.25~11.00m: 中砂 10.25~10.40mは若干の粘土分を含む。 10.30~10.38mは傾斜45°程度で炭化物片を含み有機質である。暗緑灰色を呈する。 10.38m以下は径2~3mmの石英粒、径1.5~2.0mm以下の花崗斑岩の半クサリ〜クサリ礫を少量含み、よく締っている。10.53~10.55mに炭化物片を含む。																																		
11		12.47	11.00	砂礫	にぶい黄橙					11.00~12.15m: 砂礫 径2~5mmの石英粒、径10~160mmの花崗斑岩の垂円〜亜角礫を多く含み、よく締った中〜粗粒砂の基質からなる。礫率は40~50%。 11.00~11.05mと11.20~11.27mの基質の一部はマンガン鉱染により黒褐色化する。																																		
12		11.66	12.15	砂礫	にぶい黄橙					11.90~12.15mでは径10~20mmの半クサリ礫が主体となる。																																		
13		11.66	12.15	花崗斑岩	にぶい黄橙	Eg	Vg	cg	δ	3	12.15~100.00m: 花崗斑岩 斑晶は径1~3mmの石英、長石からなる。 12.15~18.10m: 風化によって硬さは「D」または、著しく軟質化した「E」となり、深度18.10m付近まで硬さD (岩盤区分D) と硬さE (同D級) をくり返す。ただし、硬さ「E」が主体である。変質粘土化部や粘土脈の分布は少ない。割れ目沿いは風化で砂状化することが多い。割れ目沿いの一部は、マンガン鉱染により黒褐色化する。 全体に原岩組織と割れ目が残留する。傾斜10~30°の割れ目が主体で、一部でこれらに傾斜60~80°の割れ目が交差する。																																	
14						Bg	IVg			14.78~15.10m: 珪質のため硬質部として残留する。																																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記	事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位試験 (孔内水平剪断)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)							
																N	0	10	20	30												40	50					
16			+				IV _g						0				0	10	20	30	40	50																
																																			6	D'		
																																			10			
																																			14			
																																			18			
																																			22			
																																			26			
																																			30			
																																			34			
																																			38			
																																			42			
																																			46			
17			+				cg					0																										
																																				9	Cl'	
																																				13		
																																				17		
																																				21		
																																				25		
29																																						
18			+				cg	δ	3			0																										
																																					6	D'
																																					10	
																																					14	
																																					18	
																																					22	
26																																						
19			+				cg					0																										
																																					3	D'
																																					7	
																																					11	
																																					15	
																																					19	
23																																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状 図	岩種 区分	色調	硬軟 状態	割れ目 の状態	風化 状態	変質	記事	コア採取率 (%)	岩級 区分	試験			掘進 速度 (cm/時)	掘進 室 内 試 験	コア 直 径 (mm)	給 水 圧 (MPa)	回 轉 数 (rpm)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)
													標準貫入 (N値~深度)	図	原位置試験 (孔内水平距離)							
													標準貫入			(N値~深度)			(N値)			
													(N値)	(N値)	(N値)	標準貫入			(N値~深度)			
21			+	に ふ い 黄 橙		Eg Dg Eg	dg vg			20.09m付近、傾斜5°で幅5~20mmが淡緑色化する。 20.16~20.19m：上端5°で一部不明瞭、下端15°でほぼ直線的にシャープに連続。幅30~35mmで径5mmの粘土化岩片を多く含む。灰白~にふい黄橙色を呈する。この上位及び下位では、径5~10mmの岩片が主体で粘土化したものが多く、著しく軟質化している。 20.19~20.25m：傾斜0~5°の割れ目が幅6cmで密集し、砂状化するほど風化する。灰褐色を呈する。 20.25~21.04m：原岩組織や割れ目は消滅せずに残留するものが多いが、20.25~20.54mと20.77~21.04mは著しく軟質化し、20.54~20.77mはやや軟質である。傾斜20°前後の割れ目が主体で、幅1~2mmの軟質な灰白色、褐色の粘土脈を挟むことが多い。 20.95~21.94m：傾斜10~30°の風化で消滅しかかった割れ目沿いに幅5~15mmが橙色を呈し、一部で砂状化する。 21.04~24.53m：局部的に割れ目沿いに軟質化が著しくなる部分を含む。割れ目と原岩組織は明瞭に残留する。傾斜10~35°の割れ目が主体で、これらに60~80°の割れ目が斜交~直交する。割れ目の一部に幅0.5~1mmの灰白~橙色粘土を挟むが、幅広い粘土化部は分布しない。	0 50 100			0 10 20 30 40 50								
22			+	花 崗 斑 岩			cg	δ 3														
23			+	明 燧 灰		Dg				22.77m：傾斜76°で幅2~3mmの軟質な褐色の粘土脈を挟む。面は凹凸がある。 23.13m：傾斜58°の割れ目で、交差する高角度割れ目は止まっている場合と横断する場合がある。また、一部に軟質な幅0.5mmの白色粘土を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 23.40m：傾斜75~80°で若干湾曲する割れ目と23.41mで交差する傾斜25°の割れ目は開口し、開口部の下端側では2mm程度右方向にズれているように見えるが、上端側では横断する。高角度割れ目には幅0~2mmの暗褐色粘土を挟むが、粘土は不連続で、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。 23.58m：傾斜50°で幅1mmの石英脈を挟む。密着している。 23.91m：傾斜30°の割れ目の下端側幅10mmの一部は淡緑色化する。変質粘土化は伴わないが、径0.5mm以下の微細な鉱物が晶出する。 24.53~30.53m：全体にやや軟質で、風化で著しく軟質化する部分も含む。原岩組織や割れ目は残留するものが大半で、傾斜10~50°の割れ目が主体で、一部で傾斜60~70°の割れ目が交差する。多くは割れ目沿いに砂状化するが、粘土化や粘土脈の分布は少ない。一部でマンガン鉱染を伴い黒褐色化する。												
24			+				vg															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
														N	値																			
26			花崗斑岩	明褐色	Dg					25.05m: 傾斜35°の割れ目沿いに幅10~20mmが砂状化で一部粘土も含む。 25.12m: 傾斜40°の割れ目で交差する微細な割れ目は止まっている。周囲幅10mmに径0.5mm以下の微細な黄鉄鉱が露出する。また、割れ目に幅0.5mmの軟質な褐色粘土を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 25.33m: 傾斜36°で幅5~15mmが砂状化する。白色粘土が混じり、一部マンガン鉱染を受け黒色化する。	CL'																							
27				褐色	Eg					26.50m・22°と27.04m・35°の割れ目で囲まれた部分は、全体に軟質化が著しい。一部で幅0.5mmの軟質な白色粘土脈を伴う。原岩組織は残留する。	D'																							
28				にんじい褐色	Dg		Vg	cg	δ	3	27.21m: 傾斜34°の割れ目で交差する割れ目は止まっている場合と横断する場所がある。割れ目沿いに幅1~3mmが砂状化する。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 27.43m: 傾斜20°程度で幅2~5mmの石英脈を挟む。 27.54~27.64m: 傾斜40°前後の割れ目沿いに風化が進み、著しく軟質化し、一部砂状を呈する。 27.81m: 傾斜32°の割れ目と交差する高角度割れ目が横断する。割れ目は幅1~2mmで砂状化する。割れ目に挟在物は伴わず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。 27.81~27.98m: 幅0.5~2mmの軟質な白色粘土が長さ5~10cmで分布する。 28.14m・34°と28.23m・20°の割れ目で囲まれた部分は風化で著しく軟質化し砂状化~細片化する。一部でマンガン鉱染を伴う。28.14mに幅1~3mmの赤褐色粘土を挟む。	CL'																						
29				明褐色	Dg						28.68m: 傾斜43°の割れ目で交差する割れ目は止まっている場合と横断する場所がある。下端側に幅1~2mmの石英脈を伴う。割れ目には細粒部が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。 28.76m: 傾斜44°の割れ目で交差する石英脈や割れ目が止まっている場合がある。割れ目には挟在物が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	CL'																						
				にんじい褐色	Eg						29.38~29.93m: 傾斜10~30°の割れ目沿いに風化で軟質化が著しくなり、割れ目周辺では砂状化する。	D'																						
			明褐色	Dg							CL'																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ピセット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
												N	値															
31				花崗斑岩	明褐灰	Dg	Vg		30.12m: 傾斜35° の割れ目沿いに幅20~30mmが砂状~細片化する。 30.17~30.34m: 傾斜70~80° で湾曲した割れ目が分布し、割れ目を境にコアの上側は硬さ「C」とやや硬質である。 30.53~31.54m: 傾斜30~50° の割れ目と低密着割れ目が主体で、一部は風化で消滅しかかり、不明瞭な部分もある。粘土脈や粘土化部は分布しないが、長石が粘土化し白濁化する。	CL	0 50 100	0 10 20 30 40 50																
32																31.13m: 傾斜44° の割れ目の上端側は幅10~20mmが径5~10mmの花崗斑岩の岩片と硬質な砂状部からなる角礫状。下端側は硬質岩片からなり、岩片には傾斜44° の割れ目に對してほぼ直交する傾斜60° の割れ目が分布する。角礫状部は不連続で、割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められる。 31.54~31.94m: 傾斜40~50° の割れ目が主体で、これらは直線的でシャープに連続するものが多い。粘土の挟入はないが、割れ目沿いに薄く砂状化する。												
33				花崗斑岩	明褐灰	Dg	Vg		32.14m: 傾斜42° で幅0.5~1mmの石英脈が母岩によく密着して連続する。 32.24m: 傾斜65° で幅8~20mmの開口割れ目で、砂と径2~3mmの花崗斑岩の岩片が充填する。 32.38~34.03m: 傾斜10~30° の割れ目が主体で、幅30~100mmで砂状~細片化部を互層状に挟む。	CL	0 50 100	0 10 20 30 40 50																
34																33.83~33.97m: 径5~10mmの花崗斑岩の岩片と粘土化した差質からなる。 34.03~34.69m: 傾斜10~30° の割れ目が主体で、34.56mの傾斜40° の割れ目と交差する高角度割れ目には、止まっているものもあり、系統的なズレは見られない。一部では、割れ目沿いに風化で砂状化する。 34.47~34.69m: 白色化するが、粘土化はない。 34.82~34.95m: 傾斜20~30° の割れ目がほぼ平行に数条分布する。色調境界になっている場合が多い。割れ目にマンガが付着するが、細粒部は伴わない。34.82mの割れ目には幅10mm程度でマンガン濃集部を挟むが、マンガン濃集部内の粒子に定向配列はみられない。												

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
																(N値~深度) 図																							
												0 50 100				0 10 20 30 40 50																							
					明黄褐	Dg																																	
36					明褐灰	Cg																																	
					明黄褐	Vg cg																																	
37																																							
					花崗斑岩	Dg			δ	3																													
38																																							
					明褐灰	Eg Vg dg																																	
39																																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記事	コア採取率 (%)		岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
												← (%)	→ (%)			0	10	20	30	40												50				
41			+	明揚灰			Vg				40.08m・40°, 40.14m・35° の各割れ目沿いに著しく軟質化する。40.17~40.69m: 上下に比べ、割れ目は少なくなる。	0	50	D		0	10	20	30	40	50															
																																Cg	Ng	cg		40.47m・25° と 40.50m・36° に囲まれた部分は著しく軟質化し、砂状~径5mmに細片化する。
																																Eg	Vg	dg		41.19~41.45m: ごく一部で割れ目は残留するが、大半は風化で消滅する。原岩組織は明確に残留するが、コア全体が著しく軟化する。
																																Eg	Vg	dg		41.86m: 傾斜42° の割れ目沿いに幅3cm程度で褐色化が顕著である。幅2mm程度の砂状部を挟む。
Dg	Vg	cg		42.23~42.50m: 幅1~3mmの軟質な白色粘土脈が縞状に分布し、全体に軟質化が著しい。																																
					Eg	Vg	dg		42.27m: 傾斜42° で幅5~8mmの軟質な褐色粘土脈を挟む。粘土の境界は不明瞭で、下端側に注入する。粘土中の粒子の定向配列は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。																											
Dg	Vg	cg		42.49m: 傾斜37° で幅1~2mmの軟質なふいれ赤褐色の粘土脈を不連続に挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。																																
					Eg	Vg	dg		42.50~44.56m: 傾斜10~40° の割れ目や低密着割れ目が主体で、割れ目沿いに弱く風化し、一部に幅1~2mmの白~褐色の軟質な粘土を挟む。																											
Dg	Vg	cg		43.15m: 傾斜15° の割れ目で高角度割れ目が止まっている。幅2mmの風化砂状部を挟む。																																
					Eg	Vg	dg		43.20m: 傾斜36° の割れ目は他の割れ目を止めている。幅3mmの軟質なふいれ赤褐色粘土を挟むが、高角度割れ目にも流入する。いずれの割れ目周辺の岩盤に原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。																											
Dg	Vg	cg		43.74~44.56m: 傾斜10~40° の割れ目と、これに斜交~直交する60~90° の割れ目が分布し、径10~20mmに岩片化する。割れ目沿いに砂状化することが多い。																																
					Eg	Vg	dg		44.05m・10° と 44.08m・10° ないし75° の割れ目で囲まれた部分は、砂状~径5~10mmの細岩片状を呈する。粘土化はない。																											
Dg	Vg	cg		44.41~44.43m: 珪質部で、硬質岩片として残留する。																																
					Eg	Vg	dg		44.56~45.91m: 傾斜20~40° と 60~80° の割れ目が交差し、径5~10mmの岩片状と岩片間の砂状部の基質からなる。基質はやや粘土化が進み、全体は著しく軟質化する。																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	排水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)																																						
														(N 値 ~ 深度) 図																																																					
														0	10	20	30	40	50																																																
46			花崗斑岩	明黄褐		dg	Vg	cg	3	45.10~45.56m: 割れ目が明瞭に残留する。				0	10	20	30	40	50																																																
47			花崗斑岩	明黄褐		dg	Vg	cg	3	45.27m: 傾斜48°の割れ目と交差する割れ目は止まっている。幅3~4mmの不連続で軟質な白色粘土脈を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。				0	10	20	30	40	50																																																
48			花崗斑岩	明黄褐		dg	Vg	cg	3	45.60m: 傾斜70°の連続した割れ目に幅2~3mmの軟質な白~明赤灰色粘土脈を挟む。明赤灰色粘土は不連続である。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。				0	10	20	30	40	50																																																
49			花崗斑岩	明黄褐		dg	Vg	cg	3	●45.91~48.28m: 破砕部 45.91~45.94m: 粘土質凝状部 (Hb) 上端52°, 下端35° ともに直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒と径5mmで粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。軟質。明赤灰色を呈する。幅30mm。 45.94~46.41m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端35°, 下端15° ともに直線的でシャープに連続。径10mm前後の岩片間を幅1~2mmの軟質な白色粘土脈が網目状に分布する。淡黄褐色を呈する。 46.41~46.45m: 砂混じり粘土状部 (Hc-2) 上端15° で直線的にシャープに。下端20° でやや波打ちながら連続。径1~3mmと少量の径5mmで粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。やや硬質。淡黄褐色を呈する。幅25~30mm。 46.45~47.64m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端20°, 下端20° ともにやや波打ちながら連続。径5~20mmの岩組織がほぼ消滅した花崗斑岩の岩片と岩片間を縫うように網目状に分布する幅1~2mmの白色軟質粘土脈及び46.80mでは幅8mm、57°の灰黄褐色粘土などからなる。明黄褐色を呈する。46.77~46.79mのほぼ水平に分布する暗褐色の細粒部については、コア掘削時のコアの供回りによるものである。 47.64~47.65m: 砂混じり粘土状部 (Hc-2) 上端20° でやや波打ちながら。下端10° で直線的にシャープに連続。径1~2mmの石英粒と少量の粘土化した径5mmの花崗斑岩の岩片を含む。やや軟質。明赤灰色を呈する。幅10~15mm。 47.65~48.18m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端10°, 下端34° ともに直線的でシャープに連続。一部で岩組織が残留。一部で消滅した径5~20mmの花崗斑岩の岩片と岩片間を網目状に分布する幅1~2mmの白色軟質粘土脈からなる。明赤灰~明褐色を呈する。 48.18~48.26m: 粘土質凝状部 (Hb) 上端34°, 下端68° ともに直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒と下部部に硬質岩片を残すが、これ以外は粘土化した径5mm前後の花崗斑岩の岩片からなる。やや硬質。灰白~明黄褐色を呈する。幅40~70mm。 48.26~48.28m: 砂混じり粘土状部 (Hc-2) 上端68°, 下端68° ともに直線的にシャープに連続。径1~2mmの石英粒を少量含む。やや硬質。明黄褐色を呈する。幅6~8mm。下端の灰白色の細粒部は不連続である。 48.28~48.67m: 原岩組織が残留した径10~20mmの岩片からなり。一部、岩片間に幅1~2mmの軟質な白色粘土が分布するが、連続性は悪く短い。風化で割れ目は消滅しかかったものが多い。 48.67~49.20m: 原岩組織は残留するが、割れ目は消滅する。 ●49.20~49.91m: 破砕部 49.20~49.82m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端不明瞭。下端44° で直線的でシャープに連続。径10~30mmの岩組織が残留する岩片と。岩片間を幅1~3mmで網目状に分布する白色粘土脈からなる。明褐色を呈する。 49.82~49.84m: 粘土状部 (Hc-1) 上端44° で直線的にシャープに。下端43° でやや波打ちながら連続。径1~2mmの石英粒を少量含む。軟質。明黄褐色を呈する。幅10mm。 49.84~49.91m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端43° でやや波打ちながら連続。下端30° でやや不明瞭である。岩組織が消滅したものが大半の径2~20mmの花崗斑岩の岩片と岩片間の一部が軟質で白色粘土化する。明褐色を呈する。幅10mm。 49.91~50.77m: 一部で径10~50mmの原岩組織と割れ目が残留するやや軟質な岩片を含むが、著しく軟質化したものが主体である。傾斜60~70°とこれに斜交する30~60°の割れ目が主体で、割れ目沿いや岩片間の一部が軟質な白色粘土化する。				0	10	20	30	40	50																																																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	排水量 (L/分)			
														(N 値 ~ 深度) 図																	
											0 50 100			0 10 20 30 40 50																	
		51		明褐灰 にぶい橙		Eg	Vlg	dg		50.70~50.77m: 上端50°, 下端65° とともに直線的にシャープに連続。 下端の一部には幅1~3mmの軟質な白 ~灰赤色粘土脈を伴う。径5~10mmの 粘土化した花崗斑岩の岩片が主体で、 岩片間には幅1~2mmの白~灰黄色の 軟質な粘土が分布する。粘土混じり岩 片状を呈する変質部である。明黄褐色 を呈し、幅は30~70mmと膨縮する。 50.77~51.69m: 径5~10mmの岩片と 粘土化した基質からなる。基質の一部 に幅1~2mmの軟質な白色粘土脈が 短く分布する。 50.80~50.88m: 褐色化が顕著である。	D'																				
		52		灰褐 にぶい黄橙		Dg	Vlg	cg	δ 3	51.12~51.24m: 傾斜約40°で珪質部 が硬質で残留する。傾斜40°の割れ 目が約10mm間隔で発達する。 51.69~52.20m: 傾斜50°~60°と、こ れに斜交する傾斜30~40°の割れ目 が見られる。	CL'																				
		53		花崗斑岩		Eg	Vlg	dg		52.20~53.77m: 著しく軟質化した径 5~20mmの岩片からなり、原岩組織は ほぼ消滅する。部分的に岩片間に幅1 ~3mmの軟質な白色粘土脈が分布する。 ●53.77~54.54m: 破砕部 53.77~53.78m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端65°, 下端65°とともに直線的 に連続。径1~8mmの石英粒や花崗斑 岩の岩片主体で基質は黒褐色粘土か らなる。黒褐色を呈する。幅5~10mm 。53.78~53.80m: 粘土状部 (Ho-1) 上端65°, 下端65°とともに直線的 にシャープに連続。軟質。灰褐色を 呈する。幅5~10mm。 53.80~53.90m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端65°で直線的にシャープに、下 端20°でやや波打って連続。径1~4m mの石英粒と径10mm前後の粘土化した 岩片を主体とし、岩片間の一部に白 色粘土を伴う。灰褐色を呈する。幅1 00~160mm。 53.90~53.93m: 礫混じり粘土状部 (Ho-2) 上端20°でやや波打って、下端25° で直線的にシャープに連続。ごく少 量の径1~2mmの石英粒と径10mm程度 の粘土化した扁平なレンズ状の花崗斑 岩の岩片を含む。やや硬質。浅黄橙 色を呈する。幅25~30mmで膨縮する。 53.93~54.06m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端25°, 下端60°とともに直線的 にシャープに連続。径1~5mmの石英 粒と径5~10mmの粘土化した扁平なレ ンズ状の花崗斑岩の岩片を多く含む。 にぶい黄橙色を呈する。幅100~160m m。 54.06~54.07m: 粘土状部 (Ho-1) 上端60°で直線的にシャープに、下 端64°で大きく波打ちながら連続。 径1~2mmの石英粒を含み、岩片は含 まない。やや硬質。浅黄橙色を呈す る。幅5~15mmで膨縮する。 54.07~54.45m: 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端64°で大きく波打ちながら、下 端46°でほぼ直線的にシャープに連 続し、下端では幅1~2mmの白色軟質 粘土を伴う。全体が粘土化で著しく 軟質化しており、岩片境界はほとん どが不明瞭。54.35~54.40m間では径 1~4mmの石英粒が30~35°で配列す る。54.38~54.45mはマンガン鉱染を 受け、灰黄褐色を呈する。全体は灰 黄~灰黄褐色を呈する。幅190mm (60 °)。 54.45~54.54m: 礫質砂状部 (Hb) 上端46°, 下端55°とともに直線的 にシャープに連続。径1~3mmの石英 粒と径5~10mmの粘土化した岩片を多 く含む。やや硬質。浅黄色を呈する。 幅60~70mm。 54.54~56.11m: 径5~10mmの大型な 石英斑晶を多く含む。全体に珪質で ある。傾斜60~70°とこれに交差す る傾斜40~60°の割れ目が主体で、 割れ目沿いに砂状~細片化する部分 がある。	D'																				
		54		にぶい黄橙		Cg	Vlg	cg		54.45~54.45m: 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端64°で大きく波打ちながら、下 端46°でほぼ直線的にシャープに連 続し、下端では幅1~2mmの白色軟質 粘土を伴う。全体が粘土化で著しく 軟質化しており、岩片境界はほとん どが不明瞭。54.35~54.40m間では径 1~4mmの石英粒が30~35°で配列す る。54.38~54.45mはマンガン鉱染を 受け、灰黄褐色を呈する。全体は灰 黄~灰黄褐色を呈する。幅190mm (60 °)。 54.45~54.54m: 礫質砂状部 (Hb) 上端46°, 下端55°とともに直線的 にシャープに連続。径1~3mmの石英 粒と径5~10mmの粘土化した岩片を多 く含む。やや硬質。浅黄色を呈する。 幅60~70mm。 54.54~56.11m: 径5~10mmの大型な 石英斑晶を多く含む。全体に珪質で ある。傾斜60~70°とこれに交差す る傾斜40~60°の割れ目が主体で、 割れ目沿いに砂状~細片化する部分 がある。	CL'																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化	記号	コア採取率 (%)	岩級区分	標準貫入試験 (N値~深度) 図		孔内水位 (m) / 測定月日	原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	掘進月日	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)
												0	50										
56				花崗斑岩																			
57																							
58																							
59																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																			
														0	10	20	30	40												50																																		
		66	花崗斑岩	にんじ黄橙	灰褐	Vg	cg	δ	2	65.69~67.43m: 上位に比べ割れ目は少ない。風化は66.49m以浅では割れ目の面がごく薄く風化褐色化する程度で、66.49m以深では割れ目周辺まで風化が進み淡褐色化する。粘土化部や粘土脈がわずかに分布する。傾斜20~40°とこれに斜交~直交する50~70°の割れ目が主体で、割れ目の一部はマンガン鉱染を受け、面は黒褐色化するが、軟質化は伴わない。 66.10~66.65m: 傾斜2~5mmの白濁した長石斑晶が多く分布する。	CL'																																																					
		67																																Dg	Vg	cg	γ	3	67.08~67.22m: 径5~10mmの大型な石英斑晶が多く分布する。 67.43~67.70m: 上位よりも割れ目や低密着割れ目が多くなる。 67.55m: 傾斜65°で幅0.5mmの軟質な白色粘土脈を挟む。 67.70~68.32m: 傾斜40~50°の互いに交差する割れ目が主体で、一部に幅0.5~1mmの淡黄色粘土脈を挟む。 67.78~67.95m: 上下傾60°の割れ目に挟まれて、やや軟質化するが、粘土化は伴わない。	CL'																								
		68																																																													Eg	Vg
		69																																Dg	Vg	cg	δ	2	上端50° 下端45°でともにやや波打って連続。径5~10mmの粘土化した岩片主体。下端は幅2mmの硬質な淡褐色粘土脈を伴う。灰褐色を呈する。幅32~35mm。 69.00~69.73m: 大半の割れ目は消滅するが、69.42mに傾斜68°、69.67mに傾斜70°で直線的でシャープな割れ目が残留する。 69.06~69.18m: 傾斜60~80°で幅2~8mmの灰赤色粘土脈が湾曲しながら連続する。 69.73~71.21m: 大半の割れ目が残留し、傾斜10~30°と、これに斜交~直交する50~80°の割れ目が主体で、割れ目沿いに薄く砂状化することが多い。 69.89m・50°の割れ目は面の凹凸が著しいが、そのかみ合わせは良い。69.97m・65°の割れ目は交差する割れ目を止めている。両者とも挟み物はなく、割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	CL'																								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																														
															() 図 N値~深度																																													
				花崗斑岩	に多い黄褐色	Eg	VIg	dg			75.10~75.50m: 幅1~5mmの軟質な白色粘土脈が網状に分布する。	0	D'																																															
76											Dg																						75.50~77.75m: やや硬質な岩片も多く含む。傾斜10~30°が主体で、これらと斜交~直交する傾斜50~70°の割れ目と低密度割れ目が分布する。割れ目の一部は砂状化し、一部には幅1mm前後の軟質な白色粘土脈を挟む。粘土化で白濁した径2~5mmの長石斑晶が多い。	2																										
77											VIg																				cg		3	77.10~77.25m: 全体に軟質化し、一部で軟質な白色粘土が径2~3mmの斑点状~幅1mmの脈状で分布する。77.25~77.75m: 割れ目に幅1mmの軟質な白色粘土脈を挟むことが多い。	4																									
78											Cg																					6	77.75~78.77m: 径10mm前後の硬さ「D」ないし「C」の岩片を含むが、全体には著しく軟質化する。原岩組織は一部で残留するが、割れ目はほぼ消滅する。78.20~78.40m、78.70~78.77mに径5~10mmの硬さ「C」ないし「D」の岩片が残留し、傾斜10~30°と60~70°の消滅しかかった割れ目がわずかに残留する。残留する岩片間には幅1~2mmの軟質な白色粘土が脈状に分布するが、直線的でシャープなもの、78.48mの傾斜63°で幅1mmの粘土脈のみである。	1																										
79											Eg																				VIg	dg		●78.77~79.19m: 破砕部 粘土質凝結部 (Hj) 粘土質凝結部 (Hj) でやや湾曲して、下端63°で直線的にシャープに連続。岩組織は明瞭であるが、割れ目は78.97mの54°以外は消滅する。全体に変質しており、著しく軟質化する。79.15mに深に幅1~3mmの約60°で軟質な灰赤色粘土脈を3箇所伴う。灰褐色~明青灰色を呈する。 79.25~79.85m: 傾斜10~30°と60~70°の割れ目が約10mm間隔で細かく分布し、径10mm程度の岩片に分離し易い。一部で幅0.5mmの白色粘土が付着する。	3																									
			明青灰								79.85m: 傾斜50°で幅2mmの軟質な白色粘土脈を挟む。 79.85~80.08m: 全体に著しく軟質化し、幅1~3mmの軟質な白色粘土が網状に分布する。																																																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 () 図 (N 値 ~ 深度)					原位置試験 (孔内水平懸垂)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ペット	給圧 (kN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)							
															0	10	20	30	40												50						
86			+	灰褐			Vg				85.46m・75° と 85.49m・55° の割れ目に幅0.5~1mmの軟質な白~橙色粘土脈を挟む。 85.53m: 傾斜65° で幅3~5mmの石英脈が母岩に密着して連続する。 85.65~85.68m: 傾斜20° と50° の割れ目が交差し、径5~15mmの岩片状を呈する。粘土は伴わない。																										
87			+	花崗斑岩 にぶい黄橙			Vg				86.04m・40°, 86.30m・60°, 86.43m・55° の各割れ目沿いに幅2~5mm程度砂状化する。																										
			+					Eg	VIg	δ		87.14~88.28m: 径5~40mmの硬さ「C」の岩片と砂状に軟質化した基質からなる角礫状を呈し、基質中には岩片間を縫うように幅1~2mmの軟質な白色粘土脈が分布するが、長さ50mm未満で連続性は悪い。岩片密集部には傾斜10~30° と60~80° の2系統の割れ目が残留する。																									
88			+	灰褐			IVg				87.69~87.84m: 硬質部が中石状に残留する。																										
			+					Vg				88.00~88.35m: 基質部は殆んど分布しないが、径5mm前後の岩片状を呈する。																									
89			+	灰褐			Dg				88.28~89.91m: 傾斜30~40° とこれに斜交~直交する傾斜60° の割れ目が主体で、割れ目の一部に幅1~2mmの軟質な白色粘土脈を挟む。特に、89.68m以深で粘土脈を多く含む。																										
			+					Vg	cg			89.31m: 傾斜40° の割れ目で、直線的にシャープに連続し、交差する割れ目を止めている。割れ目に細粒部の挟在は認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。																									
			+				Eg	VIg	dg	δ	●89.91~89.95m: 破碎部 89.91~89.93m: 硬質粘土状部 (Hb) 上端50° で直線的に、下端45° で波打って連続。径5~10mmの岩片を30%程度含む。やや軟質。明赤灰色を呈する。幅12~15mm。 89.93~89.95m: 粘土状部 (Hc-1) 上端45° で波打って、下端45° で直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒をわずかに含む。軟質。明赤灰色を呈する。幅2~5mm。 89.95~89.98m: 硬さ「C」の中石である。 89.98~90.00m: 上端23°, 下端25° でともに直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒と径5mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片を含む隣接しり粘土脈を呈する。粘土は軟質~やや硬質である。灰白色を呈し、幅15~18mmである。																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																									
															(N)	(m)																																				
91				花崗斑岩	灰褐	Dg	Vg	cg				90.00~90.26m: 傾斜30~50°とこれに斜交~直交する50~60°の割れ目が分布し、径5~50mmの硬さ「C」の岩片を呈することが多い。 ●90.26~90.94m: 破砕部	0 50 100	CL'		0 10 20 30 40 50																																				
												90.26~90.31m: 粘土混じり岩片状部 (H)																					4 (0)	100																		
												90.31~90.37m: 粘土質礫状部 (Hb)																							3 (0)	100																
												90.37~90.66m: 粘土混じり岩片状部 (H)																									1 (0)	100														
												90.66~90.72m: 粘土質礫状部 (Hb)																											4 (0)	100												
												90.72~90.84m: 粘土混じり岩片状部 (H)																													1 (0)	100										
												90.84~91.26m: 傾斜60~70°の割れ目が20~40mm間隔で平行に分布する。これらの割れ目に斜交~直交する傾斜40~50°の割れ目も多い。91.21m付近では、前者は後者を止めている場合と横断する場合が見られる。割れ目の一部には断片的に幅0.5mmの軟質な白色粘土を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 ●91.26~91.52m: 破砕部																															3 (0)	100								
												91.26~91.31m: 粘土混じり礫状部 (H)																																	4 (0)	100						
												91.31~91.33m: 礫混じり粘土状部 (Hc-2)																																			3 (0)	100				
												91.33~91.52m: 粘土混じり (一部粘土質) 岩片状部 (H)																																					3 (0)	100		
												91.52~92.00m: 硬さ「D」ないし「C」の径10~30mmの岩片と岩片間の風化砂の基質からなる。傾斜20~30°の割れ目が主体であるが、殆んどが消滅しかかっている。基質の一部に幅1~3mmの軟質な白色粘土が脈状に分布する。91.94~92.00mは掘削時の攪乱により、径5~10mmに砕けている。																																								

H27-B-1

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)											
														(N 値 ~ 深度) 図																										
11	12.69	10.65		砂礫	黄褐					10.00~10.65m: 砂礫 礫率50%以上で半クサリ礫を一部含む。砂は径0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂。径0.5~1cmの石英が多く含まれる。礫種は花崗斑岩で一部アブライト含む。礫径2~200mmの歪角礫~歪円礫。	0 50 100			0	10	20	30	40	50																					
	12.41	11.05		コア欠如	灰黄褐					10.65~11.05m: スライムシルト混じり細粒砂からなる。																														
	11.84	11.85		砂礫	にぶい褐					11.05~11.85m: 砂礫 礫率50~60%でクサリ礫~半クサリ礫を含む。砂は0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂。径0.5~1cmの石英が多く含まれる。礫種は花崗斑岩。礫径2~100mmの歪角礫~歪円礫。																														
12	11.66	12.10		コア欠如	にぶい黄褐					11.85~12.10m: スライムシルト混じり中粒砂からなる。	0 50 100																													
	11.39	12.49		粗砂	明褐					12.10~12.49m: 粗粒砂 礫率5%未満でクサリ礫を含む。砂は0.5~1.0mmの粗粒砂。礫種は花崗斑岩。礫径2~30mmの歪円礫。																														
13				花崗斑岩	にぶい黄橙	Eg	Vg	cg	e	3	0 50 100																													
14						Dg				12.49~94.07m: 花崗斑岩 12.49~14.84m: D 強く風化した砂状を呈するが、原岩組織は残留する。割れ目は一部消滅しているが、多くは残留している。所々、幅1mm程度の灰白色の粘土が脈状に分布する。割れ目は10~30°の低角度系が主体。 14.84~24.44m: CL 全体に10~30°の低角度割れ目主体で、一部で割れ目沿いに風化で砂状化が進んでいる。18.30m以浅では所々、マンガン鉱染伴う。																														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
															(N 値 ~ 深度) 図																
26			+	花崗斑岩	にぶい橙	Dg	IVg	cg	δ	3	25.03m : 傾斜18°の割れ目沿いに幅7mmの石英脈。マンガン脈を伴う。周辺は黄褐色化する。	0	CL'																		
											26.62~27.60m : D 27.00m以浅では割れ目や原岩組織は残留するが、27.10m以深では両者ともほぼ消滅し砂礫状で採取されている。																				
27	1.13 1.06	27.00 27.10	+	コア欠如	にぶい黄橙	Eg	VIg	dg			27.00~27.10m : コア欠如。	0	D'																		
																															27.60~28.00m : CL 一部で密着度の低い割れ目やゆる割れ目を含み細片化し易いものも含まれている。
28	0.42 0.29	28.00 28.19	+	コア欠如	にぶい橙	Dg	IVg	cg	δ	3	28.00~28.19m : コア欠如。	0	CL'																		
											28.19~28.61m : CL 割れ目沿いの一部で砂状化する部分も含む。																				
29	-0.01 -0.06	28.61 28.68	+	コア欠如	明褐灰	Dg	Vg	cg	δ	3	28.61~28.68m : コア欠如。	0	CL'																		
											28.68~28.84m : CL 割れ目沿いで砂状化する。																				
29	-0.29 -0.35	29.00 29.09	+	コア欠如	明褐灰	Eg	Vg	cg	δ	3	28.84~30.74m : D 締った砂状化を呈する。径10~30mm程度の硬さ「D」岩片が礫状に締った砂状部中に分布し砂礫状を呈する。	0	D'																		
											29.00~29.09m : コア欠如。																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図					原位試験 (孔内水平露露)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)										
																	0	10	20	30	40												50									
31			+	明褐灰	Eg						30.17~30.50m: マンガン鉱染伴う。 30.30~30.53m: 石英多く晶出(一部は変質による2次石英と推定される)。30.38m: 傾斜5°で幅1~3mmの石英脈を不連続に挟む。 30.74~32.48m: CL 硬さ「D」。主体だが部分的に硬さ「E」も含む。上端側の30.74~31.30m間は酸化汚染による黄褐色化が進むが軟化は伴わない。 31.05~31.23m: 熱水変質による粘土化変質。速化変質が著しく、前者では白色系粘土、後者では石英が脈状~晶洞状に晶出している。また、マンガン鉱染と酸化汚染も併い全体として黄褐色の濃い色調を呈する。 31.47m: 傾斜35°で幅5~8mmの灰褐色の砂混じりシルトを挟む。 31.70~32.20m: 割れ目沿いの砂状化が進み「砂混じり岩片状」を呈する。岩片は径10~30mm程度の硬さ「D」で残留するが全体にやや上下に比べ脆くなる。	0	50	100	D'																											
																																										4
32			+	花崗斑岩	Eg	Vg	cg	3	δ		32.48~32.70m: D 原岩組織と割れ目はほぼ残留している。 32.70~34.54m: CL 割れ目沿いに厚さ1~2mm程度で薄く砂状化部を挟む。一部で砂状化が進行する部分もある。白濁化した長石多い。割れ目は10~20°が主体。一部で70~80°割れ目と交差。 33.17m: 15°割れ目と75°割れ目が一部は交差し、一部は75°割れ目が15°割れ目で止まっている。15°割れ目には細粒部が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、15°割れ目に系統的な割れ目も存在しない。 33.40m: 15°割れ目沿いに厚さ20mm砂状化。 33.76m: 5°割れ目沿いに厚さ10mm砂状化。 34.00m以深、密着度の低い潜在割れ目多くハンマーの打撃で細片化する。また、割れ目も消滅しかかっている。 34.03m: 40°幅2~3mm石英脈、密着して連続。	0	50	100	D'																											
33			+	明褐灰	Eg	Vg	cg	3	δ		33.17m: 15°割れ目と75°割れ目が一部は交差し、一部は75°割れ目が15°割れ目で止まっている。15°割れ目には細粒部が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、15°割れ目に系統的な割れ目も存在しない。 33.40m: 15°割れ目沿いに厚さ20mm砂状化。 33.76m: 5°割れ目沿いに厚さ10mm砂状化。 34.00m以深、密着度の低い潜在割れ目多くハンマーの打撃で細片化する。また、割れ目も消滅しかかっている。 34.03m: 40°幅2~3mm石英脈、密着して連続。	0	50	100	D'																											
																																									4	10
34			+	明褐灰	Eg	Vg	cg	3	δ		●34.54~34.59m: 破碎部 34.54~34.59m: 粘土混じり岩片状部(H) 上端10~40°で大きく湾曲、下端11°で直線的に連続。径5mmの花崗斑岩岩片主体で岩片間は粘土状~砂状を呈する。にぶい黄褐色を呈する。幅40~50mm。 34.59m: 凝混じり粘土状部(Hc-2) 上下端とも11°で直線的に連続。径1mmの石英粒を10%程度含む。灰黄褐色を呈する。幅3~4mm。 34.59~35.37m: CL 細片化し易い砂着割れ目が多い。10~30°と50~70°の割れ目がみられる。	0	50	100	D'																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状 図	岩種 区分	色調	硬軟 状態	割れ 目の 状態	風化 状態	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級 区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入) 試験					原位 置試験 (孔内水平距離)	室内 試験	掘進 月日	掘進 速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁 保護	コア チップ ノズル	給 圧 (kN /MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)			
													(N 値 ~ 深度) 図																		
36			+			Dg			35.37~37.15m : D 軟化著しく硬さ「E」主体であるが原岩組織や割れ目はほぼ残留している。部分的に硬質岩片を中右的に含む。	4 (0)	CL'																				
						Eg																									γ
						Cg																									
						Eg																									
37			+			Eg	δ	36.09~36.26m, 36.53~36.62m : 硬さ「C」の硬質部が残留する。	9 (0)	D'																					
						Cg																									
38			+			Eg	δ	36.70m以深で径10~30mmの硬さ「D」ないし「C」の岩片が確状に残留する。	7 (0)																						
						Vg																									
						cg																									
39			+			Dg	δ	37.15~42.00m : CL 0~30°割れ目主体で、割れ目沿いの一部で砂状化する部分も含む。	5 (0)	CL'																					
						Dg																									
						Dg																									
39			+			Dg	δ	37.80m : 5°割れ目沿い幅10~20mm砂状化、微細な白雲母が晶出している。	4 (0)																						
						Dg																									
39			+			Dg	δ	38.56~38.74m : 径20~30mmの硬さ「C」岩片が残留する。	4 (0)																						
						Dg																									
39			+			Dg	δ	39.26~39.70m : 硬さ「C」の径30~50mm岩片が多く残留する。	4 (0)																						
						Dg																									
39			+			Dg	δ	39.90m : 幅10~20mm, 0°で淡緑色が分布(緑泥石濃集部と推定される)。	4 (0)																						
						Dg																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 R Q C D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ノベット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	排水量 (L/分)										
														(N 値)	(深度)																				
		41	花崗斑岩	明褐灰		Dg	Vg cg	3		40.32~40.77m: 割れ目沿いの砂状化進む。硬さ「D」ないし「C」の岩片がその中に残留し、全体として砂状化を呈し、上下に比べやや脆くなる。底角度の割れ目その他、60°~80°の割れ目も分布する。 41.50m・2' 割れ目沿い幅30mm淡緑色化(緑泥石化)し、径0.5~1mmの微細な白雲母が晶出している。 41.95~42.00m: コアチューブ引上時に壊され礫状コア化したもの。硬さは「D」。 42.00~42.41m: D 一部の割れ目と原岩組織は残留している。 42.24~42.28m: 上端15°、下端18°割れ目に囲まれ、厚さ30mm軟質・淡黄色粘土化(変質度4)。上端側は緑色化している。幅1mm白色粘土脈も所々に点在する。マンガン鉱染がみられる。 ●42.41~42.49m: 破砕部 42.41~42.43m: 礫混じり粘土状部 (Hc-2) 上下端各々63°・54°で波打って連続。軟質で、径1~2mmの石英粒はわずか、花崗斑岩岩片を計10%程度含む。にぶい黄褐色を呈する。幅10~15mm。 42.43~42.45m: 礫質粘土状部 (Hb) 上端54°、下端35°でいずれも波打って連続。軟質で、径1~2mmの石英粒、径5~10mmの粘土化花崗斑岩岩片を計20~30%含む。灰白色を呈する。幅5~10mm。 42.45~42.49m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端35°、下端18°でいずれも波打って連続。下端の一部はやや不明瞭。径5~20mmの岩片からなり、岩片の一部は粘土状~砂状。にぶい黄褐色を呈する。幅40mm。 42.49~44.24m: D 著しく軟化するが原岩組織と割れ目の一部は残留している。傾斜10~30°及び60°~80°程度の割れ目がみられる。 43.45~43.48m: 厚さ25mm・23°の石英脈が硬質で分布。 ●44.24~44.53m: 破砕部 44.24~44.31m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端、幅1mm灰赤色軟質粘土で5~13°で湾曲して、下端35°で直線的に連続。やや硬質で、径2~3mm石英粒、径5~10mm(最大25mm)花崗斑岩岩片を30%程度含む。灰黄色を呈する。幅45~65mm。 44.31m: 粘土状部 (Hc-1) 上下端とも35°で直線的に連続。軟質で、径1mmの石英粒をごくわずか(5%以下)含む。灰黄褐色を呈する。幅1~2mm。 44.31~44.53m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端35°で直線的に、下端70°で波打って連続。径5mm前後の粘土化した花崗斑岩岩片と岩片間は白色軟質の脈状~網状粘土脈からなる。灰褐色~淡黄色を呈する。幅140~200mm。 ●44.53~44.83m: 破砕部 44.53~44.66m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端70°で波打って、下端65°で直線的に連続。径5~10mmの粘土化岩片と岩片間の軟質白色粘土(脈状主体)からなる。にぶい褐色~灰白色を呈する。幅5mm。 44.66~44.68m: 粘土状部 (Hc-1) 上端65°で直線的に連続。下端65°で一部波打って連続。軟質で、径1mmの石英粒ごく少量(5%以下)含む。上下端側に直線的なせん断面と同方向に幅1~2mm、長さ5~10mmの脈状のマンガン鉱染部を伴う。灰黄褐色を呈する。幅4~5mm。 44.68~44.70m: 礫質粘土状部 (Hb) 上端65°で一部波打って、下端50~70°で湾曲して連続。やや硬質で、上位の軟質粘土と平行に分布し、径2mm石英粒、径3~5mm粘土化岩片を計20~30%含む。明赤灰色~灰白色を呈する。幅10~20mm。 44.70~44.83m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端50~70°、下端75~85°でいずれも湾曲して連続。下端は幅1mm以下の灰黄褐色軟質粘土脈。径5~10mm粘土化岩片と岩片間の脈状~網状白色~淡黄色軟質粘土脈からなる。岩片間の基質部には黒褐色のマンガン鉱染部が点在する。灰褐色~淡黄色を呈する。幅20~50mm。 44.83~45.36m: D 強く実質し、網目状の灰白色粘土が分布する。原岩組織は残留する。																									
		42		にぶい橙			Vg dg	δ	4																										
		43		にぶい橙			Vg cg	3																											
		44		灰褐 灰白 灰褐 にぶい橙			Vg dg	4																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	排水量 (L/分)	排水量 (L/分)														
														0	10	20	30	40												50													
46				にぶい橙						●45.36~45.49m: 破砕部 45.36~45.39m: 粘土混じり岩片状部 (H) 上端やや不明瞭で62°で波打って、下端は65°で直線的に連続。径5mm前後の細かい岩片からなり、岩片間の一部が粘土化。にぶい橙色を呈する。幅6~10mm。 45.39m: 濃混じり粘土状部 (Hc-2) 上下端とも65°で直線的に連続。一部で幅1mmの2本に分枝・収れんする。やや軟質で、径1~2mm石英粒5~10%含む。灰褐色を呈する。幅2mm。 45.39~46.12m: D 幅1mm前後の軟質な白色粘土脈が多い。強度は残しているが、原岩組織は残留する。 ●46.12~46.17m: 破砕部 46.12~46.16m: 粘土質岩片状部 (Hj) 上端31°でやや不明瞭ながら直線的に、下端35°でやや波打って連続。径6~10mmの粘土化岩片が粘土化基質中に離散に分布。下位のHc-2の粘土と平行した細かい割れ目や幅1mmの白色粘土細脈が分布。淡黄色を呈する。幅3mm。 46.16~46.17m: 濃混じり粘土状部 (Hc-2) 上端35°でやや波打って、下端35~70°で大きく湾曲して連続。やや硬質で、径1~2mm石英粒、径3mm粘土化岩片を20~30%含む。淡黄色~黒褐色を呈する。幅2~10mm。 46.17~47.40m: D 変質し、灰白色粘土が網目状に分布する。 46.73m: 55°割れ目。幅1mmの赤褐色粘土片。赤褐色粘土は途中までせん滅し、赤褐色粘土の直下の灰白色の細粒部も不連続で、いずれも連続性に乏しく、割れ目周辺の原岩組織も明瞭に認められる。また、同様な灰白色の細粒部は、深度46.20mに深に様々な方向で認められる。 ●47.40~47.51m: 破砕部 47.40m: 粘土状部 (Hc-1) 上下端とも58°で直線的に連続。やや軟質で、径1mm石英粒を5%含む。灰褐色を呈する。幅1~2mm。 47.40~47.51m: 輝質砂状部 (Hb) 上端65°、下端55°でいずれも直線的に連続。軟質で、径2~3mm石英粒を20~30%含む。黄褐色を呈する。幅70mm。 47.51~47.80m: D 原岩組織と多くの割れ目は消滅せずに残留している。砂、マンガンの塊状物をもつ割れ目が多い。 47.80~48.80m: CL 20~30°割れ目沿いに著しく軟化した硬さ「E」も所々に分布する。白色粘土細脈やマンガン脈を伴う。 48.80~49.17m: D 著しく軟化するも岩組織と割れ目の一部が残留している。 49.06mに62°の割れ目が分布。挟在物のない平滑な割れ目。割れ目の連続性は乏しい。 ●49.17~49.22m: 破砕部 49.17~49.20m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端25°で波打って、下端30~36°で湾曲して連続。軟質で、上端には幅1~2mmの直線的な暗褐色粘土脈を伴う。径2~3mm石英粒、径5mm粘土化岩片を20~30%含む。灰白色~明黄褐色を呈する。幅10~25mm。 49.20~49.22m: 粘土状部 (Hc-2) 上端30~36°、下端35~60°でいずれも湾曲して連続。軟質で、弱い綿状構造がみられる。径1~2mm石英粒を5~10%含む。明黄褐色を呈する。幅7~15mm。 49.22~49.27m: 上端35~60°で湾曲し、下端23°で波打って連続。上位の破砕部[]に比べて硬質で、径2~10mmの石英粒や岩片も残る。原岩組織が明瞭に残る。岩片間に分布する粘土脈に系統性がない。下位の礫岩部との境界は漸移的である。にぶい黄橙色を呈する。 49.27~49.40m: D 20~30°割れ目が多く残留するが割れ目沿いに風化・砂状化が進む。 49.40~51.94m: CL 硬さ「C」の岩片が主体で一部に軟化した「D」も含む。30°前後の割れ目が主体で、一部でこれに直交~斜交する60°前後の割れ目が分布。 51.06m以深では風化と変質は軽微となる。硬さ「B」と堅硬な岩片も混ざる。 49.45m: 傾斜65°で幅15mmのアブライト脈を挟む。																																	
47				にぶい褐																																							
48				黄褐																																							
49				にぶい黄橙																																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・r/MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)												
																(N値~深度) 図																											
51			花崗斑岩	にぶい橙	Cg			δ	3			50.12~50.15m: 傾斜50°程度。幅10~20mmで岩片化した赤褐色部を伴う。	0			0	10	20	30	40	50																						
				Dg									51.06~51.94m: 割れ目や密着度が低い層に割れ目が多い。潜在割れ目も褐色化している。																														
				Vg					γ	2			51.24~51.62m: 割れ目挟在物は殆んど分布しない。これ以外では割れ目沿いに幅1mm砂状化するものが多い。所々に幅0.5~1mmで密着した石英脈が分布。																														
				Cg					bg				51.63m: 15°割れ目沿い厚さ10mmが砂状化。																														
52				灰褐									51.94~52.72m: D 著しく軟化するが原岩組織と割れ目は残留している。																														
				Eg									52.16m: 23°厚さ3mmの軟質褐色粘土を挟む。上端にマンガンを伴う。																														
				ViE	dg								52.32~52.50m: 硬さ「D」が主体。																														
				Vg	cg								●52.72~52.81m: 破砕部 52.72~52.80m: 粘土混じり岩片状部 (H) 上端56°で直線的に。下端14°で波打って連続。径5~10mm岩片(硬さ「D」)と岩片間の幅1~2mm脈状~径2~5mm斑点状粘土部からなる。明褐色を呈する。幅40~90mm。 52.80~52.81m: 濃混じり粘土状部 (Hc-2) 上端14°で波打って。下端14°で直線的に連続。軟質で。径1~2mm石英粒。径2~3mm粘土化岩片を10~20%含む。灰白色を呈する。幅7~10mm。 52.81~53.17m: D 変質し、軟質化している。30~50°程度の割れ目がみられる。																														
				ViE	dg								●53.17~53.22m: 破砕部 53.17m: 濃混じり粘土状部 (Hc-2) 上下端29°で直線的に連続。軟質で。径1~2mm石英粒を10%程度含む。灰褐色を呈する。幅2mm。 53.17~53.22m: 粘土混じり岩片状部 (H) 上端29°。下端27°でいずれも直線的に連続。径5mm前後の粘土化岩片と岩片間の粘土~砂状部からなる。全体に明褐色を呈するが、上下端付近にはマンガン鉱染を伴い黒褐色化する。幅40mm。 53.22~53.45m: CL 20~30°の直線的な割れ目が多い。																														
				Dg									53.45~53.54m: D 締った砂状を呈する。原岩組織と一部の割れ目は残留。																														
				Eg									53.54~56.66m: CL 傾斜30~50°の割れ目が主体となる。																														
54				にぶい橙									53.87~54.10m: 石英が多く晶出し径10~20mm斑点状~幅5~15mm・45~65°の脈状で分布する。																														
												53.87~54.00m: 建築でレンズ状の石英も分布する。																															
												54.00~54.60m: 石英脈なし割れ目沿いに砂状化し、全体がやや脆くなる。また同区間ではマンガン鉱染も伴い黒褐色を帯びる。																															
												54.82m: 傾斜50°で幅2mm以下の黄褐色粘土を挟む。周辺は一部緑色化する。																															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																																																									
															0	10	20	30	40											50																																																																																																								
56			花崗斑岩	にぶい橙			Dg		δ		55.00m: 傾斜50° で幅2mmのマングンを挟む。 55.25m: 55° のシャープで直線的な割れ目を境とし、55.25~56.66mは硬さ「C」で硬質となる。ただし、割れ目沿いの一部では風化で砂状化を伴う。粘土を挟んでいるところが多い。	CL'																																																																																																																										
57							Eg				VIg																						dg	ε	56.43~56.47m: 35~40° 割れ目沿いに軟化し、硬さ「D」を呈する。 56.66~56.84m: D 風化で締った砂状化呈する。径10~20mmの硬さ「D」の岩片が硬質に残留する。 56.84~58.77m: CL 56.84~57.90m: 硬さ「D」岩片主体で、一部に硬さ「E」が残留する。	D'																																																																																																		
58							Dg				δ																							57.30m以遠では、割れ目沿いに風化・砂状化が進む。 57.75~57.90m: コアチューブ引上時に離脱コア化したものと推定される。 57.90~58.34m: 硬さ「C」岩片主体。57.96m及び58.05mにそれぞれ45°、50° で幅1~2mm石英脈が密着して分布。各割れ目沿いに軽微なマンガン脈染染ける。 58.28m: 割れ目交差部周辺で砂状化。58.34~58.77m: 硬さ「D」岩片主体。一部の割れ目沿いで砂状化が進み、割れ目が消滅しかかっているものもある。 58.77~59.82m: D 風化で著しく軟化し締った砂状化部が主体。原岩組織や割れ目は残留しており、一部では砂や灰白色の粘土脈を挟んでいる。 59.18m: 20°、厚さ5mmの軟質な灰白色粘土挟む。 59.28~59.48m: コアの擾乱により割れ目が消滅している。 59.60~59.65m: 3本のほぼ平行な割れ目が55°前後で分布。砂や灰白色の粘土薄層(厚0.5~1mm)挟む。 ●59.92~59.95m: 破砕部 59.82~59.85m: 粘土混じり岩片状部(H) 上端22° 一部不明瞭で波打って、下端28° で直線的に連続。径2~5mm石英粒、径5~10mm粘土化岩片と粘土化した岩片間からなる。にぶい褐色を呈する。幅30mm。 59.85m: 粘土状部 (Hc-1) 上端28°、下端20° でいずれも直線的に連続。軟質で、径1~2mm石英粒をわずかに(5%以下)含む。灰褐色~灰白色を呈し、織状構造がみられる。幅5~7mm。 59.85~60.99m: CL	CL'																																																																																																			
59							Eg																											VIg																																																		dg	ε	59.92~59.95m: 破砕部 59.82~59.85m: 粘土混じり岩片状部(H) 上端22° 一部不明瞭で波打って、下端28° で直線的に連続。径2~5mm石英粒、径5~10mm粘土化岩片と粘土化した岩片間からなる。にぶい褐色を呈する。幅30mm。 59.85m: 粘土状部 (Hc-1) 上端28°、下端20° でいずれも直線的に連続。軟質で、径1~2mm石英粒をわずかに(5%以下)含む。灰褐色~灰白色を呈し、織状構造がみられる。幅5~7mm。 59.85~60.99m: CL	D'																																															
							Dg																											VIg																																																		dg	ε	59.92~59.95m: 破砕部 59.82~59.85m: 粘土混じり岩片状部(H) 上端22° 一部不明瞭で波打って、下端28° で直線的に連続。径2~5mm石英粒、径5~10mm粘土化岩片と粘土化した岩片間からなる。にぶい褐色を呈する。幅30mm。 59.85m: 粘土状部 (Hc-1) 上端28°、下端20° でいずれも直線的に連続。軟質で、径1~2mm石英粒をわずかに(5%以下)含む。灰褐色~灰白色を呈し、織状構造がみられる。幅5~7mm。 59.85~60.99m: CL																									D'																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 月日	掘進 速度 (cm/時)	孔径 (mm) 孔壁保護	コア チューブ ノズ レット	給 水 圧 (kN / MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)															
													0	10	20	30	40												50														
			+	花崗斑岩	い ご い せ	Dg	IIIg IIg Bg IVg	δ 3	60.54m以浅は割れ目沿いに風化が進み、硬さ「E」も含まれている。60.54m以深は硬質となり硬さ「C」が主体である。前者では、割れ目沿いにマンガン鉱染を伴う。60.32~60.46m間は黄色味を帯びる。	8 [8]	CL'																																
61						Cg			60.99~61.39m : CH 堅硬。割れ目に挟在物挟まない。																																		
										IIIg	γ 2	61.38~63.61m : CM 上端部の61.38~61.42m間と62.82m以深は、割れ目沿いに風化が進み砂状化する部分があるが、その他区間では割れ目に挟在物はほとんど分布しない。	12 [13]	CM'																													
62						Bg		62.53~62.57m : 互いに直交する割れ目交差部で一部細片化するが、砂状化や粘土化による劣化は伴わない。																																			
										IVg	δ 3	62.82~63.61m : 岩片は硬いが(硬さ「D」)、割れ目沿いに幅2~10mm程度砂状~細かく片状化する。粘土化部や粘土脈は挟まない。	10 [10]																														
63										cg		63.61~64.00m : D 割れ目沿いの風化が著しく進み砂状化する。径10~60mm硬さ「D」「C」岩片が残留し、「砂礫状」呈する。一部で割れ目が残留している。 63.90~63.94m : 60° 幅1~3mm石英脈が2条分布。	10 [10]	D'																													
										VIg	δ 2	64.00~64.33m : CL 50~60°と30° 割れ目がほぼ直交し、交差部では径10mm程度に細かく岩片化する部分もある。																															
64										Vg		64.33~66.07m : CM 割れ目の多くは割れ目沿いに薄く砂状化する。	16 [16]	CM'																													
										Bg		IVg																															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
														0	10	20	30	40												50		
		66	花崗斑岩 にふい橙	Bg IVg	cg	IVg	IVg	δ	2	65.22~65.30m: 40° と 70° 割れ目が交差し、幅10~20mmと風化砂状部が拡大している。また、わずかながら白色粘土や微細な黄鉄鉱、セリサイトも伴っている。	10 (10)	CM'																				
				Cg Vg	cg	Vg	Vg	δ			65.90m: 径20mmと大型な石英斑晶が晶出。	9 (9)	CL'																			
				VIg dg	dg	VIg	VIg	ε	3	66.62~67.14m: D 径5~20mm硬質岩片と風化による砂状部からなり、砂礫状を呈する。																						
		67		Eg Vg	cg	Vg	Vg	ε			66.85m以深では原岩組織や割れ目の一部も残留する。また、部分的に灰白~淡黄色粘土も点在する。																					
				Dg Vg	cg	Vg	Vg	δ			66.97m: 傾斜55° で幅1~5mmの黄灰色粘土を挟む。																					
				Bg IVg	cg	IVg	IVg	δ	2	67.14~67.27m: CL 50° 割れ目沿いに軟化が進む。	67.27~67.80m: CM 割れ目沿いに砂状化するものが多い。	9 (9)	CM'																			
				Eg VIg dg	dg	VIg	VIg	ε			67.40~67.47m: 径5~10mmに砕け角礫状化する。																					
		68		Cg Vg	cg	Vg	Vg	δ	3	67.80~67.93m: D 50~60° 割れ目沿いに砂状化し、径10mm硬質岩片を含む砂礫状を呈する。	67.93~68.15m: CL 45° 割れ目沿いに薄い砂状部を挟む。																					
				Bg IVg	cg	IVg	IVg	γ	2	68.15~68.60m: CM 割れ目に挟在物は分布しない。																						
				Eg VIg dg	dg	VIg	VIg	ε			68.43~68.49m: コアチューブ引き上げ部の擾乱で、径5~20mm礫状~片状に砕けているが砂や粘土は挟まない。	12 (12)	CL'																			
				Cg Vg	cg	Vg	Vg	δ			68.60~68.65m: コアチューブ引き上げ部の擾乱で砂状化している。																					
		69		Eg Vg	cg	Vg	Vg	δ	3	68.60~68.65m: コアチューブ引き上げ部の擾乱で砂状化している。	68.79~68.90m: 硬さCの硬質部を含む。																					
				Dg Vg	cg	Vg	Vg	δ			68.96~69.06m: 風化が著しく明黄褐色を呈する。																					
				Eg VIg dg	dg	VIg	VIg	ε			69.05~69.56m: CL 30~50° 割れ目主体。密着度の低い潜在割れ目も多く含む。割れ目沿いに厚さ1mm程度と薄く砂状化することが多い。																					
				Dg Vg	cg	Vg	Vg	δ			69.07~69.10m: 幅3cmでマンガンが濃集する。	3 (3)																				
				Eg VIg dg	dg	VIg	VIg	ε			69.56~69.70m: D 少量の白色粘土細脈を伴う。																					
				Dg Vg	cg	Vg	Vg	δ	3	●69.70~69.73m: 砂礫部 69.70m: 粘土状部 (Hc-1) 上下端55° で直線的に連続。軟質で、にふい黄褐色を呈する。幅1mm。 69.70~69.73m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端55° で、下端57° でいずれも直線的に連続。径3~10mm硬さE (粘土化)。Dの岩片で岩片間の一部は粘土化する。灰黄色を呈する。幅23mm。 69.73~74.10m: CL 硬さ「D」と硬さ「C」の区間が交互に出現する。硬さ「D」では割れ目に砂などの挟在物が分布するが、硬さ「C」区間では挟在物はほとんど分布しない。																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入 () 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
														0	10	20	30	40												50			
71			+	花崗斑岩	にぶい橙	D _g	V _g	cg	δ	70.06~70.59m: 45° 割れ目沿いに風化で砂状化する。	0																						
										70.43~71.27m: 硬さ「C」のうち、70.49~70.59mでは径5mmの白濁化した長石が多い。70.59m以深では少ない。																					10		
										71.27~71.60m: 45~60° 幅1mm以下の軟弱な灰白色粘土が脈状に分布する。その一部は風化で褐色化する。71.37~71.50m: 径10mm前後の大型の石英斑晶が点在。岩片も硬さ「C」と周囲より硬質化している。																					9		
										71.88m: 0~10° 幅1mm石英脈が密着して連続。																					6		
72			+	花崗斑岩	にぶい橙	D _g	V _g	cg	δ	71.27~71.60m: 45~60° 幅1mm以下の軟弱な灰白色粘土が脈状に分布する。その一部は風化で褐色化する。71.37~71.50m: 径10mm前後の大型の石英斑晶が点在。岩片も硬さ「C」と周囲より硬質化している。	0																						
										71.37~71.50m: 径10mm前後の大型の石英斑晶が点在。岩片も硬さ「C」と周囲より硬質化している。																						9	
										71.88m: 0~10° 幅1mm石英脈が密着して連続。																						6	
										72.10~72.24m: 硬さ「C」区間では割れ目挟在物はほとんど分布しない。長石の一部は白濁化する。																						6	
73			+	花崗斑岩	にぶい橙	D _g	V _g	cg	δ	72.10~72.24m: 硬さ「C」区間では割れ目挟在物はほとんど分布しない。長石の一部は白濁化する。	0																						
										72.24~73.38m: 厚さ25~40mmで締った砂状化を呈する。変質している。原岩組織は残留している。																					8		
										73.35~73.38m: 厚さ25~40mmで締った砂状化を呈する。変質している。原岩組織は残留している。																					8		
										73.65~73.76m: 30° と60° の割れ目が交差し。径10~50mmの岩片状コアを呈する。																					8		
74			+	花崗斑岩	にぶい橙	D _g	V _g	cg	δ	72.74~74.10m: 硬さ「D」主体だが、硬さ「C」の岩片も含んでいる。割れ目沿いに風化、砂状化することがある。	0																						
										73.35~73.38m: 厚さ25~40mmで締った砂状化を呈する。変質している。原岩組織は残留している。																					8		
										73.65~73.76m: 30° と60° の割れ目が交差し。径10~50mmの岩片状コアを呈する。																					8		
										74.10~74.36m: CM																					6		
			+	花崗斑岩	にぶい黄橙	V _g	dg	ε	3	74.36~74.50m: 破砕部	0																						
										74.36~74.40m: 礫質砂状部 (Hb) 上端27° で直線的に、下端30° で不明瞭に湾曲して連続。軟質で、径2~3mm石英粒。粘土化した径5mm岩片を約10%含む。にぶい黄橙色を呈する。幅0~30mm。																					6		
										74.40~74.41m: 粘土状部 (Hc-1) 上端30°、下端30° でいずれも湾曲して連続。軟質で、径1mm石英粒をわずかに (5%以下) 含む。灰褐色を呈する。幅7mm。																					6		
										74.41~74.50m: 礫質砂状部 (Hb) 上端30° で湾曲して連続。下端はコアチューブ引き上げによる擾乱部で不明。軟質で、径2~3mm石英粒。粘土化した径5~30mm岩片を10~20%含む。にぶい黄橙色を呈する。幅75mm以上。																					6		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																													
														(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)																																								
76			花崗斑岩	灰褐	Vg	cg	δ	3		75.00~75.57m: 原岩組織は残置しているが、多くの割れ目は消滅している。	0 50 100	D		0 10 20 30 40 50																																									
																																		●75.57~76.00m: 破砕部 75.57~75.71m: 粘土混じり岩片状部 (Hj)																					
																																		上端不明瞭ながら25°で、下端68°で波打って連続。径5~20mm岩片からなり、岩片間は粘土化~砂状化する。灰黄褐色を呈する。幅90~120mm。 75.71~75.73m: 縦混じり粘土状部 (Hc-2)																					
																																		上端68°で波打って、下端68°で直線的に連続。軟質で、径1~3mm石英粒と径3mm岩片を5~10%含む。灰褐色を呈する。幅10~12mm。 75.73~75.93m: 縦質粘土状部 (Hb)																					
																																		上端68°で直線的。下端64°で波打って連続。硬質で、径2~4mm石英粒、径5~10mm岩片を10~15%含む。石英粒は直線的なせん断面方向に配列している。明褐色~灰褐色を呈する。幅55mm。 75.93~76.00m: 粘土混じり~粘土質岩片状部 (Hj)																					
77																																		上端64°で波打って、下端は不明瞭(30°?)に連続。径5~10mm岩片と岩片間の粘土からなる。明褐色を呈する。幅60mm以上。 76.00~76.91m: D 硬さ「C」の径5~20mm岩片と綿った砂状からなり、全体的には綿った砂状を呈する。 76.54~76.70m: 硬さ「C」の岩片部。 76.70~76.91m: 岩片はわずかになり、代って幅1~2mm軟質白色粘土脈が多くなる。 76.91~77.19m: CL 割れ目沿いに砂状化するものもある。 77.10m: 傾斜75°幅1mmの石英脈を挟む。 77.19~78.00m: D 著しく軟化するが、原岩組織と割れ目の一部は残置する。 77.63~77.80m: ロッド引上げ時にコアが乱れ、塊状を呈している。 78.00~78.43m: CL 60~80°割れ目主体。これに斜~直交する30°も混入。割れ目の一部は厚さ2~3mmの砂を挟む。 78.43~78.72m: D 風化・砂状化が拡大し、綿った砂塊状を呈する。 78.60m周辺はマンガン鉱染を受ける。																					
																																		●78.72~78.87m: 破砕部 78.72~78.87m: 粘土混じり岩片状部 (Hj)																					
																																		上端は31°、幅5mm褐色粘土脈で波打って、下端は60°で直線的に連続。径5mm程度の岩片からなり、岩片間の一部に幅1mmの軟質白色粘土が脈状~斑点状に分布。にぶい黄褐色を呈する。幅130~140mm。 78.87m: 粘土状部 (Hc-1)																					
																																		上端60°で、下端60°でいずれも直線的に連続。軟質で、径1mm石英粒をわずかに(5%以下)含む。灰褐色を呈する。幅1~2mm。 78.87~82.51m: CL 78.87~79.27m: 硬さ「D」主体。長石の白濁化が多い。傾斜85~90°の割れ目が分布する。 79.02m: 55°厚さ3mm褐色砂~径2mm細片化岩片挟む。 79.27~80.66m: 硬さ「C」主体。上端側の79.27~79.59mは硬さ「B」と堅硬。 79.54m: 傾斜50°で幅0.5~1mmの灰白色粘土を挟む。 79.69~79.95m: 褐色化するが珪化のため硬さ「C」と硬質。 79.96~80.23m: 45°前後の割れ目が多い。これらの割れ目には褐色粘土やマンガンを厚さ0.5~3mmで挟んでいる。																					
79										にぶい黄褐色																																													
										灰褐																																													
										にぶい橙																																													
										灰褐																																													

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																																																																																																																																																																												
															0	10	20	30	40												50																																																																																																																																																																																																																											
81			花崗斑岩	灰褐				γ			80.30~80.40m: 割れ目沿いに砂状化が進む。 80.30~80.35m: コアチューブ引上げ時に発生した角礫状コア。																																																																																																																																																																																																																																															
											Dg																						cg	3	80.66~81.87m: 硬さ「D」中に硬さ「C」の径2~3cm岩片が断片的に分布。 80°前後の高角度割れ目が多い。																																																																																																																																																																																																																							
											Vg																						δ		81.17m: 55°割れ目に厚さ10~15mmで砂と褐色粘土挟む。挟み物中と割れ目周辺に径0.5mm以下の微細な白雲母伴う。周辺は幅1cm程度緑色化している。																																																																																																																																																																																																																							
82											Cg																								81.82~81.87m: コアチューブ引上げ部で締った砂礫状とする。 81.87~82.51m: 割れ目沿いに砂状化する部分も含まれる。10~30°と50~70°程度の割れ目がみられる。																																																																																																																																																																																																																							
											Eg																						Vg	dg	ε																																																																															82.51~82.62m: D風化で砂状化する。径0.5~1cmの花崗斑岩岩片が疎状に分布する。																																																																																																																																								
											Cg																						Vg	cg	δ																																																																															82.62~82.94m: CL割れ目沿いに砂状化進む。一部で幅1~2mm白色粘土脈挟む。																																																																																																																																								
83											IVg																																																																																																							82.94~84.09m: CMゆる割れ目や密着度の低い割れ目を多く含んでいる。割れ目の挟み物は少ない。30~50°と70~90°の割れ目が3~10cm間隔で分布する。																																																																																																																																								
											Bg																						bg	γ	2																																																																															83.30~83.47m: 長石の一部が白濁化する。																																																																																																																																								
											IIIg																																																																																																							84.07~84.09m: 上端45°、下端65°割れ目で囲まれ、砂状化~細片状化する。厚さ1~10mmで厚さ3mmレンズ状の淡黄色軟質粘土とマンガン鉱染伴う。 84.09~84.92m: CH60~80°の高角度の「ゆる割れ目」を伴うが、密着度は高くハンマーの打撃でも分離しない。 84.50m: 36°割れ目の一部に厚さ2~3mmのマンガンを伴う。 84.82~84.92m: コアチューブ引き上げ時の擾乱により、割れ目交差部で一部片状コア。岩片自身は堅硬で劣化や挟み物は伴わない。 84.92~85.38m: CL下位破砕部の直線的なせん断面と同方向の50~60°割れ目やゆる割れ目が多い。																																																																																																																																								
											Cg																						Vg																																																																																																																																																																																																																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ペット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
															0	10	20	30	40												50																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
86			+	花崗斑岩	灰褐	Cg	IVε	cg	δ	3		85.01m: 幅1mm以下, 22° 石英脈が50° 割れ目と斜交して連続。 ●85.38~85.41m: 破碎部 85.38~85.41m: 粘土混じり岩片状部 (H) 上端45~50° で1箇所屈曲するが、これ以外は直線的に、下端47° で直線的に連続。軟質で、径2~3mm石英粒と径3~5mm粘土化岩片と基質の砂状~粘土状部からなる。にぶい黄褐色を呈する。幅20~25mm。上端の割れ目沿いにマンガン鉱染受け黒褐色化する。 85.41m: 粘土状部 (Hc-1) 上端47°、下端47° でいずれも直線的に連続。軟質で、径1mm石英粒をごくわずか (5%以下) 含む。灰黄褐色を呈する。幅2mm。 85.41~85.92m: CL 上位の破碎部の直線的なせん断面と同方向の40~60° 割れ目主体、砂や粘土を挟む。所々、割れ目沿いに幅1~2cm程度緑色化を呈する。 85.92~86.43m: D 割れ目沿いに砂状化が拡大。径10~30mm硬さ「C」岩片を多量に混えた砂状を呈する。 86.43~86.86m: CM 堅硬であるが、割れ目が多い。挟在物はほとんど分布しない。 86.86~87.20m: CL 50~60° 割れ目沿いを主体に軟化が進む。断片的に硬さ「C」岩片も礫状に残留している。 87.20~87.51m: D 風化で締った礫質砂状を呈する。幅1~3mmの橙色粘土も脈状に分布する。 87.51~93.53m: CL 割れ目沿いに風化が進んでいる。全体に硬さ「C」の岩片が主体である。割れ目には風化起源の締った砂、粘土脈、マンガンを含むことが多い。 87.81~87.90m: 傾斜60° 程度で細片化著しい。マンガンを伴う。 87.90~88.51m: 硬さC主体、傾斜20° と50° の割れ目が交差し細片化している。 88.06m: 傾斜52° で幅2mmの赤褐色粘土を挟む。周辺は幅5mm程度で緑色化している。 88.51~89.10m: 40~50° の割れ目は1~2cm間隔で平行に分布。割れ目には幅1mm以下の灰白色粘土挟む。それと60° 斜交~直交する割れ目や幅1mm石英脈も分布。 89.25~89.56m: 上下に比べやや割れ目が少なくなる。 89.56~89.86m: 割れ目沿いに風化が進み全体脆くなる (硬さD)。	0 50 100 8 (8) 10 (10) 4 (4) 4 (4) 6 (6)	CL'																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
																																										87			+	花崗斑岩	灰褐	Dg	Vε	cg	δ	3																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
																																																																									88			+	花崗斑岩	明黄褐	Eg	VIε	dg	ε																																																																																																																																																																																																																																																																														
																																																																																																								89			+	花崗斑岩	灰褐	Bg	IVε	cg	γ	2																																																																																																																																																																																																																																														
																																																																																																																																							89			+	花崗斑岩	灰褐	Eg	VIε	dg	δ	3																																																																																																																																																																																																															
																																																																																																																																																																						89			+	花崗斑岩	灰褐	Bg	IVε	cg	γ	2																																																																																																																																																																																
																																																																																																																																																																																																					89			+	花崗斑岩	灰褐	Bg	IVε	cg	γ	2																																																																																																																																																	
																																																																																																																																																																																																																																					89			+	花崗斑岩	灰褐	Bg	IVε	cg	γ	2																																																																																																																	
																																																																																																																																																																																																																																																																					89			+	花崗斑岩	灰褐	Bg	IVε	cg	γ	2																																																																																	
																																																																																																																																																																																																																																																																																																				89			+	花崗斑岩	灰褐	Bg	IVε	cg	γ	2																																																		
																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			89			+	花崗斑岩	灰褐	Bg	IVε	cg	γ	2																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)				
															(N 値 ~ 深度) 図																			
91	46.30	94.07	+	花崗斑岩	灰褐	Bg	IV _g	γ	2		90.70~91.00m: 傾斜80° の割れ目が発達する。	0																						
							Cg	V _g	δ																							3		
92	46.30	94.07	+	花崗斑岩	明褐灰	Bg	IV _g	γ	2		91.16~91.25m: 低角度割れ目と高角度割れ目が交差し、径10mm前後の細岩片状に砕けている。下端にマンガン鉱染伴う。	0																						
							Cg	V _g	δ																							3		
93	46.30	94.07	+	花崗斑岩	明褐灰	Bg	IV _g	γ	2		92.32m: 53° 割れ目沿いに径0.5mm前後の鐵屑(セリサイト?)が晶出している。周辺は幅3mmで緑色化する。	0																						
							Cg	V _g	δ																								3	
94	46.30	94.07	+	花崗斑岩	暗緑灰	Bg	IV _g	γ	2		92.60~94.07m: 傾斜30~90° の割れ目にマンガンを挟むことが多い。	0																						
							Cg	V _g	δ																								3	
94	46.30	94.07	+	花崗斑岩	暗緑灰	Bg	IV _g	γ	2		93.53~93.61m: D 割れ目沿いに風化による砂状化が拡大し、一部で砂礫状を呈する。	0																						
							Cg	V _g	δ																								3	
94	46.30	94.07	+	花崗斑岩	暗緑灰	Bg	IV _g	γ	2		94.00~95.85m: CL 94.07~94.86m: 上下端65° で貫入するアブライト。上下端とも割れ目化し、破砕や変質粘土は伴わない。貫入面(65°)に60° 斜交~直交する割れ目が発達するが密着しているものが多い。一部で層状の模様(65~60°)をもつ。直上の花崗斑岩と直下のアブライトに破砕や変質は与えていない。	0																						
							Cg	V _g	δ																									
94	46.30	94.07	+	花崗斑岩	暗緑灰	Bg	IV _g	γ	2		94.88~97.00m: アブライト 94.88~95.67m: 傾斜30~60° の割れ目の一部に幅1~2mmの灰白色粘土やマンガンを伴う。	0																						
							Cg	V _g	δ																									3

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
															0	10	20	30	40												50							
96			[Pattern: Asterisks]	アブライト	明褐灰	Cg	Vg	δ	3		95.22~95.25m: 割れ目沿いに砂状化・マンガン伴う。 95.30~95.45m: 緑色帯びる。	6 [4]	CL'																									
97	48.37	97.00		[Pattern: Asterisks]	アブライト	灰褐	Cg	Vg	γ	2		95.85~96.58m: CM 硬さ「B」と硬いが、密着度の低い割れ目が多く、一部で細片化する。傾斜10~20°とそれと直交する50°の割れ目がみられる。 96.00~96.10m: 割れ目沿いに幅1~2mm砂状化し、灰白色粘土脈も挟む。	10 [10]	CM'																								
97			[Pattern: Asterisks]	アブライト	花崗斑岩	Bg	IVg				96.58~97.11m: CL 傾斜50°程度の割れ目が多く、一部に幅1mmの灰白色粘土や砂状化した部分を挟む。 96.71~96.76m: 傾斜50°の割れ目が密集し細片化する。コアは軟質である。 97.00~140.00m: 花崗斑岩 全体に珪化し、組織が不明瞭になっている。所々、アブライトを挟む。	6 [4]	CL'																									
98			[Pattern: Asterisks]	アブライト	にがい橙 [Pattern: Asterisks]	Eg	Vg	ε	4		97.57~101.85m: アブライトを挟む。 花崗斑岩との境界は上端45°の割れ目。下端90°で付着している。 97.57~97.88m: D 硬さ「C」の岩片も残留するが、全体は締った土砂状。下端付近の97.85mに40°幅1~5mm赤褐色藍物脈が分布。全体にマンガン脈を挟み、97.71~97.85m間は大きくうねった割れ目が密集する。 97.88~100.51m: CM 硬質で風化と変質も弱くなる。密着度が低い割れ目やゆる割れ目が多く10cm以上の柱状コアはごくわずか。割れ目挟在物はほとんど認められない。 97.88~101.00m: 割れ目沿いに酸化・マンガン汚染がみられる。	13 [26]	CM'																									
99			[Pattern: Asterisks]	アブライト	褐灰	Bg	IVg	bg	γ	2	99.03m: 35°割れ目に微細な黄鉛鉱が晶出している。	12 [12]	CM'																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
														(N) 値	0	10	20	30												40	50
101	51.34	101.20	[花崗斑岩]	アフライト	褐灰	Bg	IVg	bg	γ	100.00~100.51m: ゆ着割れ目や密着度の低い割れ目が多く細片化し易い。	CM'																				
										100.51~100.72m: CL 風化で一部割れ目沿いに砂状化し、幅5~10mmでマンガン鉱染も受ける。																					
										100.72~102.35m: CM 割れ目には挟在物はほとんど認められない。一部でゆ着割れ目や密着度が低い割れ目が分布し、ハンマーの強打で細片化し易い。全体に径2~3mmの暗緑色鉱物(緑泥石?)が点在する。																					
102	51.62	101.60	[花崗斑岩]	アフライト	IVg	Bg	IVg	bg	γ	101.20~101.60m間は斑晶がやや多く花崗斑岩となる。アフライトとの境界は漸移的である。	CM'																				
										101.57~101.58mと102.00~102.05m間は割れ目沿いに片状~線状に砕けているが、粘土や軟化部は分布しない。																					
										101.61~101.72m: 傾斜70~80°の割れ目の一部に白色脈(幅2mm以下)を挟む。																					
103	51.80	101.85	[花崗斑岩]	アフライト	IVg	Bg	IVg	bg	γ	102.05~102.35m: 高角度で密着度の低い割れ目やゆ着割れ目が多い。	CH'																				
										102.35~105.00m: CH 上下に比べ割れ目が少なくなる。部分的に割れ目沿いに薄く砂状化した粘土脈やマンガン脈を挟むが全体では挟在物はほとんど含まない。径2~5mmの暗緑色鉱物(緑泥石)が点在する。																					
										102.65m: 傾斜50°で幅1mmの石英脈を伴う。 102.75m: 傾斜50°の割れ目に沿って白濁化している。																					
104			[花崗斑岩]	アフライト	IVg	Bg	IVg	bg	γ	103.30m: 傾斜70~80°で互いに交差する幅1~5mmの石英脈を伴う。	CH'																				
										103.52~103.54m: 割れ目沿いに薄く砂状化する。																					
										103.98m: 傾斜50°の割れ目に沿って幅5mm程度緑色化している。																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級 区 分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 月日	掘進 速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁 保護	コア チップ ノット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)												
															0	10	20	30	40												50											
				花崗斑岩				IV _E cg			105.23~105.25m : 65° 割れ目は幅1~3mmの緑色粘土脈挟む。破碎は伴わない。																															
									III _E g			105.72m : 傾斜60° で幅1mmの緑灰色粘土を挟む。																														
106								Bg	IV _E cg	γ 2		106.30~108.50m : 所々、長石の緑泥石化が見られる。 106.33m : 60° 割れ目沿い幅5mmが細片化する。粘土は伴わない。																														
					灰褐				III _E g			107.40~107.83m : CM																														
									IV _E g				107.52~107.55m : 各々40° , 53° 割れ目に囲まれ細岩片化~砂状化する。粘土は伴わない。																													
								Cg	V _E cg	δ 3	107.83~108.24m : CL 風化で割れ目沿いに軟化が進む。																															
											108.20m : 50° 割れ目と周辺の割れ目はマンガン脈を受ける。 108.24~109.99m : CM 硬質であるが、ゆる割れ目や密着度が低い割れ目が多くハンマーの強打で細片化する。割れ目には挟在物はほとんど分布しない。																															
											108.64~108.76m : アプライト脈を挟む。上端・下端とも50° 程度で境界は明確でゆるしている。																															
											109.00~109.14mと109.41~109.60m間は割れ目が密集し、長さ10~30mm主体の硬質岩片化している。																															
											109.99~110.43m : CH ゆる割れ目や密着度の低い割れ目を含まない棒状コアとなる。																															

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コアカ形状	割れ目の状態	風化	変質	記	岩級区分	コアカ採取率 ← (%) 最大コアカ長 → cm R Q D L [%]	標準貫入		試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm)	コアカチューブ ノベットの 給 圧 (kN・ r MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)			
														(N値～深度)	図	(N)	(M)												
111	58.07	110.72	+	花崗斑岩	褐灰	IIIg	bg	γ	2		110.43～112.04m: CM 堅硬で割れ目に挟在物はほとんど分布しない。	CM'	20 133																
		111.54		アブライト	Bg	IVg					111.72～111.54m: アブライト脈を挟む。上端15°で機械割れ、下端45°で湾曲し、境界は明瞭で一部ゆ着している。																	111.13～111.37mは緑泥石化で暗緑色を呈する。	111.37～111.54mは最大径2cmの石英、カリ長石からなるペグマタイト。前者の境界部はよく密着し、破碎や変質は伴わない。
112	58.65	111.54	+	花崗斑岩	灰褐	Vg	cg	3			112.04～112.83m: CL 30～60°とこれに直交～斜交する50～70°割れ目が主体。割れ目交差部の一部では岩状化する。 112.04m以深は硬さ「C」主体で、一部の割れ目沿いは風化で薄く砂状化する。粘土化や粘土脈は分布しない。全体にマンガン鉱染を軽微に受け、割れ目の面沿いは薄く黒褐色化する。高角度割れ目が発達している。	CL'	7 10																
					にふい橙						Cg																		
113	58.65	111.54	+	花崗斑岩	明褐灰	Vg	cg	2				D'																	
					にふい橙																							Vg	113.51～113.60m: 硬砂部 113.51～113.56m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端55°で、下端66°でいずれも波打って連続。径5～10mm硬さDの岩片で、岩片間は薄く粘土化～砂状化する。灰褐色を呈する。幅20～35mm。 113.56m: 粘土状部 (Hc-1) 上端66°、下端66°でいずれも小さく波打って連続。途中で幅1mmの粘土に分岐する。軟質で、径1mm石英粒わずかに含む。灰白色を呈する。幅1～2mm。 113.56～113.60m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端66°で小さく波打ち、下端63°、幅1mm以下のにふい橙色の直線的な軟質粘土として連続。径5～10mm岩片と岩片間の粘土～砂状部からなる。このうち、113.58～113.60mは硬質砂状を呈し、灰褐色を呈する。幅15～20mm。 113.60～113.70m: D 径2～20mmの亜角縁を30%程度含む暗褐色砂状部。下層境界は2系統の割れ目に沿っており、一部は割れ目を充填している。やや軟質。
114	58.65	111.54	+	花崗斑岩	明褐灰	Vg	cg	2																					
					明褐灰																						Eg	VIg	dg

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
															0	10	20	30	40												50							
			花崗斑岩	明褐灰	Eg	Vε	dg	ε	3		115.28m以深では割れ目の一部が残留している。	0	D'																									
116											Cg																							2	115.52~118.63m: CL 60~70° の高角度割れ目と30° 前後の低角度割れ目が交差する。割れ目沿いの多くは砂状化する。一部は掘削時に岩片化したものを含む。	3 (0)	100	
117											Vg																						cg	δ	116.87~117.00m: 径10mm前後の塊状コア。これは掘削時に割れ目沿いの砂状部分が流失したためと推定される。 117.00~118.26m: 割れ目沿いに砂状化が進んでいる。岩片は径10~30mm 硬さ「C」主体。割れ目は60~70° とこれにほぼ直交する40° 前後が多く、交差部では径5mm前後に細片化するものもある。所々、幅1~3mmの灰白色粘土を挟む。 117.25m, 117.82mなど、60~70° 割れ目は40° 割れ目を止めている部分がある。止めている割れ目に細粒物は伴わない。もしくは局所的にしか分布せず。割れ目周辺の原岩組織は明瞭に認められる。	3 (0)	100	CL'
118											Dg																							3	118.10~118.26m: 割れ目の一部は軽微なマンガン結晶を受ける。 118.26~118.63m: 上位よりも更に割れ目沿いの砂状化が進んでいる。厚さ1~2mmの白色粘土脈を網目状に挟む。	2 (0)	100	
119											Eg																								118.63~118.94m: D 砂状化が著しくなり、締った砂礫状を呈するものが主だが、硬さ「C」岩片のみからなる部分も残留。 ●118.94~119.12m: 礫砕部 118.94~119.10m: 砂混じり岩片状部 (H) 上端32°、下端60° でいずれも直線的に連続。直線的なせん断面に平行な割れ目とこれに60° 前後で斜交する割れ目が多く、径5~10mmに細片化した岩片と岩片間の一部に砂状化する。にぶい黄褐色を呈する。 119.10~119.12m: 礫混じり粘土状部 (Hc-2) 上端60° で直線的に、下端60° で波打って連続。軟質で、径1~2mm石英粒、径3~10mm粘土化~硬さ「D」岩片を10~20%含む。粘土中には、表面がマンガン化した径1mmの石英粒が多い。浅黄色を呈する。幅13~15mm。また、下端~上端へ斜交する幅2mmの軟質な黒色粘土脈が分布する。	4 (0)	100	D'
			灰褐	Bg	IVε	bg	γ	2		119.12~119.30m: CL 60~70° 高角度割れ目とこれに斜交する40° 割れ目が多く細片化するが、挟在物はほとんど分布しない。一部は掘削時に岩片化したものを含む。 119.30~120.78m: CM 一部で密着度の低い割れ目やゆるぎ割れ目が多く、ハンマーの打撃で分離・細片化するが、割れ目の面はほぼ新鮮で未風化。 119.30~120.00m間は傾斜30~60° 程度の割れ目が1~5cm程度の間隔で分布し、120.00~120.78m間は傾斜10~30° 程度の割れ目が1~10cm程度の間隔で分布する。			CM'																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
													0	10	20	30	40												50							
121			花崗斑岩	灰褐			IV ₆		120.78~122.00m: CH	24	CM'																									
122							III ₆			121.09~121.16m: アブライト脈を挟む。上端20°、下端15°で屈曲した明瞭な境界をもち、面はゆがんでいる。	2	CH'	134																							
123							B _g	b _g	β	2	122.00~125.06m: CM 一部で密着度の低い割れ目やゆが割れ目が多い。すでに開口割れ目化するものも多い。割れ目の面はほぼ新鮮で未風化。 122.36m: 傾斜52°、幅5~10mm程度で暗緑色を呈する。	5		10																						
124							IV ₆				123.38m: 割れ目交差部で幅2~3mm細片状化するが、風化砂状部や粘土化部は挟まない。	8		10	CM'																					
				褐灰					124.54m: 55°割れ目面に厚さ0.5mm、軟弱灰緑色粘土がフィルム状に付着する。	6																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)							
															(N 値 ~ 深度) 図																						
											125.06~125.28m: CL ゆ着割れ目などから分離・細片化している。砂や粘土は挟まない。					0	10	20	30	40	50																
126				褐灰			IVg	β			125.28~127.68m: CM 開口割れ目と平行方向のゆ着割れ目や密着度の低い割れ目を含んでいる。ハンマーの強打で一部は分離・細片化する。ごく一部(下記127.16~127.25m間)でごく薄く風化する以外はほぼ新鮮、未風化。					8	10																				
127				花崗斑岩			IVg	bg								10																					
							Bg	γ	2		127.16~127.25m: 径10mm前後で角礫化している。下端の45°割れ目面には幅10mmが径2~5mmで細礫状化し、風化で淡褐色化する。					9																					
128				にぶい褐			Vg	cg	δ		127.68~128.08m: CL 厚さ5~10mm程度の片状コア主体で、挟在物は下端部の128.05~128.08mが径3~5mm硬質岩片を含む「硬質砂」状を呈する以外、砂、粘土など挟まない。一部は鋭角時に岩片化している。						8																				
							IVg	γ			128.08~128.64m: CM 各割れ目面は薄く淡褐色化し直上よりも風化するが、砂や粘土など挟在物は認められない。						8																				
				灰黄褐			Vg	δ			128.64~128.88m: CL 径10mm前後に細かく砕けた角礫状コアで、各割れ目面には砂が付着することがある。割れ目沿いに風化が進行していると推定される。																										
129								bg			128.88~129.91m: CM 60~70°の高角度と30~40°の中角度割れ目の交差部では径10mm前後に片状~角礫状化するが、砂状部や粘土化部は挟まない。																										
							IVg	γ									11																				
							IIIg	β			129.91~131.93m: CH 一部のコアにはゆ着割れ目や密着割れ目を含むが、ハンマーの強打でも密着し、分離・細片化しないものが多い。																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
														(N 値)	(図)														
131			花崗斑岩	褐灰	Bg	bg	β	2		130.00~140.00m: 灼着割れ目が約10mm間隔で分布。	CH'			0	10														
		131.40~131.59m: 径20~30mmに角礫状化しているが、これはロッド引上時に生じた人為的な現象と推定される。																											
132		131.93~138.07m: CM 灼着割れ目や密着度の低い割れ目を多く含んでいる。既に開口化しているものも多い。割れ目の一部は風化で薄く砂状部を挟むことがあるが、挟在物がない(b)割れ目が主体。 132.07~132.24m: 径10~20mm角礫状化する。割れ目面に砂が付着するものが多い。微細な黄鉄鉱も伴う。同区間は珪質である。																											
133		132.18~132.33m: アブライト脈を挟む。上端はコアチューブ引き上げ部で不明。下端は0°で明瞭な境界をもち、面は灼着している。																											
		133.20~133.25m: アブライト脈を挟む。上端、下端とも傾斜5°で明瞭な境界をもち、面は灼着している。	CM'																										
		133.40~134.00m: 灼着した密着割れ目沿いに開口化し、径10mm前後に細かく砕けている。																											
134										133.82m: 60°割れ目沿い幅20mmが径3~5mmの細片状化しているが、風化に起因する砂や粘土は挟んでいない。																			
										134.78m: 傾斜35°で幅2mm以下の石英脈を挟み、一部に白色の細脈を伴う。 134.87~134.91m: 傾斜56°、幅25mmで緑色化している。																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)										
													0	10	20	30	40												50									
136				花崗斑岩	褐灰				135.41m: 傾斜20°の割れ目に幅2~3mmの石英脈を挟む。 135.45m付近: 傾斜55°の割れ目に幅2~3mmの石英脈を挟む。	0	CM'																											
															135.80~136.00m: ゆる割れ目沿いに開口し、長さ10~30mm程度に鱗片化している。	10																						
137															137.00~138.07m: ゆる割れ目が多いが密度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。すでに開口割れ目化しているものも多い。径2~3mm暗緑灰色の緑泥石が斑点状に点在する。	20																						
															138.07~138.44m: CM 密度度の低い潜在割れ目を多く含み、全体として硬さ「C」である。長石の白濁化や割れ目挟在物はほとんど認められない。径2~3mm暗緑灰色の緑泥石斑点が多い。	30																						
138									138.44~138.80m: CH 堅硬、塊状、ゆる割れ目が多いが、密度高くハンマー強打でも分離しない。	40																												
139									138.80~139.82m: CL 139.18m以浅は硬さ「C」、以深は軟化が進み「D」である。全体に割れ目挟在物はほとんど含まない。 138.93m: 60~70°厚さ5~10mmで湾曲しながら石英脈が密着~一部割れ目化して連続。 138.95~139.08m: 30~40°と70°割れ目が交差し岩片状を呈する。劣化は軽微ない。 139.18m以深は上位より風化と変質が進む。 139.31m: 72°割れ目沿い厚さ2~3mmマンガン鉱染発ける。	50																												
	78, 77	140, 00							●139.82~139.88m: 破砕部 139.82m: 粘土状部 (Hc-1) 52°で直線的に連続。軟質で、石英粒、岩片を含まない。暗緑灰色~灰褐色を呈する。幅0.5~1mm。 139.82~139.88m: 砂混じり岩片状部 (Hj) 上端52°、下端52°でいずれも直線的に連続。径3~5mmに細かく岩片化。岩片間は砂状化(粗粒砂主体)。岩片の多くは直線的なせん断面方向に配列している。マンガン汚染し、暗緑灰色を呈する。幅40mm。 139.88~139.95m: D 直線的なせん断面と平行に近い割れ目が多い。原岩組織は残留する。マンガン汚染著しい。 139.95~140.00m: CL 硬さ「C」岩片主体。																													

余白

H27-B-2

ボーリング柱状図

調査名

事業・工事名

ボーリングNo.	1
----------	---

ボーリング名	H27-B-2		調査位置	X:344.180, Y:1092.324		北緯	35° 45' 19.13"	
発注機関	日本原子力発電株式会社			調査期間	2015年5月25日 ~ 2015年7月24日		東経	136° 1' 1.87"
調査業者名	[Redacted]			主任技師	[Redacted]		現代人 コア 鑑定者	ボーリング 責任者
孔口標高	20.11 m	角	180°	方	北 0°	地盤勾配	水平 0°	使用機種
総掘削長	160.00 m	度	0°	向	東 90°	鉛直	0.0°	試験機
								ハンマー 落下用具
								エンジン
								ポンプ

標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種	色	硬軟	割れ目の状態	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D	岩級区分	標準貫入試験 (N値~深度) 図		孔内水位 (m) / 測定月日	原位置試験 (孔内水平基準)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給戻数 (rpm)	回転圧 (kN・MPa)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
													N	値													
19.62	0.70	[Redacted]	黒					0.00~0.70m: 試験でコンクリートが分布することを確認している。コア採取は実施しなかった。	100	100	[Redacted]																
			盛土					0.70~1.00m: ゴリ石																			
			灰黄褐					1.00~4.10m: 径0.25~2mmの中粒砂~極細粒砂主体。海抜は概ね良好である。ルーズで、径10~50mmの花崗岩類、黒色砂岩の角礫を含む。	100	100	[Redacted]																
			にぶい黄橙					4.10~5.83m: スライム。硬直じりシルト質粗粒砂。灰黄褐色を呈する砂径じり層状シルト、砂径じりシルト。黒褐色を呈する炭質シルトからなる。所々、径7cm以下の花崗岩類、黒色砂岩の角礫を含む。全体にルーズである。	100	100	[Redacted]																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状 図	岩種 区分	色調	硬軟	割れ 目の 状態	風化 状態	変質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D └─┘ [%]	岩級 区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位 置試験 (孔内水平距離)	室内 試験 日	掘進 速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コア チューブ ノズル	給 圧 (kN・ rpm / MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)											
														0	10	20	30	40											50										
6	15.99	5.83	X	コア欠如	にぶい黄橙					5.83~7.00m: 砂混じりシルト質粗粒砂主体で、6.80~7.00mは礫質粗粒砂からなる。																													
						にぶい黄																																	
7				盛土	灰																																		
					にぶい黄橙					7.00~7.12m: 合板が分布する。 7.12~7.17m: 径8cmの花崗斑岩の角礫を含む。 7.17~7.41m: スライム砂混じりシルトからなる。軟質。 7.41~8.53m: スライム径10cm以下の花崗岩類の亜角~角礫からなる。コアの形状をなしていない。差異部は流出している。																													
8	15.04	7.17			にぶい褐					8.11~8.20m: スライムルーズなシルト質礫からなる。																													
				コア欠如						8.53~9.70m: スライム砂・礫混じりシルトからなる。軟質。下部は植物片が混じる。																													
9					灰褐					9.70~9.80m: スライム径8cmの花崗斑岩の礫からなる。 9.80~10.42m: スライム砂・礫混じりシルト~礫混じり砂からなる。軟質。植物片混じる。礫は径3cm以下の花崗岩類の角礫からなる。																													
					褐灰																																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	岩級区分	標準貫入試験 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)
													(N)	(値)										
11				コア欠如	褐灰																			
					灰白																			
					明黄褐																			
					褐灰																			
					にぶい橙																			
					褐灰																			
					にぶい褐																			
12					黄褐																			
		11.39	12.33		砂礫	褐																		
		11.07	12.79		褐灰																			
13				コア欠如	黄褐																			
		10.54	13.53		にぶい橙																			
14				花崗斑岩	にぶい黄橙																			
		9.58	14.89	コア欠如																				

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室 内 試 験	掘 進 月 日	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー ル / ビ ッ ト	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)										
													0	10	20	30	40												50									
	9.44	15.09	[Pattern: +]	明褐灰 花崗斑岩					15.62~19.80m: 所々、割れ目に沿ったマンガン濃集部が見られる。	0	CL'																											
16									Vg				16.50~16.51m: 25° の割れ目に沿って緑泥石が分布する。	3 (0)																								
17										Dg			17.16m以深は上位に比べ割れ目がやや少なくなる。	4 (0)																								
18										eg			17.57~17.64m: 35~40° の割れ目に沿って緑泥石が分布する。	4 (0)																								
19										IVg			18.20~18.35m: 20° の割れ目に沿って黄褐色酸化が見られる。 18.59m: 10° の割れ目に幅1cm程度の褐色の砂状部を挟む。	10 (10)																								
			[Pattern: +]	明褐灰					19.59~19.80m: 10mm程度の間隔で割れ目が分布し、マンガンと石英を伴う。 19.70m以浅は風化が進み軟質化する。	6 (0)																												

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)							
													() 図 N 値 ~ 深度																						
		21	花崗斑岩 明褐灰			IV _g D _g			20.25m : 30° の割れ目に幅1~5mmの黄灰色砂状部を挟む。	12 (12)																									
		22							V _g CG IV _g	δ																					20.90m : 5° の割れ目沿いに幅約10mm砂状化を呈する。	18 (18)			
		23																													BG II _g	CG IV _g	2	21.67m : 0° の割れ目に幅1mmの暗灰色粘土を挟在する。上端側の幅10mmは淡黄褐色を呈する。 21.79~26.82m : 硬さ「C」が主体であるが、硬さ「D」も含み両者が交互に出現する。割れ目沿いに風化で砂状化する部分が多い。 21.90m : 径10mmの石英斑晶が80° の割れ目で横断される。80° の割れ目は1条ではなく、分岐しており、分岐したそれぞれの割れ目は不連続である。高角度割れ目には細粒部が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。系統的な割れ目も存在しない。 22.10~22.50m : 硬さ「B」で硬質。	23 (23)
																																		V _g	D _g
		24							CG IV _g	γ																					23.52m・30° と 23.82m・20° の各割れ目に幅1mmのやや硬質な灰褐色粘土脈を挟む。	17 (17)			
			CG	23.89m : 25° の割れ目に幅5mmの黒灰色シルト質砂を挟在する。	17 (17)																														

標 尺 (m)	標 高 度 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コ ア 採 取 率 (%) 最大コ ア長 cm R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) 測 定 月 日	(標準貫入) 試験		原 位 置 置 試 験 (孔内水平距離)	室 内 試 験	掘 進 月 日	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) ／ 孔 壁 保 護	コ ア チ ュー ン ／ ビ ット	給 回 送 水 量 (L/分)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	排 水 量 (L/分)				
													(N)	(値)														
26			+			IVg	γ	2	25.41m : 20° 割れ目沿いに径0.5~1m と微細な雲母(セリサイト)が晶出 している。	0																		
									1	100																		
									(11)	100																		
27			+		IVg	cg	2	26.82m以深は硬さ「D」が主体となる。 27.04~27.90m : 割れ目面にマンガ ンが付着する。	7																			
								(7)	100																			
28			+			Dg	δ	3	27.91m : 20° で幅1mmの石英脈が交 差する85° の割れ目を横断する。また、 27.88mの低角度の潜在割れ目も85° の割れ目を横断する。割れ目周辺の 岩壁には原岩組織が認められ、系統 的な割れ目も存在しない。 28.02m以深、10mm間隔の風化した割 れ目が発達し、片状~層状化してい る。割れ目沿いに風化して砂状化す ることが多い。 28.24~28.94m : 割れ目に沿った風化 ・変質が見られる。 28.55m : 25° の割れ目に幅10mmの硬 質な黄灰色シルト質砂を挟在する。	9																		
									(9)	100																		
29			+			Vg	3	3	29.19m : 50° の割れ目に幅3mmの灰白 色粘土を挟在する。	3																		
									(3)	100																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
															(N値~深度) 図																					
31			+	花崗斑岩	明褐色	Dg					30.10~30.82m : D 概ね径10mm以下に砕けている。風化で割れ目沿いに砂状化が拡大している。径5~30mmの硬さ「D」「C」岩片が多く残留し、硬質な砂礫状を呈する。基質は砂状部が主体であるが、灰白色粘土部も散在している。原岩組織や上部の割れ目は残留している。	0	CL'																							
					明褐色	Eg	Vg	cg						3																						
					にぶい黄褐色	Dg				30.82~31.15m : CL 割れ目沿いに砂状化することが多い。					(0)																					
					にぶい褐色	Eg	VIg	dg		●31.15~31.66m : 破砕部 31.15~31.24m : 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端20°で直線的、下端15~28°で薄曲して連続。一部粘土化した径5~10mmの岩片と岩片間の粘土~幅1~2mmの粘土細脈からなる。にぶい黄褐色を呈する。幅5~10mm。 31.24~31.28m : 粘土質礫状部 (Hb) 上端15~28°で薄曲して、下端38°で波打って連続。径2~3mmの石英粒、径5~10mmの大半が粘土化した岩片を計20~30%含む。やや軟質。明赤灰色を呈する。幅20~30mm。 31.28~31.29m : 礫混じり粘土状部 (Hc-2) 傾斜38°で上端は波打って、下端は直線的に連続。径2~3mmの石英粒を10~20%含む。やや軟質。灰黄褐色を呈する。幅5~10mm。 31.29~31.66m : 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端38°で直線的に、下端43°で波打って連続。径5~20mmの硬さ「C」主体（他に粘土化、硬さ「D」「E」含む）の岩片と岩片間の粘土からなる。にぶい褐色を呈する。																										
32			+	花崗斑岩	灰褐色	Dg					31.78~34.37m : D 風化で割れ目沿いに砂状化が拡大する。原岩組織は残留するが、割れ目は消滅するか、しかかっているものが多い。所々に幅1~3mmの白色軟質粘土脈を挟む。	2	D'																							
					明褐色	Eg	Vg	cg		31.91~31.96m : 25~30°の割れ目に軟質な幅1~3mmの褐色粘土を挟む。 32.45~32.59m : 8~48°の割れ目沿いに灰白色粘土を挟む。粘土は一部網目状に分布する。 33.00~33.25m : 粘土化が進み、原岩組織は不明瞭となる。 33.35~33.40m : 硬さ「D」の岩片主体。 33.60m : 5°で幅1mmの軟質な赤灰色粘土脈を挟む。 33.77m : 7°で幅5~8mmのマンガン鉱染部が脈状に分布する。 33.79~33.87m : 硬さ「D」の岩片主体。 33.96m : 以深は原岩組織が不明瞭な硬質な砂状部主体。割れ目の一部は残留するが、消滅しているものが多い。 33.97m : 25°の割れ目に幅2~4mmの褐色粘土を挟む。																										
33			+	花崗斑岩	明褐色	Eg					●34.37~34.48m : 破砕部 34.37m : 粘土状部 (Hc-1) 傾斜13°で上端は直線的、下端は波打って連続。径2mmの石英粒をわずかに(5%以下)含む。軟質。軟質な粘土は75°のせん断面と交差し、2mmみかけ右ズレに変位して切られている。マンガン鉱染を伴う。黒褐色を呈する。幅2~6mm。 34.37~34.48m : 粘土質礫状部 (Hb) 上端13°で波打って、下端20°で直線的に連続。径2~3mmの石英粒、径5~10mmの粘土化~硬さ「D」岩片を計30%程度含む。浅黄~明赤灰色を呈する。幅90mm。 34.48~35.13m : CL 34.59m・29°と34.67m・50°の割れ目は68°で幅1mmのマンガン脈、一部石英脈を止めている。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。																									
					明褐色	Dg	Vg	cg						2																						
					にぶい褐色	Cg									(0)																					
34			+	花崗斑岩	浅黄							3																								
					にぶい褐色	Dg	Vg	cg							(0)																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																										
													0	10	20	30	40												50																																									
			+	花崗斑岩	明褐灰	Eg			40.23~41.90m : CL 20~40° 割れ目が主体。一部の割れ目は消滅しかかっているものもある。割れ目には薄く砂、粘土、マンガンを含んでいることが多い。 40.30~40.80m : 高角度割れ目沿いにマンガン濃集が見られる。	0																																																												
41															2																																																							
															5																																																							
42															6																																																							
			+	花崗斑岩	にぶい黄橙	Eg	Vg	cg	δ	2																																																												
																																						3																																
43																																						3																																
																																						3																																
			+	花崗斑岩	にぶい黄橙	Eg																																																																
																																										3																												
44																																										3																												
																																										3																												
			+	花崗斑岩	明褐灰	Eg																																																																
																																											3																											
									44.75m : 45° の割れ目沿いに幅20~25mmで緑泥石化変質により淡緑灰色化する。																																																													

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																					
															(N 値 ~ 深度) 図	(N) 値																																																
46				花崗斑岩							45.10~45.25m : 硬さ「C」の硬質岩片が分布。		CL'																																																			
																												明褐灰	Dg	cg	δ																																	
																													Cg																																			
																													Dg			Vg	cg																															
47				花崗斑岩						45.96~46.31m : 硬さ「C」で硬質。割れ目は幅1~3mm程度で砂状化する。		CL'																																																				
																													明褐灰	Cg	γ																																	
																														Eg		Vig	dg																															
																														Dg		Vg	cg																															
																													48				花崗斑岩						46.73~47.50m : D 原岩組織と割れ目は消滅している。硬さ「D」主体の径3~10mmに細岩片化している。 46.73~46.85m : 割れ目沿いに砂状化が進み、硬さ「E」が主体。 46.90~47.06m : 酸化による二次石英が径1~2mmの斑点状~幅1~2mmの脈状で露出し、全体が硬さ「C」と硬質。		D'																							
																																																														にんい黄褐	Eg	Vig
Dg	Vg	cg																																																														
Cg	Vg	cg																																																														
49				花崗斑岩						47.50~48.09m : CL 47.85m以上は硬さ「D」主体、47.85m以下は硬さ「C」主体で、47.85m以上は風化で割れ目沿いの一部は砂状化が進み、岩片自身も軟質化している。		CL'																																																				
																													Cg	Vg	cg																																	
																													Eg	Vig	dg	δ																																
																													にんい橙	Dg	Vg		cg	δ																														
																														Cg	Vg		cg																															
Eg	Vig	dg																																																														
Cg	Vg	cg																																																														
Dg	Vg	cg																																																														
Cg	Vg	cg																																																														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN / MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L / 分)	排 水 量 (L / 分)							
															0	10	20	30	40												50						
51			花崗斑岩	にぶい橙		IV _g					50.44~50.67m: 硬さ「B」で堅硬。上下端は砂状化している。	0																									
								V _g						10																							
								B _g	IV _g					(10)																							
								C _g	V _g																												
								D _g	V _g																												
								C _g	IV _g	δ			51.15~51.50m: 上下位よりも石英斑晶が径5~15mmと大型化する (上下位側は径5mm前後主体)。																								
52				にぶい黄橙	にぶい黄橙							51.51m以深は風化が進み、割れ目沿いの砂状化が広がり、径10~30mmの硬さ「D」岩片を含む「砂礫状」を呈する部分もある。																									
									D _g	V _g	cg				9																						
									B _g	IV _g	γ			52.18~52.22m: コアチューブ引き上げ部で、細礫混じり粗粒砂状を呈する。																							
													52.42~52.99m: CM 岩片は硬質であるが、一部に密着度の低い割れ目も含んでいる。割れ目は幅2~3mmで砂状化することが多い。																								
								D _g	V _g				52.99~53.20m: CL 割れ目沿いに砂状化が進む。消滅しかかっている割れ目が多い。																								
								E _g	VI _g	dg			53.20~53.55m: D 原岩組織は残留するが、割れ目は消滅するか、しかかっているものが多い。硬さ「D」の径10mm程度の岩片が散在している。																								
53			明褐灰	明褐灰							53.55~54.10m: CL 一部で硬さ「C」岩片も含み全体が不均質。長石は大半が白濁化する。																										
								D _g	IV _g	cg				4																							
								E _g	VI _g	dg			54.10~54.72m: D 風化で砂状化が著しい。																								
							D _g	VI _g	dg			54.37~54.46m: 硬さ「D」の岩片が残留する。																									
							E _g	VI _g	dg			54.60m以深は粘土化が進む。																									
							E _g	VI _g	dg	3			4																								
54			明赤灰	明赤灰							●54.72~54.77m: 破砕部 54.72~54.77m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端48°で波打ち、下端39°で直線的に連続。径2~4mmの石英粒と粘土化した径5~10mmの岩片を30~50%含む。軟質。マンガン鉱染を一部に伴う。明褐色を呈する。幅40~50mm。 54.77m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜39°で上下端とも直線的に連続。石英粒。岩片は殆んど含まない (5%以下)。軟質。灰褐色を呈する。幅3mm。 54.77~55.24m: D 全体に粘土化が進む。																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN · MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)					
															0	10	20	30	40												50				
			花崗斑岩	明赤灰	Eg	Vlg	dg		4		55.00m以浅は岩片やマンガン鉱染部を脈状に含む。 55.00m以深は白色粘土化部や赤灰色粘土細脈を多く含む。 55.24~57.70m : CL 硬さ「D」岩片が主体。割れ目沿いに風化が進む部分では硬さ「E」や硬質な砂状部も分布する。割れ目沿いにマンガン鉱染を受け、割れ目面とその周辺は黒褐色化することが多い。	0 50 100	D'																						
56				明褐灰																															
57				灰黄褐	Dg	Vg	cg			δ		56.83~57.00m : 割れ目沿いの風化が進み、砂状化する。残留する硬さ「D」の径5~10mmの岩片とともに砂礫状を呈する。 57.00~57.45m : 密着度の低い割れ目が密集し、径10mm程度に細岩片化する。硬さ「C」の岩片も多く含む。	0 50 100																						
58				にぶい黄橙	Cg					2		57.45~57.70m : 割れ目沿いに砂状化が進み、全体に上位より軟質化が進む。 57.70~57.99m : CL 原岩組織と割れ目は残留するが、全体に風化による砂状化部が拡大し、一部は硬質な砂状部となる。	0 50 100	CL'																					
59				にぶい褐	Bg	IVg	bg					57.99~58.28m : CL 岩片は硬いが、20~30°の割れ目が10~30mm間隔で同方向に発達。マンガン鉱染も伴う。 58.28~58.73m : CM マンガン鉱染で割れ目は黒褐色化するが、砂や粘土などの挟在物は分布しない。	0 50 100																						
				灰褐	Dg	Vg	cg				58.73~59.71m : CL 割れ目沿いに砂状化し、密着度の低い割れ目も多い。全体として脆い。 59.35~59.54m : 硬さ「C」主体。	0 50 100																							
					Eg	Vlg	dg		e		59.71~60.00m : D 強風化で硬質な砂状部主体。径10mm前後の岩片が残留し、砂礫状を呈する。	0 50 100	D'																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rMPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																							
																(N)	(m)																																																		
		61	花崗斑岩	にぶい黄橙	Dg	Vg	cg	δ	2	2	60.00~60.26m: CL 50~55°の割れ目が主体。割れ目沿いにマンガン鉱染を受ける。	0	50	D'		0	10																																																		
		62									にぶい橙																			Eg	Vg	dg	ε	3	3	●60.26~60.69m: 破砕部 60.26~60.58m: 礫質砂状部 (Hj) 上端は28°で、一部消滅しかける直線的な割れ目。下端は18°で波打って連続。径5~10mmの硬さ「E」岩片と岩片間の風化で拡大した砂状部からなる。下端側に下位のHo-1の粘土と同方向の細かい割れ目が発達。機械割れて全体が礫質砂状化している。にぶい黄橙色を呈する。 60.58~60.59m: 粘土状部 (Ho-1) 傾斜18°で上下端とも波打って連続。径1mmの石英粒を約20%含む。軟質。明褐色を呈する。幅10~12mm。 60.59~60.69m: 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端18°で、下端37°の割れ目いずれも波打って連続。径5~20mmの硬さ「E」岩片と岩片間の粘土化~砂状化部からなる。明褐色を呈する。 60.69~61.29m: D 大半が風化で砂状化する。 ●61.29~61.69m: 破砕部 61.29~61.41m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端45°、下端50°でいずれも直線的に連続。下位のHo-1の粘土とほぼ同方向の45°割れ目とこれに斜交する割れ目で径5~10mmに岩片化した岩片と、一部の岩片間に分布する幅1mm以下の軟質白色粘土からなる。にぶい橙色を呈する。幅100mm。 61.41~61.43m: 粘土状部 (Ho-1) 傾斜50°で上端は直線的に、下端は波打って連続。径1~2mmの石英粒、径3mmの岩片を約5%含む。やや軟質。灰黄褐色を呈する。幅5~15mm。 61.43~61.69m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端50°、下端60°で不明瞭にいずれも波打って連続。硬さ「D」の径5mmの岩片と、岩片間の斑点状~線状(幅1mm)の軟質白色粘土からなる。上端側に粘土化が著しい部分がある。にぶい橙~灰白色を呈する。 61.69~62.39m: CL 45~60°とこれに斜~直交する割れ目が多いが、62.00m以浅ではこれらが消滅しかかっているものが多い。 62.39~63.75m: D 局部的に径5~20mmの硬さ「D」岩片が残留するが、大半が砂状化している。 62.95m以深では粘土化が著しく進み、原岩組織は大半の部分で消滅する。幅1~2mmの白色軟質粘土が粘土化岩片間を縫うように分布する。一部でマンガン鉱染を伴い、薄く黒褐色化する。	2	10																													
		63																																		明褐灰																									Dg	Vg	cg	δ	3	3	●63.75~63.85m: 破砕部 63.75~63.80m: 粘土・砂混じり岩片状部 (Hj) 上端37°で波打つ割れ目。下端46°で波打って連続。径5~10mmの岩片と岩片間の粘土状~砂状部からなる。にぶい橙色を呈する。幅30~50mm。 63.80~63.85m: 礫質粘土状部 (Hb) 上端46°、下端47°でともに波打って連続。径1~3mmの石英粒、径5~20mmの硬さ「D」岩片を20~30%含む。やや硬質。灰褐色を呈する。幅20~35mm。 63.85~64.49m: D 径10~20mmの硬さ「C」岩片が多く残留している(残留率30~40%程度)。全体に硬質な砂礫状を呈する。粘土状部は砂状部中にわずかに散在する程度。 64.49~65.18m: CH 堅硬・塊状。 64.68~64.73m: 上端45°、下端30°の割れ目に囲まれ、片状~角礫状化する。粘土はなく、わずかな砂状部が分布する。
		64			明褐灰	Eg	Vg	dg	ε	3		3		2	18	134	D'	CH'																																																	
													灰褐																	Bg	Vg	bg	β	2	2			2	18	134	D'	CH'																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
														(N) 値	0	10	20	30												40	50		
66			花崗斑岩	灰褐色	Bg IIIg bg β					65.00~65.17m: 柱状コア (コア長17cm)。	CH																						
					Eg VIg dg ε		65.18~65.36m: D 割れ目沿いに砂状化が拡大し、硬質な砂礫状を呈する。																										
				にぶい橙	IVg						65.36~69.05m: CL 岩片は堅硬であるが、割れ目沿いに砂状化が進むことが多い。粘土化部や粘土層は殆んど含まない。上端側と下端側は短柱状コア主体、中央部は片状コア主体で一部割れ目沿いに砂状化が進む。	CL'																					
					Cg		65.96~66.01m: 砂状化が進んでいる。																										
				にぶい黄橙	Dg						66.20~68.01m: 上下位に比べ風化がやや進む。	CL'																					
					Dg		66.39~66.65m: 割れ目沿いに砂状化が進む。																										
				にぶい黄橙	Cg	Vg					66.66~67.00m: 硬さ「B」の堅硬な岩片も多く含む。	CL'																					
					Cg		67.00~67.46m: 落下コア回収のため岩片状を呈する。																										
				にぶい黄橙	Dg						67.48~67.63m: 柱状コア (コア長15cm)。	CL'																					
					Dg		67.65~68.05m: 硬さ「D」の岩片主体で一部割れ目沿いに砂状化する。																										
			にぶい黄橙	VIg dg						●68.02~68.06m: 破砕部	CM'																						
				Eg Vg cg δ		68.02~68.05m: 砂混じり礫状部 (Hj)																											
			にぶい黄橙	IVg bg						上端40° で不明瞭に連続。下端41° で直線的に連続。微細な割れ目が発達し、一部の岩片は下位の粘土と同方向に定向性を示す。にぶい橙色を呈する。幅25mm。	CM'																						
				Bg		68.05~68.06m: 礫混じり粘土状部 (Ho-2)																											
			にぶい黄橙	IVg bg						上端41° で直線的に連続。下端30° で波打って連続。上端には径1mmの石英粒をごく少量 (5%以下) 含む幅1~2mmの淡黄色軟質粘土を伴う。明褐色を呈する。幅10mm。	CM'																						
				Bg		68.06~68.12m: 粘土混じり礫状を呈するが、硬質で岩片間に分布する粘土脈に系統性がなく、原岩組織が明確に認められる。																											
			にぶい黄橙	Vg						68.12~68.39m: 岩片状を呈し、軟質化が著しい。	CL'																						
				IVg cg		68.39~69.30m: CM 堅硬であるが、割れ目がやや多い。一部で長石が白濁化するが少ない。挟在物は少ない。																											
			にぶい黄橙	Cg Vg						69.30~69.95m: CL	CL'																						
				Bg IVg bk β		69.95~71.06m: CM 割れ目には殆んど挟在物は分布しないが、70.66m・57° と70.70m・60° の割れ目に囲まれて片状化する。前者の割れ目では面沿いに幅1~2mmで砂状化する。径0.5~1mmの雲母 (セリサイト) が晶出している。																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平膨脹)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)											
														0	10	20	30	40												50										
		71	花崗斑岩	灰褐						71.06~71.98m : CL 30° と 60~75° の割れ目が交差し、交差部の一部では幅10~60mmで硬質な砂状~砂礫状を呈する。粘土化部も点在するがわずかである。		CM'																												
		72								Dg Vg cg δ 3			71.88~76.11m : CM 一部で風化による砂状部を幅2~3mmで挟むが、挟在物を伴わない割れ目が多い。																											
		73								Bg Vg cg δ 3			72.48~72.57m : 割れ目沿いに褐色化が進むが、硬質で砂状化はない。 72.57~73.16m : 長さ10cm以上の硬質コア主体。																											
		74											Bg Vg cg δ 3	73.20~75.00m : 20~30° と 60~70° の割れ目が交差し、交差部の一部で片状~角礫状化するが、砂状部や粘土化部は伴わない。 74.85~75.00m : 割れ目沿いにマンガ ン鉱染を受ける。																										

標 尺 (m)	標 高 度 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟	コ ア 形 状	割 れ 目 の 状 態	風 化	変 質	記 事	コ ア 採 取 率 ← (%) 最大コ ア長 → cm R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) 測 定 日 月	(標準貫入) 試験 (N値～深度) 図					原 位 置 置 試 験 (孔 内 水 平 壓 力)	室 内 試 験	掘 進 日	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュー プ ノ ベ ッ ト	給 水 数 (rpm) (kN・MPa)	回 送 水 量 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)					
															0	10	20	30	40											50				
76			+		灰褐	N _g	bg	β		2	75.65～75.92m : 内部にゆる割れ目や密着度の低い割れ目を伴わない長さ27cmのコア。	0 50 100	CM'																					
											76.11～77.02m : CL 割れ目が交差し径10～30mmに片状～角礫状化する。岩片自身は硬質で劣化はない。一部の割れ目では径2～5mmの細礫状に幅10mm以下で砕けているが、砂や粘土は伴わない。全体に長石の白濁化が目立つ。																					9 16		
											77.02～79.47m : CM 全区間硬質であるが、77.43～78.00m間では密着度の低い割れ目が多く、ハンマーの打撃で径30mm前後に分離・細片化し易い。また、同区間では割れ目沿いにマンガン鉱染を受け、割れ目沿いの一部は黒褐色化する。77.21m : 交差する2本の割れ目の一部は、幅2～3mmで砂状化するが、砂状部は割れ目全体に連続しない。																					15 27		
											78.00m以深は長さ10cm前後のコアが主体となるが、一部では密着度の低い割れ目が分布する。																					15 16		
77			+	花崗斑岩	灰褐	V _g	cg	γ		2	77.02～79.47m : CM 全区間硬質であるが、77.43～78.00m間では密着度の低い割れ目が多く、ハンマーの打撃で径30mm前後に分離・細片化し易い。また、同区間では割れ目沿いにマンガン鉱染を受け、割れ目沿いの一部は黒褐色化する。77.21m : 交差する2本の割れ目の一部は、幅2～3mmで砂状化するが、砂状部は割れ目全体に連続しない。	0 50 100	CL'																					
											77.02～79.47m : CM 全区間硬質であるが、77.43～78.00m間では密着度の低い割れ目が多く、ハンマーの打撃で径30mm前後に分離・細片化し易い。また、同区間では割れ目沿いにマンガン鉱染を受け、割れ目沿いの一部は黒褐色化する。77.21m : 交差する2本の割れ目の一部は、幅2～3mmで砂状化するが、砂状部は割れ目全体に連続しない。																						15 27	
78			+	花崗斑岩	灰褐	N _g	bg	β		2	78.00m以深は長さ10cm前後のコアが主体となるが、一部では密着度の低い割れ目が分布する。	0 50 100	CM'																					
											78.40m : 割れ目沿いにマンガン鉱染を受ける。																						15 16	
79			+	花崗斑岩	灰褐	C _g	V _g	cg	γ		2	79.00m以深では長石斑晶の白濁化が多い。	0 50 100	CL'																				
												79.13m : 40° の割れ目沿いに幅10～15mmが淡緑色化し、面沿いに径0.5mm以下の微細な蠟母（セリサイト）が晶出する。																					8 16	
												79.47～80.19m : CL 30～50° と70° の割れ目が交差し、交差部の一部は径10mm程度に細片状化する。70° の割れ目の一部に幅2～3mmの淡黄～褐色粘土脈を挟む。																					8 16	
											79.83～79.90m : 割れ目沿いに砂状～径2～5mmの細片状化が進む。少量の粘土も伴う。																							

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級 区 分	孔内水位 (m) 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) ノロノロ ノロノロ	給 送 水 圧 (kN ・ rpm MPa)	回 送 水 量 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)												
														(N値~深度) 図																									
81			+	花崗斑岩	灰褐	Cg	v _g	cg	γ		80.19~80.49m : CM 一部に密着度の低い割れ目を含む。 割れ目に挟在物は分布しない。	CL'		0	10	20	30	40	50																				
																																80.49~83.12m : CH 堅硬で概ね未風化の岩盤で、割れ目 には挟在物は分布しない。ゆる割れ 目はなく、密着度の低い割れ目はこ く一部に分布する程度。全体に径2~ 3mmの暗緑色鉱物(緑泥石)が晶出して いる。長石の白濁化は殆んど認めら れない。							
																																	81.10~81.35m : 径2~5mmの斑点状に マンガン鉱染を受け、灰褐色を帯び る。劣化は伴わない。						
																																		82.10~82.30m : 斑化変質により径5 ~10mmの斑点状~幅10mmの脈状の石 英が晶出し、上下位よりも硬質とな っている。					
																																			82.72~82.86m : 密着度の低い割れ目 を含む。				
																																				83.12~83.79m : CL 83.46m以深は20~50°の割れ目が多 く、割れ目沿いに砂状化が進む。マ ンガン鉱染も伴う。岩片自身も硬さ 「D」に軟質化する。83.46m以深は割 れ目が多いが、硬質で挟在物は殆ん ど分布しない。			
																																					83.79~84.43m : CM 堅硬。84.35~84.38m間が10~15°の 割れ目沿いにごく薄く風化。砂状化 する以外は割れ目に挟在物は分布し ない。一部にゆる割れ目が分布する が、密着度が高く、ハンマーの打撃 で分離しない。		
																																						84.43~84.61m : CL 硬さ「C」の岩片主体。多くの割れ目 はマンガン鉱染で黒褐色化するが、 粘土化はない。	
																																							84.61~85.50m : CL 硬さ「D」岩片主体。一部で割れ目沿 いに風化。砂状化が進む部分もある。 長石の白濁化が目立つ。

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 図		試験	原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
															N	値																
		86	花崗斑岩	にぶい褐	Dg	Vg	cg	3			85.15m: 50° で幅5mmの軟質な灰白色粘土脈を挟む。 85.24~85.35m: 砂状化が進む。40° 前後の割れ目が残留する。	0																				
					Eg	Vg	cg																									
					Dg	Vg	cg	δ					85.50~85.58m: D 粘土化が進む。 ●85.58~85.76m: 破砕部 85.58~85.63m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上線40° で直線的に、下線48° で一部不明瞭ながら直線的に連続。径5~10mmの硬さ「D」岩片と岩片間の粘土状部からなる。上端付近に幅5mmの石英脈が下位のHc-2の粘土とほぼ同方向に分布するが途中で消滅する。灰黄色を呈する。幅35mm。 85.63~85.64m: 縦混じり粘土状部 (Hc-2) 傾斜48° で、上端は一部不明瞭ながら直線的に連続。下端は波打って連続。径2~3mmの石英粒。径5mmの硬さ「D」岩片を10%含む。軟質。淡黄色を呈する。幅5mm。 85.64~85.76m: 粘土・砂混じり岩片状部 (Hj) 上端48° で波打って、下線32° で、幅1~2mmの軟質な灰白色粘土脈として直線的に連続。上位のHc-2の粘土と同方向に斜交する割れ目で径5~10mmに岩片化している。岩片間の一部は粘土~砂状化し、幅1mmの灰白色粘土脈が分布。85.68m・53° のシャープなせん断面が分布し、これに深は一部でマンガン鉱染を受け黒褐色化する。淡黄~にぶい褐色を呈する。幅100~120mm。 85.76~87.47m: CL 86.52m以浅は硬さ「D」、86.52m以深は硬さ「C」の岩片主体で、後者では一部に短柱状コアも含む。前者では一部の割れ目沿いが砂状化する。 85.76~86.00m: 径10mmの斑点状幅2mm・20° の脈状に石英を含む。 87.47~87.89m: CH 堅硬。長石の一部は白濁化する。一部でゆ着割れ目を含むが、密着度が高くハンマーの強打で分離しない。 87.90~88.38m: CL 一部の割れ目沿いは風化で薄く砂状化する。密着度の低い潜在割れ目が多く、ハンマーの打撃で潜在割れ目沿いに分離・細片化し易い。																			
					Eg	Vg	cg																									
		87	花崗斑岩	にぶい褐	Cg	Vg	cg	γ			88.38~88.43m: 破砕部 88.38~88.42m: 砂混じり岩片状部 (Hj) 傾斜50° で、上端は直線的な密着割れ目で、下端は直線的に連続。下位のHc-1の粘土と同方向の割れ目が数本と、これらに斜交する割れ目により径5~10mmに岩片化している。粘土は殆んど伴わないが、一部の岩片間では砂状化する。にぶい褐色を呈する。幅35mm。 88.42~88.43m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜50° で上下端とも直線的に連続。石英粒。岩片を殆んど含まない。軟質。明黄褐色を呈する。幅5mm。 88.43~88.88m: CL 20~40° の低角度で直線的な割れ目が多い。一部で砂を挟む。 ●88.88~88.94m: 破砕部 88.88~88.92m: 粘土・砂混じり岩片状部 (Hj) 傾斜30° で、上端は幅0.5mmの軟質な白色粘土脈で直線的に、下端も直線的に連続。下位のHc-2の粘土と同方向に細かい割れ目が発達し、径5mmの岩片に細片化している。岩片間は幅1mm以下でごく薄く粘土~砂状化する。にぶい黄褐色を呈する。幅25~35mm。 88.92~88.94m: 縦混じり粘土状部 (Hc-2) 傾斜30° で、上下端とも直線的に連続。径1~3mmの石英粒。径5mmの粘土化岩片を計15%含む。軟質。灰白色を呈する。幅15~20mm。 88.94~91.69m: D 割れ目沿いに風化が進み、砂状化部が拡大している。90.81m以浅は径5~20mmの硬さ「C」「D」の岩片が残留し、硬質な砂状部を基質とする砂礫状を呈する。原岩組織はほぼ消滅している。90.81m以深は硬さ「D」の岩片主体で原岩組織と割れ目の大半は残留している。割れ目は40~60° が主体。																					
					Bg	Vg	cg	2																								
					Cg	Vg	cg																									
					Eg	Vg	cg																									
		88	花崗斑岩	にぶい褐	Cg	Vg	cg	2																								
					Eg	Vg	cg	δ																								
					Cg	Vg	cg																									
					Eg	Vg	cg																									
		89	花崗斑岩	にぶい褐	Cg	Vg	cg	2																								
					Eg	Vg	cg	ε																								
			花崗斑岩	にぶい褐	Cg	Vg	cg	3																								
			花崗斑岩	にぶい褐	Cg	Vg	cg	3																								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)									
														(N 値 ~ 深度) 図																								
			花崗斑岩	灰褐						90.50m : 60° で幅2~3mmの石英脈が分布。				0	10	20	30	40	50																			
91				にぶい褐							91.04mと91.20m : 割れ目に幅1mmの軟質な灰白色粘土が脈状に分布。前者ではマンガンを含み、後者では砂を伴っている。																											
92											91.47m以浅では残留岩片の割れ目や砂状基質の一部がマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。 91.60m以深では径3mmの長石斑晶が多くなる。 ●91.69~91.76m : 破碎部 91.69~91.70m : 粘土状部 (Hc-1) 傾斜45° で上端は波打って、下端は直線的に連続。径0.5mmの微小な石英粒を約5%含む。軟質。明褐色~灰褐色を呈する。上端側の一部に白色粘土脈とマンガン鉱染を伴う。幅3~8mm。 91.70~91.72m : 緻密粘土状部 (Hb) 上端51° で直線的に、下端53° で波打って連続。径1~3mmの石英粒。径5mm前後の硬さ「D」岩片を約20%含む。軟質。灰白色を呈する。幅7~12mm。 91.72~91.76m : 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端53° で波打って、下端45° で直線的に連続。上位のHc-1の粘土と同方向~20° 斜交の細かい割れ目が多く、径5~10mmに岩片化している。岩片間に上位のHc-1の粘土と同方向の幅0.5~1mmの軟質な白色粘土脈が分布する。にぶい褐色を呈する。幅30~40mm。 91.76~94.80m : CL 密着度が極めて低い割れ目を多く含む。ハンマーの軽打で径10~30mmの小岩片に分離・薄片化する。 92.09m : 径10mmの緑泥石が30° 割れ目で横断される。低角度の割れ目は別の中角度の割れ目で止められ、かつ両方の割れ目に細粒部を伴わない。割れ目周辺の岩盤に原岩組織が見られ、系統的な割れ目も存在しない。 92.18m・70° ~92.24m・44° 間は径5~10mmの岩片状に砕け、各割れ目面にマンガンが付着する。 92.65m : 55° の割れ目に幅2mmのマンガン脈を挟む。 93.00m以浅はコア長3~5cm主体の短柱状コア。93.00m以深は均着割れ目も含め、割れ目が密集し、コア長1~2cmの片状コアが主体。また、長石の大半は白濁化し、割れ目沿いに砂状化することがある。マンガンを含むが、粘土脈は殆んど分布しない。 93.81~94.13m : 硬さ「B」で割れ目に挟在物は分布しない。 94.26~94.38m : 径5~10mmの大型な石英斑晶が点在する。35~50° の割れ目に細粒部は見られない。割れ目周辺の岩盤に原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 94.80~97.96m : CH 全体が緑灰色化する。概ね新鮮であるが、一部の割れ目沿いに風化による褐色化が進む部分もある。挟在物のない割れ目が主体であるが、所々、挟在物が認められる。																											
93				にぶい橙																																		
94																																						
					緑灰																																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N 値 ~ 深度) 試験					原位試験 (孔内水平応力)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
													0	10	20	30	40												50							
			花崗斑岩	緑灰					95.46m : 55° の割れ目沿いに幅10~15mmが褐色化し、硬さ「D」に軟質化する。上端側に幅7mmの石英脈状に伴うが、同脈は途中で尖滅している。	25 [37]	CH'																									
96									III _g bg β			95.90~96.00m : 割れ目が10~20mm間隔で交差し、風化で褐色化、硬さ「D」に軟質化するが、砂状部は分布しない。	16 [27]																							
97									Bg	2		97.36m : 35° 割れ目に淡緑色シルト~細砂脈を挟む。その直下の97.65mまで密着度の低い割れ目が多く分布する。	7 [10]																							
98									IV _g			97.96~98.48m : CM 岩片は硬いが、割れ目沿いの砂状化が認められる。粘土化部や粘土脈は少ないが長石の白濁化が多い。	8 [9]					CM'																		
												98.36m : 50° の割れ目に幅2~5mmの灰緑色シルト~粗砂を挟む。 98.48~101.32m : CL 割れ目沿いの砂状化部が多くなる。粘土は殆んど分布しないが、長石は概ね白濁化する。99.44m以浅は岩片は硬質、以深は風化で軟質化している。	9 [9]																							
99					99.16~99.45m : 長さ10cm前後の柱状コアが中石的に分布する。	11 [11]					CL'																									
									99.44~99.90m : 割れ目沿いに風化・砂状化し、岩片自身も上下位に比べ軟質化する。特に99.76~99.90mでは40° の割れ目沿いに砂状化が進み、一部の岩片は硬さ「D」となる。																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位(m) 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
														(N値~深度) 図																					
101			+	緑灰	Bg			β	2	100.52~101.32m: 割れ目沿いの風化・砂状化が進む。岩片も軟質化し、硬さ「C」主体で部分的に硬さ「B」が残留。長石は白濁化する。 100.84~100.89m, 101.23~101.32m: 割れ目沿いに砂状化が拡大。径5~10mmの岩片と共に砂礫状を呈する。 101.32~102.05m: CM ほぼ未風化で、挟入物は分布しない。一部に密着度の低い割れ目が分布している。 102.05~104.65m: CL 103.70m未満では硬さ「B」主体で硬さ「C」「D」も分布。103.70m以深では硬さ「D」で軟質化が進んでいる。102.05~102.41m: 約10mm間隔で細かく密着度の低い潜在割れ目が多い。102.41~102.94m: 硬さ「B」の岩片主体。割れ目沿いに幅1~3mm程度で薄く砂状化する。粘土化部は分布しない。 102.94~103.17m: 20~30°の割れ目沿いに風化・砂状化が広がっている。岩片自身も硬さ「D」で軟質化する。 103.17~103.70m: 割れ目沿いの砂状化や挟入物は認められないが、一部に密着度の低い潜在割れ目が多い。 103.70~104.65m: 風化が進み、岩片も含め、全体が軟質化している。所々に幅1~2mmの軟質な白色粘土を脈状に挟む。 104.65~107.15m: CM 105.14~105.19m間を除き、硬質で挟入物は殆んど分布しない。	CL'																								
						Vg			cg																										
							Cg				δ	3																							
							Bg	IVg			bg	β			CM'																				
102			+	花崗斑岩					2																										
						Cg			cg																										
							Bg			γ																									
							Bg			bg																									
103			+	灰褐	Dg			δ	3																										
							Bg			β	2			CL'																					
104			+	明褐灰				cg																											
							Dg			γ	3																								
			+	灰褐	Bg	IVg		bg	β	2		CM'																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N値 ~ 深度) 図					原位試験 (孔内水平応力)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN・rpm)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)							
													0	10	20	30	40												50						
106			花崗斑岩	Bg	Vg	bg	β	2	105.14~105.19m: 上下端とも40°の割れ目に囲まれて、硬質な砂状~径2~3mmに細片化する。下端面に白色粘土がフィルム状に付着。区間内全体に径0.5mm以下の微細な黄鉄鉱が点在する。	24	CM'																								
									105.70~105.83m, 106.68~106.73m: 割れ目が交差し、径10~30mmに岩片化する。各割れ目は砂や粘土が付着していないほぼ未風化な面をもつ。	17																									
107									106.21~106.81m: ゆる割れ目が多くハンマーの強打でも分離・細片化しない。密着度の低いものは開口割れ目化している。	14	CL'																								
									107.15~107.62m: CL 割れ目沿いに径3~5mmに細片化する部分があるが、割れ目に砂状~粘土状の挟在物は分布せず。ほぼ未風化な面をもつ。面の一部は緑泥石化変質により淡緑色化するが、粘土は伴わない。	6																									
108									107.62~115.99m: CM 岩片は硬いが、割れ目が多い。110.10~114.06m間は10~30mm程度の間隔で密着度の低い層に割れ目も含んでいる。ほぼ未風化で、割れ目に挟在物は殆んど分布しない。108.00~110.10m間は、30~50°の割れ目が主体で、一部は交差して岩片状を呈する。	5																									
109									108.57~108.60m: 40°の割れ目沿いに径1mm程度砂状化する。上端面には暗緑色砂がフィルム状に付着。微細な黄鉄鉱を伴っている。	5	CM'																								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験					原位置試験 (孔内水平膨脹)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)									
													0	10	20	30	40											50								
111									110.40~110.51m: 白色化したゆ着割れ目沿いに分離し、開口割れ目化している。	9 (9)																										
112									111.37m: 75~80° の割れ目沿いの一部で幅1~2mm砂状化。これに交差する30° の割れ目は止められている。砂状化部の分布は途切れており、連続性に乏しい。高角度割れ目周辺の岩盤に原岩組織が見られる。	11 (11)																										
113									112.41~112.44m: 5° 前後の割れ目沿いに片状化するが、岩片は軟質化しない。	4 (4)																										
114									113.56~113.60m: 傾斜25°、幅4cmのアブライト脈を挟む。花崗斑岩との境界は明確でゆ着している。 113.63~113.81m: 白色の潜在割れ目が5~10mm間隔で細かく分布。密着度の低いものも含む。 114.37~115.70m: 緑色化している。 114.65m: 80~85° の割れ目の一部に鏡肌と幅0.5mm以下の暗緑色粘土がフィルム状に付着。割れ目は湾曲して凹凸しているが、割れ目のみ合わせは良い。割れ目周辺の岩盤に原岩組織が見られ、系統的な割れ目も存在しない。	9 (9)																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	排水量 (L/分)				
														(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)														
126			アフライト	灰褐	Bg	IVg	bg	β	2	125.00~125.38m: 白い筋状のゆる割れ目が多いが、周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。	CM'																		
		125.38~125.70m: CL 密着度が極めて低い割れ目やゆる割れ目が10mm程度の間隔で分布。ハンマーの軽打で分離・細片化する。開口化するものも多い																											
		125.70~126.25m: CM 一部で密着度が低い割れ目やゆる割れ目を含む。割れ目に挟在物は分布しない。																											
127			アフライト	にぶい橙	Cg	Vg	cg	γ	2	126.25~127.41m: CL 一部で50~60°の割れ目沿いに径5mm前後で細片化~砂状化する。また、幅1~2mmの緑灰~灰白色の軟質粘土も挟む。硬さ「C」の岩片主体部は灰褐色で残留し、細片化~砂状化部はにぶい橙色で、全体では後者の色調が主体。127.00m以深は挟在物は分布しない。	CL'																		
		●127.41~127.48m: 破砕部 127.41m: 粘土状部 (Ho-1) 傾斜50°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を含まない。軟質。灰白色を呈する。幅0.5~1mm。 127.41~127.48m: 粘土混じり礫状部 (H) 上端50°で直線的、下端50~66°で薄曲して連続。径3~5mmに細片化した岩片からなり、岩片間には幅1~2mmの軟質粘土が脈状に分布。岩片は硬さ「D」主体で硬さ「E」も少量含む。127.47m以上位のHo-1の粘土と同方向のせん断面沿いにマンガン染染を伴う。にぶい黄橙色を呈する。幅40~45mm。 127.48~128.82m: CL 40~60°の割れ目が主体で、一部で幅1mm以下の風化砂状部を挟む。粘土は挟まない。																											
128			アフライト	灰褐	Cg	Vg	cg	γ	2	127.82~127.83m: 上端60°、下端61°の割れ目に囲まれ、径2~3mmの細片を含む硬質な中粒~粗粒砂状を呈する。砂状部中の細片に定向配列は見られない。粘土は伴わない。割れ目周囲の岩壁に原岩組織が見られる。下位の別方向の割れ目にもマンガン汚染した面が見られる。	CM																		
		●128.82~128.97m: 破砕部 128.82~128.87m: 砂混じり岩片状部 (H) 上端90°で幅1~2mmの軟質な緑灰色粘土脈を伴い、下端63°でいずれも直線的に連続。下位のHo-2の粘土に平行~斜交する割れ目と、これに60~90°で斜~直交する割れ目が多く、径3~10mmに岩片化している。岩片間が薄く砂状化する。粘土化は少ない。灰赤色を呈する。幅50~90mm。 128.87~128.88m: 砂混じり粘土状部 (Ho-2) 傾斜63°で上下端とも直線的に連続。径1~3mmの石英粒と岩片を20%程度含む。軟質。暗緑灰色を呈する。幅3~5mm。																											
129			アフライト	明褐灰	Cg	Vg	cg	γ	2	128.88~128.97m: 粘土・砂混じり岩片状部 (H) 上端63°、下端62°でとも直線的に連続。下端は幅2mmの硬質な白色鉱物脈と接する。60~70°と10~30°の割れ目が多く、径5~15mmに岩片化する。岩片間に緑色の粘土細脈や薄く砂状化を伴う。灰赤色を呈する。幅50mm。	CM																		
		128.97~129.95m: CL 129.11~129.26m: 風化が進み、割れ目沿いに砂状~細片状化する。マンガン汚染が見られる。 129.95~130.22m: アフライト 花崗斑岩との境界は漸移的である。 129.95~130.79m: CM 下端部の一部で割れ目沿いに幅1~3mmの砂を挟むが、これ以外に挟在物は分布しない。																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)				
														0	10	20	30	40												50			
		156	花崗斑岩	明褐灰						155.00~160.00m: CL 割れ目沿いは暗緑灰色の緑泥石化が進む。特に、157.89~160.00mでは緑泥石化が著しく緑灰色を呈し、幅2~20mmで砂~シルト状化する部分も認められる。				0	10	20	30	40	50														
				Cg						155.89m: 88° の割れ目に幅2~8mmの緑泥石脈を挟在する。																							
		157		灰褐						156.25m: 75~80° で幅7~8mmが径2~3mmに細片化し、岩片間に緑泥石化~シルト状部を伴う。																							
				Vg	γ					156.72m: 75~80° で幅1~10mmの硬質な砂状部が径1~2mmの花崗斑岩の扁平礫状部を挟んで上下位方向に連続する。下端は158.24mで、下端面には鉄肌と緑泥石粘土フィルムが付着する。156.67mには高角度割れ目とほぼ直交する割れ目が見られる。同様な暗灰色の細粒部は様々な方向の割れ目を充填している。																							
		158								158.00~158.20m: 径5~10mmの礫状部と硬質な砂状部からなり、砂礫状を呈する。																							
			Dg																														
		159		緑灰						159.06~159.33m: 割れ目沿いに暗緑灰色砂状~シルト状の緑泥石が幅2~20mmで分布する。160.00mにかけて岩芯まで暗緑灰色化する。																							
			Cg																														
			Dg							159.78m: 70~80° で幅1~10mmの方解石脈が膨縮しながら連続する。																							
		93.03	160.00																														

余白

H24-B14-2

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ペット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)										
														0	10	20	30	40												50									
				盛土	明褐					5.23~5.29m: 有機物混じり砂を挟む。砂は中~粗粒砂でシルトや炭化物を含む。全体に若干有機質である。																													
		2.35	6.66		明褐					6.66~8.39m: 礫質砂 6.66~6.82m: 少量の粗粒砂を含む細粒砂。少量の未分解木片を含む。 6.82~8.08m: 細~粗粒砂からなり、7.43m以深ではシルトが混じる。全体に径2~5mmの細礫が混じる。細礫は角~亜角礫を主とする。礫種は花崗斑岩、アブライト、石英からなる。 6.82~7.65m: 上部はシルト質、下部は礫質となる。 7.10m付近まで径5~10mm程度の石英の細礫を多く含む。炭化物も礫状に含む。 7.10~8.08m: 径5~30mmの風化礫及び半風化礫を含む。 7.30m付近、未分解の植物片を含む。 7.70m付近、炭化物を含む。																													
		1.13	8.39		灰					8.08~8.39m: 砂は石英、長石主体で細~中粒砂。均質であるが、8.30m以深は若干の有機物を含む。																													
		0.82	8.83		黒褐					8.39~8.83m: 砂混じり有機質シルト 8.39~8.53m: 径1.5cmの花崗岩類の角礫を含む粗粒砂。8.40~8.45mにかけて縦方向に炭化木片を含む。 8.53~8.83m: 傾斜45~50°で有機物及び炭化木片を含む。所々、粗粒砂をブロック状に含む。																													
		0.31	9.54		黄					8.83m付近に粗粒砂の薄層を挟む。 8.83~9.54m: 有機物混じり砂 8.83~9.10m: 有機物混じり砂粗粒砂を主とし、石英細礫を5%未満含む。少量の炭化物を含む。 8.90~8.97m: 生木を含む。 9.10~9.26m: 有機物に富み、一部未分解の繊維が分布する。 9.13~9.15m間は極細粒砂を薄層状に挟む。下部は粒径がやや粗く、砂質シルト~シルト質砂状を呈する。 9.26~9.54m: 細粒砂を主とするが不均質で、径0.5~1cmの石英角礫を含み、粘土分を少量~中位で含む。また、炭化物片、未分解繊維も少量含む。 9.54~11.12m: 砂礫 径2~50mmの花崗斑岩礫が主体。基質は少量の粘土分を含む粗~中粒砂。 9.54~9.71mに径17cmの玉石を含む。																													

標尺	標高 (m)	深度 (m)	柱状	岩種	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記	事	コア採取率 (%)	岩級	区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
																(N値～深度)	(N値)	0	10	20											30
11	-0.80	11.12		黄	赤褐					10.70～10.72m: 細粒砂を薄層状に挟む。傾斜45°程度。		100																			
	-1.18	11.66		黄	灰白					11.12～12.04m: 礫混じり砂 (径2～5mmの石英の角礫を5～10%程度含む。砂は粗～細粒砂が主で、少量のシルト分を含む)。		100																			
	-1.28	11.79			灰白		コア欠知			11.40～11.42m: 幅10mmの灰白色シルトを挟む。 11.53～11.55m: 幅15mmの灰白色シルトを挟む。 11.66～11.79m: スライム、黄褐色のシルト混じり粗粒砂からなる。		100																			
12	-1.45	12.04		灰					12.04～12.69m: 有機物混じり砂 (細～中砂を主とし、部分的に有機物混じりシルト質となる。有機物は傾斜20～30°を呈する)。 12.13m付近、有機質シルトの薄層を挟む。 12.37～12.41m: 厚さ4cmの有機質シルトを挟む。		100																				
	-1.91	12.69		灰					12.65～12.67m: 有機質シルトを薄層状に挟む。 12.69～13.09m: 有機物混じり砂質シルト (シルト～中粒砂からなり、全体に有機物が混じる)。 12.70～12.73m: 有機質シルトを薄層状に挟む。 12.76～12.85m: 径2～4cmの花崗斑岩の垂角礫を含む。 12.85～13.09m: 砂混じり粘土で、下部は砂質粘土状である。 13.00m付近まで有機物を多く含むが、下部は少なくなる。 13.09～13.80m: シルト混じり砂 (細砂を主とする砂に全体にシルトが混じる)。		100																				
-2.20	13.80		灰	褐					13.17～13.60m: シルト～粘土分を含む。13.60～13.80m: 均質な細～極細粒砂からなる。 13.40m付近、径5～7mmの石英礫を約5%含む。 13.80～16.24m: 砂礫 (径2～40mm (最大径330mm) の垂角～垂円礫を主とし、所々、径40～70mmの円～垂円礫を含む。礫種は花崗斑岩が主体で、礫率50～70%程度。基質はシルト混じりの不均質な砂からなる。半くさり礫と硬質礫の割合は同程度である)。		100																				
14				暗褐	砂礫							100																			
				暗褐	砂礫							100																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入) 試験 (N値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ネット	給圧 (kN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)							
													0	10	20	30	40												50						
16	-4.42	16.24		砂礫	暗褐				15.08~15.17m: 花崗斑岩の玉石を含む。 15.42~15.50m: 風化花崗斑岩の玉石を含む。 15.70~16.00m: 花崗斑岩の岩塊を含む。 16.24m: 砂礫と花崗斑岩の境界は密着しており、傾斜45°程度を示す。																										
17				灰白		Eg	dg δ	3	16.24~18.08m: 強風化・変質部で、全体に変質が認められ、コアは淡く赤色を帯びた灰白色を呈する。局所的にやや硬い所があるが、全体的に針貫入可能である。 16.24~16.94m: 傾斜30~50°の割れ目跡が1~3cm間隔で発達する。白色細粒物をフィルム状~幅1mmで挟む。下記に比べて原岩組織を残す。 16.94~18.04m: 割れ目が不明瞭となる。 17.30~17.58m: 原岩組織が不明瞭で、指圧で砂混じりシルト状に崩せる。																										
18				花崗斑岩	明褐灰	Dg	cg γ	3	18.04~18.68m: 割れ目沿いの変質が著しく、硬質部を径5~20mmの礫状に残す。軟質部は針貫入可能である。傾斜50~70°及び90°程度の割れ目跡に白色細粒物をフィルム状~幅1mmで挟む。 18.33~18.37m: 強く変質する。上端40°、下端は不明瞭である。		D																								
19				灰白		Eg	dg δ	4	18.68~19.89m: 変質が著しく、割れ目と原岩組織が不明瞭である。全体に指圧で変形するほど軟質である。 19.00~19.25m、19.55~19.89m: 網目状の変質粘土は淡黄褐色を呈する。 19.19~19.50m: 傾斜75°で滑曲して幅1~2mmのシルト・砂混じり粘土脈が分布し、粘土脈に沿って幅2cmが灰白~淡黄褐色を呈する。 19.89~20.29m: 2~10mm程度の間隔で網目状に割れ目が発達し、変質粘土をフィルム状~幅1mmで挟む。岩片はやや軟質である。																										

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記	事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 cm R Q D ↓ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入) 試験						原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ (cm)	給圧 (kN·rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
																(N 値 ~ 深度) 図																					
21			+	花崗斑岩	灰白	Dg Eg Vg Dg	dg cg dg cg	δ γ			20.05~20.29m: 風化・変質作用により、全体に軟質化する。岩片状にやや硬質な部分を残すが針貫入可能である。20.05~20.09m間及び20.24~20.29m間は変質が著しく、塊状シリノイト状を呈する。下端は傾斜64°で下位と境される。 20.29~20.90m: 風化・変質の影響が弱くなるが、微細な割れ目が全体に発達し脆弱である。 20.48~20.84m: 傾斜24~68°で幅5~15mmの灰白色の砂混じり粘土を3条程度挟む。	0 50 100 2 2 (0) (100)	D'																								
22			+	花崗斑岩	明褐色	Vg Cg Dg	cg dg cg	γ			21.69~21.74m: 傾斜50°で幅3mmの灰白色粘土質砂を挟む。 21.70m~22.00m: 径1~3cm程度の礫状を呈する。	2 4 (0) (100)																									
23			+	花崗斑岩	明褐色	Dg	dg	δ			22.42~22.63m: 微細な割れ目が発達し、割れ目沿いに劣化する。 22.63~23.71m: 割れ目が多く、径1~3cmの角礫状を呈する。	2 4 (0) (100)	cl'																								
24			+	花崗斑岩	明褐色	Vg Cg Iv Vg Dg	cg cg cg dg dg	γ			23.71~23.85m: 長さ3~9cmの短柱状コアからなる。23.71m付近の割れ目の面に黒色粘土を挟む。 23.85~24.48m: 径1~5cmの岩片状を呈する。岩片はやや硬質であるが、割れ目沿いに径0.2~1cm程度の細片化が見られる。 24.48~25.88m: 径0.5~3cm程度の礫状~細片状を呈し、割れ目として認識できない。コア採取時に細粒分を流失している。特に、25.30~25.77m間は、径5mm以下のものを流失している。岩片はやや硬質で、風化・変質の影響は少ない。	2 4 (0) (100) 2 4 (0) (100)	D'																								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
															0	10	20	30	40												50				
26			花崗斑岩 にぶい黄褐色	褐灰	Dg	VIg	dg	γ	2		25.88~26.62m: 土砂~礫状を呈する。岩片は径5~15mm程度のもが多く、25.88~26.12m間は径5~50mmのものを主体とする。基質はシルト混じり中粗砂で、不規則にマンガンに連続されている。指圧で変形するほど軟質である。	0	D'		0	10	20	30	40	50															
27				Dg							26.62~27.62m: 5~15mm間隔で網目状に割れ目が発達し、割れ目沿いは土砂~細片状を呈する。	0																							
28				Cg	VIg	cg			2		27.28~27.62m: 上位に比べて割れ目沿いの岩質劣化は弱く、径1~3cmの岩片状を呈する。	0																							
				Dg							27.47~27.62m: 傾斜60~65°の割れ目が1.5~3.5cm間隔で発達する。	0																							
				Cg							27.62m: 傾斜65°で幅1~2mmの黄灰色砂混じりシルトを不連続に挟む。シルトの周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	0																							
				Dg							27.62~27.97m: 網状に割れ目が密集し、コアはやや脆弱となる。	0																							
29				Dg							27.92~28.21m: 傾斜60~75°の密着割れ目が2~10mm間隔で発達するほか、傾斜20~25°の割れ目が12cm間隔で発達する。後者の割れ目はマンガン汚染を伴う。	0																							
				Dg							28.21~28.50m: 2~10mm間隔で微細な割れ目が発達し、全体に劣化する。	0																							
				Eg	VIg	dg			4		28.36~28.45m: 傾斜30°程度の微細な割れ目が1~10mm間隔で発達する。	0																							
				Dg							28.45~28.50m: 上端55°、下端50°で原岩組織が不明瞭となる。	0																							
29			Dg							28.50~28.51m: 礫混じり粘土状部 (Hc-2)	0																								
			Cg	VIg	cg			2		上端50°、下端50°。径5mm以下の岩片を10%程度含む。黄灰色を呈する。幅1~1.5mm。	0																								
			Dg							28.51~28.53m: 粘土混じり礫状部 (Hj)	0																								
29			Dg							上端50°で直線的に、下端40°で波打って連続。径10mm以下の岩片主体で岩片間に幅1~2mmの黄灰色粘土を伴う。にぶい黄褐色を呈する。幅23~30mm。	0																								
			Eg	VIg	dg					28.53~28.66m: 粘土混じり角礫状部 (Hj)	0																								
			Cg	VIg	cg			3		上端40°で波打って連続。下端は不明瞭。径5~20mmの岩片からなり、細粒部が分布する。にぶい黄褐色を呈する。幅120mm。	0																								
29			Dg							28.66~28.71m: 土砂状を呈する。	0																								
			Cg	VIg	cg					28.71~29.45m: 傾斜40°及び60°の割れ目が2~6cm間隔で発達。交錯し、岩片状を呈する。割れ目面にはしばしばマンガンを伴う。	0																								
			Eg	VIg	dg					29.16~29.45m: 風化・変質が進み、脆弱である。	0																								
29			Dg							29.45~29.91m: 原岩組織と割れ目は不明瞭となる。針貫入可能で指圧で容易に崩せる。	0																								
			Cg	VIg	cg					29.76~29.81m: 硬質部を礫状に含む	0																								
			Eg	VIg	dg					29.81~29.97m: マンガン汚染が拡がる。	0																								
29			Dg							29.91~30.21m: 傾斜40~55°の割れ目が0.2~2cm間隔で発達し、割れ目沿いに原岩組織が不明瞭になるところもある。コアは全体に褐色を帯びる。	0																								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	排水量 (L/分)							
															(N 値 ~ 深度) 図																					
46			+	花崗斑岩	褐灰	Eg	VIg	dg	δ	3		45.00~45.20m: 風化・変質を強く受け、割れ目や原岩組織の一部が不明瞭となる。	0	CL'																						
												Bg																				IVg	γ	2	45.20~45.90m: 傾斜50~60°の割れ目が2~10cm間隔で発達し、岩片状~柱状を呈する。割れ目には黄褐色土砂状物質を挟むことが多い。	100
												Cg																								
												Dg																				cg	δ	3	45.90~47.37m: 風化・変質をやや強く受け、一部の割れ目や原岩組織はやや不明瞭となる。全体に1~3cm間隔で網状の割れ目が発達する。ほとんどの割れ目に灰白~黄褐色の変質粘土を挟む。 46.07m: 傾斜35°で幅12mmの明黄褐色シルト質砂を挟む。 46.10~46.17m: マンガン汚染し、割れ目や原岩組織は不明瞭である。コアは硬い。 46.20m: 傾斜83°で幅1~6mmの灰白色砂混じりシルトを挟む。	
																																			46.74m以深は変質の程度がやや弱く、上位と比べて割れ目間隔が広がる。	
												Cg																				IVg		2	47.03m: 傾斜34°で幅3mmの灰白色砂混じりシルトを挟む。	
												Dg																				VIg	dg		●47.37~47.40m: 破砕部 粘土混じり礫状部 (H) 上端40°、下端45°とともに凹凸して連続。径2~5mm程度の岩片主体である。下端付近に幅1~3mmの暗灰色粘土を挟む。灰白~褐色を呈する。幅20~25mm。	
												Cg																				IVg			47.40~49.24m: 全体に変質し、シルト混じり砂礫状を呈する。岩片は硬質であるが、網目状に灰白色の粘土~シルトが分布し、全体として脆弱である。	
												Dg																				VIg	dg		47.50m: 傾斜50°で幅3mmの灰白色変質粘土を挟む。	
												Dg																				IVg			47.70~48.87m: 傾斜80~90°の割れ目沿いに著しく変質し、粘土~土砂化する。	
												Dg																				VIg	dg		48.09m: 傾斜72°で幅3~5mmの灰白色のシルト質砂を挟む。	
												Dg																				IVg			48.09~48.86m: 網状に変質粘土脈が発達し、粘土質砂礫~細片状を呈する。岩片に風化変質は認められない。	
47			+	花崗斑岩	褐灰	Eg	VIg	dg	δ	3		0	CL'																							
																															Cg	IVg		2	●49.24~49.55m: 破砕部 49.24~49.26m: 礫混じり粘土状部 (Ho-2) 上端20°で凹凸する。下端35°。上端は灰白色で、下端に向かって灰色に漸移する。幅15~25mm。 49.26~49.42m: 粘土混じり砂礫状部 (H) 上端35°で直線的に連続。下端50°で波打って連続。径2~10mmの岩片主体で、岩片間に粘土細脈が傾斜40~60°で分布する。変質が進み、緑灰色を呈する。	
																															Dg	VIg	dg		49.42~49.45m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端50°で波打って、下端20°で直線的に連続。上下端に幅0.3~5mmの暗灰色粘土を伴う。径2~10mmの粘土化した岩片主体である。灰白色を呈する。幅10~20mm。	
																															Dg	IVg		2	49.45~49.55m: 粘土混じり礫状部 (H) 上端20°、下端35°とともに直線的に連続。径5~10mmの岩片主体で岩片間に灰白色の粘土脈が分布する。淡赤灰色を呈する。	
																															Eg	VIg	dg		49.50m: 砂混じり粘土状部 (Ho-2) 傾斜45°で、幅5~8mmの白~淡赤灰色砂混じり粘土を挟む。	
																															Dg	VIg	dg		49.55~49.64m: 風化・変質により、コア表面が粗く、脆弱である。	
48			+	花崗斑岩	褐灰	Eg	VIg	dg	δ	3		0	CL'																							
																															Dg	VIg	dg		49.64~50.50m: 傾斜40~50°の割れ目が1~3cm間隔で発達するほか、傾斜75°以上の高角割れ目が分布する。コア採取時に乱し、径1~5cmの細片状を呈する。	
																															Dg	IVg		2		
																															Eg	VIg	dg			
																															Dg	VIg	dg			
																															Dg	IVg		2		
49			+	花崗斑岩	褐灰	Eg	VIg	dg	δ	3		0	CL'																							
																															Dg	VIg	dg			
																															Dg	IVg		2		
																															Eg	VIg	dg			
																															Dg	VIg	dg			
																															Dg	IVg		2		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																													
															0	10	20	30	40												50																																												
66	66		[Pattern]	アブライト							65.32m: 傾斜45° でフィルム状~幅5mmの灰白色砂混じり粘土を挟む。 65.32~65.86m: 風化・変質し、軟質化する。割れ目治いに脱色し細粒化する。一部に褐色化も見られる。有色鉱物層線部も褐色化する。 65.67~65.86m: コア全体が脱色し、灰白~淡黄色を呈する。	0	CL'																																																														
																																				Cg	Vg	bg	γ	2																																			
																																				Eg	Vg	dg	δ	3																																			
																																				Dg	Vg	cg	δ	2																																			
																																								2																																			
																																								3																																			
																																				Cg	IVg																																						
																																				67	67		[Pattern]	アブライト						65.85m: 傾斜34° で幅1mmの灰白色粘土を挟み、マンガン濃集を伴う。 65.86~66.06m: 不規則に潜在割れ目が発達し、ハンマーの打撃で分離しやすい。 66.06~67.38m: 傾斜30~50° の割れ目が2~15cm間隔で分布し、それと斜交する傾斜65° 以上の高角度割れ目が発達する。 66.06~66.81m: 高角度割れ目の多くは密着する。割れ目、密着割れ目のほとんどで褐色化が認められる。	0	CL'																											
																																																																							Bg			γ	2
																																																																											2
																																																																											2
																																																																											2
																																				68	68		[Pattern]	アブライト						66.86m: 傾斜45° で幅15mmが脱色し、軟質化する。 66.90m: 傾斜45° で幅1mmの淡黄褐色砂混じりシルトを挟む。	0	CM'																											
																																																																				Bg			γ	2			
																																																																				IVg							
Cg																																																																											
Dg	VIg	cg	δ	3																																																																							
69	69		[Pattern]	アブライト						67.38~67.51m: 上端35°、下端20°で囲まれ、風化・変質を強く受け、指圧でほぐせるほど軟質である。 67.51~68.23m: 傾斜50~70° の割れ目が2~5cm間隔で交錯し、細片状を呈する。また、高角度の潜在割れ目も全体に発達する。割れ目治いに細片化する。	0	CL'																																																															
																																	Cg	IVg	bg	γ	2																																						
																																	Dg																																										
																																	Dg	VIg	cg	δ	3																																						
																																	Eg		dg																																								
69	69		[Pattern]	アブライト						68.23~68.33m: 網目状に変質粘土脈が分布する。下端境界は不明瞭である。割れ目跡は残る。 68.42~68.63m: 土砂~角礫状を呈する。マンガン汚染で礫状化するが、礫に定向配列は見られない。 68.48~68.57m: コアはオリーブ灰色を帯びる。 68.63~70.03m: 傾斜40~50° 程度の割れ目及び潜在割れ目が1~3cm間隔で発達する。割れ目治いに岩質劣化し、細粒化~細片化する。潜在割れ目はハンマーの打撃で分離しやすい。 68.93~69.00m、69.19~69.25m間は、上下粒と比べて強く風化・変質し、コアの一部は指圧で崩せる。 69.18~69.22m: 上端50°、下端45°で幅30mmの明黄褐色のシルト混じり砂礫状を呈する。上下端に幅1mm程度の灰白色砂混じりシルトを伴う。 69.42m、69.72m、69.80m: 傾斜40~45° で幅0.3~1mmの暗オリーブ灰色粘土を挟み、白雲母を伴う。 69.96~70.00m: 傾斜75° 以上の高角度変質部で指圧で容易に崩せる。全体にマンガンを伴う。	0	CL'																																																															
																																		Dg	Vg	cg	δ	3																																					
																																		Dg																																									
																																		Dg																																									
																																		Dg																																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平露露)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																																														
															N	値	0	10	20												30	40	50																																																																																											
71			* * * * *	褐灰				δ	3		70.03~70.33m: 割れ目が多く、それに沿って割れるため原岩組織は不明瞭となる。全体に灰白色粘土細脈が分布し、やや軟質となる。一部は指圧で崩せる。 70.03~70.14m: マンガンが濃集する。 70.16m: 傾斜70°の割れ目を確が横断する。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。 70.33~70.88m: 傾斜40°程度の割れ目が卓越し、0.5~4cm間隔で発達する。割れ目が密集するところでは変質がやや進む。 70.88~71.05m: 上位と比べて風化・変質し、軟質化する。 70.88~70.93m: 上位はコア昇降により不明、下端は傾斜45°で変質で指圧で変形するほど軟質化し、網目状粘土が発達するが、原岩組織は認められる。 71.32~71.79m: 上下位に比べて変質が進み、コアの表面は粗い。	CL'																																																																																																																
72		* * * * *									アブライト																														γ	2		71.79~72.14m: 傾斜40~60°の割れ目が交錯し、一部細片状となる。割れ目沿いに細粒化し、酸化・マンガン汚染も認められる。 72.14m: 傾斜40°で幅1~2mmの灰~緑灰色砂混じりシルトを挟み、白雲母を伴う。 72.14~72.90m: 傾斜20~30°の割れ目が1~10cm間隔で発達する。割れ目沿いに岩質劣化する。 72.70~73.00m: 傾斜80~90°で幅1~2mmの石英脈を挟む。 72.90~73.53m: 傾斜50°及び70°以上の高角度割れ目が5~10cm間隔で発達する。 73.00~73.13m: やや変質し、脱色する。 73.13m: 傾斜40°の割れ目は褐色化し、周囲も斑状に褐色化する。	CM'																																																																															
73																																												* * * * *																									明褐灰				γ	3																																																		
74																																																																																																	* * * * *	明褐灰				γ	2																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状 図	岩種 区分	色調	硬軟	コア 形状	割れ 目の 状態	風化 程度	変質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級 区分	孔内水位 (m) /測定 月日	標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置 試験 (孔内水平距離)	室内 試験	掘進 月日	掘進 速度 (cm/時)	孔径 (mm) /孔壁 保護	コア チップ /ビット	給 回 送 水 量 (MPa)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)																									
															N	0	10	20	30											40	50																							
			[Pattern: Small stars]	明褐灰			Vg	γ			<p>75.24~75.91m: 傾斜40°及び75°程度の割れ目が発達し、それらと斜交する潜在割れ目が分布する。割れ目及び潜在割れ目沿いに岩質劣化し、上下位と比べてやや脆弱である。</p> <p>75.35m: 傾斜35°の割れ目沿いに幅8~20mmが土砂状を呈する。コア採取時に細粒分を一部流失する。</p>		CM'																																									
	76	Bg												IIIg		75.91~77.91m: 傾斜40~60°の割れ目が5~20cm間隔で分布し、割れ目沿いに脱色する。割れ目面はオリブ灰色を呈し、白雲母を伴う。わずかに黄鉄鉱も付着する。																																						
		IVg												IIg		76.27m以深は、潜在割れ目が少なくなる。																																						
							ア プ ラ イ ト							灰 白			β			<p>76.65m: 傾斜50°で幅3~5mmの石英脈を挟む。</p>		CH'																																
	77	IIIg																								77.38m: 傾斜40°の割れ目に黄鉄鉱が濃染して晶出する。																												
		IVg																								77.91~78.25m: 傾斜40~60°の他、不規則な高角度割れ目が発達し、細片状を呈する。割れ目沿いに細片化や脱色が認められる。																												
		IIIg																								78.25~79.14m: 傾斜20~40°の割れ目が2~10cm間隔で発達する。割れ目面は褐色化もしくは緑灰色化し、多くの割れ目に白雲母を伴う。割れ目沿いに細粒化し、一部流失しているため割れ目のみかみ合せが悪い。																												
							明 褐 灰													<p>79.14~79.79m: 傾斜40~50°の割れ目が1~3cm間隔で発達する。割れ目沿いに脱色・細粒化が進む。コア採取時に細粒物を流失する。</p>		CL'																																
	78	Vg																								79.42m: 傾斜20°で幅5~10mmの灰色の石英脈を挟む。																												
		IVg																								79.64~79.79m: 割れ目沿いの褐色化が目立つ。																												
			褐 灰							<p>79.77m: 傾斜40°、幅8mmで灰白~暗褐色のシルト質砂状に変質するが、硬質である。</p> <p>79.79~82.13m: 傾斜40~50°の割れ目が3~8cm間隔で分布する。割れ目面の一部はオリブ灰色を呈し、白雲母を伴う。割れ目沿いに脱色する。</p>		CM'																																										
	79	Bg														79.79~82.13m: 傾斜40~50°の割れ目が3~8cm間隔で分布する。割れ目面の一部はオリブ灰色を呈し、白雲母を伴う。割れ目沿いに脱色する。																																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)												
															0	10	20	30	40												50											
81			* * * * *	褐灰							80.63~81.47m: 傾斜70°以上の高角割れ目が発達する。割れ目は凹凸し、風化・変質、挟持物は認められない。	0 50 100	CM'																													
82											IIg																					bg	β	2	81.25m: 傾斜40°の割れ目に幅1~2mで黄鉄鉱が付着する。	81.40~81.76m: 傾斜30~50°の割れ目が交錯し、コアは一部薄片状を呈する。割れ目沿いに細片化し、コアのかみ合せが悪い。	81.60m: 傾斜50°で幅2~5mmの石英脈を挟む。	81.99m: 傾斜45°で幅1mmの石英脈を挟む。	82.13~83.59m: 上位と比べて割れ目が少ない。傾斜40~50°の割れ目が分布する。割れ目は鉄灰~オリーブ灰色を呈し、白雲母、黄鉄鉱の付着が認められる。割れ目及び潜在割れ目沿いに脱色する。	82.33m, 82.36m: 傾斜40°で幅1~2mの石英脈を挟む。	23	57
83																																			IVg				82.88~83.03m: 傾斜30~40°の割れ目が密集し、割れ目沿いの一部で細片化する。白雲母、黄鉄鉱の付着が目立つ。	83.59~83.88m: 傾斜30~50°の割れ目が4~10cm間隔で発達し、不規則な高角度の潜在割れ目が分布する。上位と同様に割れ目沿いの脱色が認められるが、より明確に認識できる。	83.88~84.54m: 上位より割れ目が少なく、傾斜45°の割れ目を主とする。	19
84											IIIg																												84.16~84.45m: 傾斜70°以上の高角度割れ目が認められるが、連続性が悪い。	84.54m: 傾斜45°の割れ目面に柱状の石英の微晶が晶出する。	84.54~85.14m: 割れ目が多くなり、割れ目沿いに細片~細粒化する。	10
			Cg	Vg	cg	γ	3	84.83m: 傾斜40°の割れ目にフィルム~幅1mmの方解石脈を伴う。	84.83~85.06m: 割れ目間隔1~2cm程度と密になり、上下位と比べて変質が進み、やや軟質となる。	84.91~84.94m: 傾斜45°で幅25mm程度の変質し、灰白色粘土が網目状に分布する。																																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状区分	岩種	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ピケット	給転圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)												
															N	(m)																							
															0	10																							
86			アプライト 褐灰				Cg Vg cg γ	3		2	85.06~89.74m: 傾斜30~40°の割れ目が5~30cm間隔で分布し、長柱状を主体とする。 85.14~85.64m: 割れ目面の剥離は認められない。 85.28m: 傾斜35°で幅1.5mmの石英脈を挟む。																												
											85.59~86.28m: 傾斜60~70°の密着割れ目が発達し、それに沿って脱色する。一部は開口し、細片化を伴う。																												
											85.96~87.52m: 傾斜80°以上で湾曲する割れ目が複数分布する。割れ目沿いに細片化~細粒化する。86.58~87.00m間は岩質劣化部を伴う。																												
											86.50~86.58m: 高角度割れ目面に柱状の石英が晶出する。																												
87											IIg																												
											Bg bg β																												
											IIIg																												
88											IIg									87.61m以深、傾斜40~60°の割れ目が多くなる。 87.61~88.31m: 傾斜40~60°の割れ目や潜在割れ目が分布し、それらに沿って脱色する。割れ目面はオリブ灰色を帯びる。 87.73m: 傾斜40°の割れ目に黄鉄鉱が晶出する。																			
											IIIg									88.22m: 傾斜43°の割れ目は暗オリブ灰色を呈し、柱状の石英が晶出する。 88.22~88.30m: 微細な有色鉱物を多く含み、コアは暗色を帯びる。																			
											IVg									88.90~89.09m: 傾斜45°程度の割れ目が0.5~3cm間隔で発達し、一部割れ目沿いに細片化する。わずかに脱色が認められる。 89.06m, 89.42m, 89.55m: 傾斜43~50°の割れ目に径0.3~0.5mmの石英が晶出する。割れ目面は緑灰色化する。																			
89											IIg									89.74~90.56m: 傾斜35~55°の割れ目が2~6cm間隔で発達し、コアは一部で細片状を呈する。																			
											IIIg																												
			IIg																																				
			IVg																																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)															
													(N 値 ~ 深度) 図																														
91			[Dotted Pattern]	ア プ ラ イ ト	褐 灰	IV _g	IV _g		90.08~90.56m: 傾斜45° 程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。	1	CM'																																
															90.44m: 傾斜45° で幅3~8mmの石英脈を挟む。	(1)																											
															91.08~91.13m: 細かい割れ目が発達し、変質も認められ、細礫状を呈する。																												
															91.13m: 傾斜40° の割れ目に黄鉄鉱が晶出する。																												
															91.48~91.63m: 傾斜10~50° の割れ目が多く、主に岩片状~礫状を呈する。	9																											
															91.53~93.00m: 傾斜85~90° で幅5~10mmの石英脈が連続して分布する。	(6)																											
92													B _g	b _g		92.13m: 傾斜40° の割れ目の一部に黄鉄鉱が晶出する。	6																										
																	(4)																										
93																																											
																93.64m: 傾斜40° の割れ目に黄鉄鉱が晶出する。	(6)																										
94																94.10~94.63m: 傾斜10~45° 程度の割れ目が多く、岩片状~礫状を呈する。	6																										
									94.24m: 傾斜45° で幅1~2mmの灰白色砂質粘土を挟む。	7																																	
									94.34m, 94.37m: 傾斜40° の割れ目に黄鉄鉱が晶出する。	(4)																																	

標 尺 (m)	標 高 度 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟	コ ア 形 状	割 れ 目 の 状 態	風 化	変 質	記 事	コ ア 採 取 率 → (%) 最大コ ア長 → cm R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) 測 定 日 月	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原 位 置 置 試 験 (孔内水平距離)	室 内 試 験	掘 進 日 月	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) 孔 壁 保 護	コ ア チ ュー プ ノ ビ ット	給 圧 (kN・ rpm MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)							
															0	10	20	30	40												50						
96			[Pattern]	褐 灰			IVg	bg	2		95.07~96.03m: 傾斜10~50° の割れ目が多く、岩片状~礫状を呈する。 95.34~95.43m: 細かい割れ目が発達し、細礫状を呈する。 95.36m: ほぼ鉛直な割れ目に幅1mmの灰白色粘土を挟む。	5 (0)	CL'																								
							Vg	cg																													
97			[Pattern]	明 褐 灰			Dg	dg	3	β	96.38~96.54m: 傾斜45° 程度の割れ目が発達し、主に礫状を呈する。 96.44~96.64m, 96.80~96.97m: 変質が認められ、やや軟質である。 96.54~96.64m: 細かい割れ目が発達し、細礫状を呈する。	5 (0)	CL'																								
							Vg	cg																													
							Dg	cg																													
98			[Pattern]	褐 灰			Bg	IIIg	β		97.50~98.09m: 傾斜45~70° の割れ目が多く、岩片状~礫状を呈する。 97.83~97.86m: 細かい割れ目が発達し、細礫状を呈する。	5 (23)	CH'																								
							Cg	cg																													
99			[Pattern]	明 褐 灰			Vg	2		β	98.28~100.40m: 不規則な割れ目が多く、岩片~礫状を呈する。 99.61~99.66m: 細かい割れ目が多く、変質が認められ、やや軟質である。 99.94m: 傾斜25° で幅5mmの橙色のかり長石が脈状に分布する。	9 (0)	CL'																								
							Bg																														IVg
							Vg																														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
															0	10	20	30	40												50
101			[Pattern]	明褐灰			Bg	Vg	bg		2	0	CL'																		
											3																				100.40~100.52m: 細かい割れ目が発達し、変質を受け、やや軟質で、礫状~土砂状を呈する。
											2																				
											3																				100.75~101.03m: 変質が明瞭で、やや軟質である。 100.90~101.03m: 細かい割れ目が発達し、ほぼ土砂状を呈する。
102			[Pattern]	アブライト			Bg	Vg	bg		2	0	CL'																		
											3																				
											4																				●101.47~101.52m: 破砕部 101.47~101.50m: 粘土質砂状部 (Hb) 傾斜25°で直線的に連続。下端に灰白色のフィルム状粘土を伴う。径2~5mmの岩片を含む。変質が進み、灰白色を呈する。幅30mm。 101.50~101.52m: 粘土混じり砂礫状部 (H1) 上端25°、下端20°で直線的に連続。径20mm以下の岩片主体。灰白~明褐灰色を呈する。幅20mm。 102.11~103.92m: 径1~3cm程度のかり長石の大型斑晶が目立つ。
											2																				102.55~102.94m: 傾斜10~50°の割れ目が多く、岩片~細礫状を呈する。
103			[Pattern]	明褐灰			Bg	Vg	bg		3	0	CL'																		
											3																				102.94~103.11m: 細かい割れ目が発達し、緑色に変質し、礫状~土砂状を呈する。一部灰白色粘土を脈状に伴う。 103.11~103.53m: 径0.5~10mm程度の灰色の長石の斑晶が目立つ。 103.11~103.93m: 傾斜20~60°の割れ目が多く、傾斜5~10°の潜在割れ目が発達する。全体に弱く変質する。
											2																				103.93~104.61m: 潜在割れ目も少なく、短柱状コアを主とする。
											2																				104.44~105.54m: 傾斜10~50°の割れ目が多く、岩片状を呈する。 104.47~104.65m: 径3~10mmの橙色のかり長石の斑晶が目立つ。
104			[Pattern]	褐灰			Bg	Vg	bg		2	0	CM'																		
											2																				

標高	標尺	深度	柱状	岩種	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記	岩級	区	分	標準貫入			試験	原位置試験 (孔内水平監視)	室内試験	掘進 掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm)	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	排水量 (L/分)					
															N値	深度	図														
106				褐灰		B _g V _g b _g					●105.54~105.61m: 破砕部 シルト混じり砂礫状部 (Hj) 上端45°, 下端45° ともに直線的に連続。径30mm以下の岩片主体で灰白色粘土が脈状に分布する。変質が著しく、オリブ灰色を呈する。				0	50	100														
						E _g V _g d _g					105.61~107.12m: 傾斜30~50°の割れ目が多く、主に岩片状~礫状を呈する。				7																
						B _g V _g					106.22~106.34m: 傾斜55°の割れ目が卓越し、割れ目には白色鉱物が晶出し、割れ目周辺に変質が見られる。																				
						B _g V _g					106.48~106.49m: 傾斜15°、傾斜50°の割れ目に幅3~6mmの暗緑灰色の粘土質砂を挟み、白色鉱物を伴う。				4																
											106.68~106.69m: 傾斜55°の割れ目に灰白色砂・細礫混じり粘土を挟む。																				
											106.78~106.83m: 傾斜15°のドレイト脈を挟む。やや基質が粗粒で方解石の細脈が見られる。アブライトとの境界は明瞭である。アブライトよりは軟質である。高角度の割れ目にも貫入している。																				
						D _g V _g d _g					106.78~106.80m: 傾斜50°のドレイトの変質部で、暗緑灰色の粘土質砂・細礫状を呈する。				3																
											106.91~106.92m: 不規則な形状のドレイト脈で、106.83mのドレイト脈と高角度割れ目の細脈で連続する。																				
											107.12~107.29m: 傾斜45~90°の湾曲した割れ目が多く、角礫状を呈する。高角度の割れ目沿いに変質が進み、シルト質砂礫状を呈する。																				
						B _g					107.29~107.45m: 砂・細礫状を呈し、灰白色粘土脈が網目状に分布する。																				
						D _g					107.30~107.31m: 傾斜55°で幅3~9mmの暗灰色変質部で砂状を呈する。																				
											幅1mm以下の暗灰色粘土を不連続に挟む。変質部に含まれる岩片に定向配列は見られない。暗灰色粘土は分解し、黄鉄鉱を伴う。																				
											107.45~108.11m: 多方向の割れ目が多く、角礫状を呈する。割れ目沿いに緑色変質する。																				
											107.81~108.11m: 高角度の割れ目沿いに変質が進み、シルト質砂礫状を呈する。																				
						C _g					108.29m: 傾斜57°で幅1~2mmの灰白色の方解石脈を挟む。																				
											108.33~109.16m: 全体に変質を受け、緑灰~明緑灰色を呈する。原岩組織はやや不明瞭である。																				
											108.94m: 傾斜50°で幅0~8mmの方解石脈を挟む。																				
						E _g V _g d _g					●109.16~109.46m: 破砕部 109.16~109.18m: 細礫混じり粘土状部 (Hc-2) 傾斜75°。明緑灰色を呈する。幅2~10mm。																				
						D _g					109.18~109.30m: 粘土質礫状部 (Hb) 傾斜75°で直線的に連続。径2~30mmの礫主体で細粒部が分布する。変質が著しく、明緑灰色を呈する。幅60mm。																				
											109.30~109.32m: 礫混じり粘土状部 (Hc-2) 上端75°, 下端80°。明緑灰色を呈する。幅10~20mm。																				
											109.32~109.46m: 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端90°でやや波打って、下端80°で湾曲して連続。下端には幅1mmの白色粘土を伴う。径2~30mmの礫主体で細粒部が分布する。明緑灰色を呈する。幅60mm程度。																				
											109.46~109.70m: 破砕部の下端側は変質を受け、にぶい緑色を呈する。																				
											109.46~112.49m: 傾斜30~50°の割れ目が多く、岩片状~細礫状を呈する。																				
											109.84m: 傾斜70°で幅1mmの白色粘土を挟む。																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ ノット	給 回 送 水 量 (rpm) (MPa)	送 水 量 ($\text{L}/\text{分}$)	排 水 量 ($\text{L}/\text{分}$)						
															(N 値 ~ 深度) 図																			
111			* * * * *	明 褐 灰							110.12~110.78m: 傾斜30~50°の割れ目が密集し、細礫状を呈する。	0 50 100																						
											Cg																				cg	2		
											Dg																				Vg	4		
											Cg																				bg	2		
112			* * * * *	ア プ ラ イ ト							110.80m, 110.85m: 傾斜50°で幅0~1mmの方解石脈を挟む。	0 50 100																						
											Dg																					Vg	3	
113			* * * * *	褐 灰							111.78~111.86m: 傾斜45°程度の割れ目が密集し、細礫状を呈する。一部白色粘土が網状に分布する。	0 50 100																						
											Cg																						cg	2
114			* * * * *	ア プ ラ イ ト							112.28~112.46m: 傾斜40~50°の割れ目が数mm~2cm間隔で密集し、変質する。	0 50 100																						
											Dg																					Vg	3	
											Bg																					IVg	bg	2
											Cg																					Vg	cg	3
114			* * * * *	ア プ ラ イ ト							113.44~113.90m: 傾斜20~50°の割れ目が多く、岩片状~細礫状を呈する。	0 50 100																						
											Cg																							Vg
114			* * * * *	ア プ ラ イ ト							113.52~113.82m: 全体に弱く変質する。	0 50 100																						
											Cg																							Vg
114			* * * * *	ア プ ラ イ ト							114.42~114.65m: 傾斜75°で幅10~13mmの石英脈を挟む。	0 50 100																						
											Bg																							IVg
114			* * * * *	ア プ ラ イ ト							114.66~116.33m: 割れ目が多く、岩片~礫状を呈する。	0 50 100																						
											Bg																							Vg

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
															(N 値 ~ 深度) 図																	
			* * * * *	ア プ ラ イ ト	褐 灰	Bg	β	2			115.24~115.52m: 割れ目が密集し、主に礫状を呈する。	0 50 100	CL'		0 10 20 30 40 50																	
						Cg					116.04m: 傾斜45°で幅1~2mmの灰色粘土を挟む。																					7 (0) 100
						Vg					117.00~117.30m: 径5~10mmの橙色のかり長石、淡緑灰色の長石の斑晶が目立つ。																					9 (0) 100
						IVg					117.37~117.58m: 割れ目が多く、岩片状~礫状を呈する。 117.48m: 傾斜45°、幅2~4mmで黄鉄鉱が晶出する。緑泥石、方解石を伴う。																					10 (10) 100
						Bg IVg					117.95~125.10m: 割れ目が多く、岩片状~細礫状を呈する。																					7 (0) 100
					Vg					118.83~118.92m: 主に細礫状を呈する。	7 (0) 100	CL'																				
											119.32m: 傾斜20°で幅1mmの灰白色粘土を挟む。	7 (0) 100	CL'																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 cm R Q D ↳ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ ノズレット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
													0	10	20	30	40												50
121			* * * * *			Bg			120.30~122.00m: 傾斜10~40°と60~80°の割れ目が交差し、径1~3cmに岩片化する。 120.50m: 傾斜72°で幅0.5mmの淡緑灰色粘土を挟む。	4 (0)																			
122									121.09~121.50m: 傾斜85~90°の割れ目に幅0.5mmの淡緑灰色粘土を挟む。	5 (0)																			
123									122.18~122.40m: 傾斜55~60°の割れ目沿いに一部軟質化する。白色化するが、変質粘土は伴わない。 122.82m: 傾斜55°で幅0.5mmの淡緑灰色粘土を挟む。割れ目の下端側が幅2cmで長さ「D」に軟質化する。 122.99m: 傾斜60°で幅0.5mmの淡緑灰色粘土を挟む。	4 (0)																			
124									123.39m: 傾斜70°で幅6~10mmの粘土混じり礫状部を挟むが、礫の回転や移動はしていない。下端側の傾斜70°の割れ目面には幅0.5mm以下の暗緑色粘土と黄鉄鉱が晶出する。また、傾斜70°の割れ目とほぼ直交する幅20mmの岩片状部が分布し、下端側の割れ目面の一部に幅0.5mm以下の暗緑色粘土と若干の黄鉄鉱が晶出する。 124.59~124.89m: 互いに直交する傾斜約45°の割れ目が分布し、径1~3cmの岩片状を呈する。脱色により白色化した低密着割れ目から分離・岩片化したものと推定される。	4 (0)																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
														(N)	(m)																	
126			[Pattern]	褐灰	Vg	IVg	[Pattern]			125.30m~35° と 125.65m~30° の各割れ目面と割れ目周縁幅2~3cmが変質により暗緑色化する。後者の割れ目面には幅0.5mm以下の暗緑色粘土を挟み、若干の黄鉄鉱が晶出する。	CL'			0	10																	
				アブライト	灰赤	Bg	cg	[Pattern]			126.00~126.65m: コアは赤味を帯びる。特に、126.00~126.63m間では赤味が強い。 126.25~126.67m: 傾斜45° 前後の割れ目や低密着割れ目沿いに暗緑色化と赤褐色化部が互層状に分布する。粘土付着や粘土脈は分布しない。	CL'			0	10																
127			アブライト	灰褐	Vg	β	2			126.62m: 傾斜35° の割れ目に緑色粘土が付着し、微細な黄鉄鉱が晶出する。 126.80~127.04m: 傾斜35° と 60~70° の割れ目のいずれもが約1cm間隔で分布し交差する。径1cm前後の岩片状を呈する。割れ目の面はほぼ未風化で、粘土の付着もない。	CL'			0	10																	
128			アブライト	褐灰	Bg	cg	[Pattern]			127.63m: 傾斜45° で幅0.5mmの暗緑色粘土を挟む。径0.1~0.2mmの微細な黄鉄鉱が晶出する。 127.73~127.90m: 径1~3cm程度の石英、長石、カリ長石の斑晶が濃集する。 127.80~128.15m: 傾斜30~40° と 60~80° の割れ目が交差し、径1~3cmの硬質岩片状を呈する。粘土の付着はなく、劣化は認められない。	CL'			0	10																	
129			アブライト	褐灰	Bg	[Pattern]				128.58m: 傾斜40° で幅1mmの暗緑色粘土を挟み、幅0.5mmの白色・方解石脈を伴う。 128.60~128.90m: 概ね1~3cm間隔で低密着割れ目が多く分布し、ハンマーの軽打で細岩片化する。 129.00~129.08m: 傾斜60~80° と 20~30° の割れ目が交差し、径1cm程度に細片化する。 129.08~129.40m: 長さ3~6cmの短柱状コア中には低密着割れ目が1~2cm間隔で網状に分布し、ハンマーの打撃で径1~2cmに細片化する。 129.60m: 傾斜70° と 80° の割れ目が近接し、両割れ目で囲まれた範囲では径0.5~1cm程度に細片化する。粘土の付着、粘土脈は分布しない。 129.79~131.00m: 傾斜35~45° と、これと斜交~直交する傾斜10~40° の割れ目が分布し、径1~3cmの岩片状を呈する。粘土付着や粘土脈は分布しない。	CL'			0	10																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
														(N 値 ~ 深度) 図																		
131	85.57	131.00	[Pattern]	アブライト	褐灰	Bg Vg	cg β 2			130.16m: 傾斜35°の割れ目の一部が褐色に風化するが、劣化は伴わない。130.16m以深では、径2~3mmの長石の一部が白濁化する。 130.50~130.54m: 傾斜45°の割れ目沿いに暗緑色化する。粘土化はないが、幅1~3mmの石英脈を伴う。	0 50 100 5 (0) 100 CL'			0 10 20 30 40 50																		
				コア欠如	灰褐						131.00~132.00m: コア欠如																					
132	86.28	132.00	[Pattern]	アブライト	灰褐	Bg Vg	bg β 2			132.00~133.46m: 割れ目と低密着割れ目が1~3cm程度の間隔で密に分布し、径1~3cm程度に岩片化した部分を多く含む。変質と風化による劣化はないが、133.46mの傾斜10°の割れ目には幅1mm程度の暗緑色粘土を挟む。 132.00~132.65mと133.10~133.30mは、径1~2cmの岩片状を呈する。	0 50 100 3 (0) 100 CL'																					
133				コア欠如							133.57~134.00m: 割れ目沿いに長さ5mm前後の繊維状を呈する部分が多い。礫に粘土は付着しない。	0 50 100 5 (0) 100 CL'																				
134	87.69	134.00	[Pattern]	アブライト						134.00~135.00m: コア欠如	0 50 100 4 (0) 100 CL'																					
				コア欠如																												
	88.40	135.00																														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給 圧 (kN・rpm)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)							
														(N 値 ~ 深度) 図																						
		88.75	135.50	アブライト	灰褐	Bg Vg bg β		2		135.00~135.50m: 傾斜10~30°の割れ目が1~2cm間隔で分布し、岩片状を呈する。割れ目に粘土付着や粘土脈の存在はない。		CL'																								
		89.11	136.00	コア欠如						135.50~136.00m: コア欠如																										
136		89.46	136.50	アブライト	灰褐	Bg Vg bg β		2		136.00~136.30m: 径1~2cm程度の岩片状を呈する。岩片に粘土は付着しない。		CL'																								
		89.46	136.50			Dg Vg dg		3		136.30~136.50m: スライムを多く含む。																										
		89.64	136.75	コア欠如						136.50~136.75m: コア欠如。部分的に粘土状のものを含む。																										
137				アブライト		Cg		cg		136.75~137.08m: 径1~2cmの岩片からなる。 137.08~138.42m: 全体に緑泥石化により緑色を帯びている。概ね1~3cm間隔で傾斜10~30°の割れ目と、これと斜交する傾斜40~50°の割れ目が発達する。微小の葉状脈が露出する。上記の両割れ目系の交差部の一部や、137.67~137.73mの傾斜45~50°の割れ目沿いでは、径1cm前後の礫状を呈し、暗緑色粘土が付着する場があるが、礫の回転や移動は見られず、定向配列もしていない。																										
138				アブライト	灰褐	Dg Vg β		4		138.21~138.42m: 実質した割れ目密集部で原岩組織は認められる。割れ目には暗緑色鉱物が付着し、全体に緑色を帯びる。 138.30~138.42m: 上位に比べて軟質化し硬さ「E」となり、細粒化する。脈状の粘土は伴わない。 138.42~140.04m: 傾斜50~60°と、これと斜交する30°程度の割れ目が発達する。 138.63~138.66m: 上下位に比べて軟質で硬さ「E」となり、緑色を帯び細粒化する。脈状の粘土は伴わない。		CL'																								
139						Cg		cg		139.21~139.50m: 弱く変質し、割れ目沿いに緑色を帯びる。																										
						Bg		bg																												

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
													0	10	20	30	40												50				
141			[Pattern: Small dots]	灰褐		Bg Vg		2	140.04~140.33m: 傾斜5~30°の微細な割れ目が発達する。一部硬質部が残存するが、上下位に比べてやや軟質である。	0 50 100			0	10	20	30	40	50															
142									Dg																						3	141.71~142.00m: 傾斜10~30°の割れ目が発達し、細片~細粒化する。岩芯の一部はやや硬質であるが、全体にやや軟質となる。	CL'
143																																IVg Bg	
144									IVg																						2		142.48~143.53m: 割れ目沿いが細片~細粒化し、特に、142.85~143.03m、143.33~143.53mは割れ目が密集する。粘土状部は挟まない。
			灰		143.53~145.46m: 上位に比べて劣化は軽微であり、割れ目は少なくなる。割れ目沿いの細片化、細粒化も軽微となる。傾斜20~30°の割れ目が卓越する。																												

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
														0	10	20	30	40												50					
							IVg			145.46~146.17m: 上位に比べて割れ目が多くなり、割れ目沿いの細片化が見られる。145.70~145.90m間には微細な割れ目も見られるが、連続性に乏しい。	CM'																								
146							Vg				CL'																								
							IVg			146.17~146.71m: 上位に比べて割れ目が少なくなり、割れ目沿いの劣化は軽微で、一部の割れ目沿いに細片化が見られる。	CM'																								
147							Bg			146.71~147.13m: 上位に比べて割れ目が多く、微細な割れ目が亀甲状を呈する。 146.90m: 割れ目沿いに変質し、割れ目周縁幅3cmが暗緑色を呈する。	CM'																								
							Bg			147.13m: 割れ目に暗緑色の熱水変質脈を伴い、割れ目周縁は暗緑色を呈する。下縁割147.20m付近までが脱色し、硬さ「D」に軟質化する。この間、微細な割れ目が発達する。																									
148							Bg	β 2		147.13~149.30m: 赤色を帯びる。傾斜50~70°の割れ目が卓越し、微細な割れ目が発達し、亀甲状を呈する。割れ目沿いの細片化、細粒化が見られる。																									
149							Vg				CL'																								
							Cg			149.30~149.63m: 割れ目沿いの細片化、細粒化が見られ、一部やや硬質部が残存するが、上下位に比べて軟質である。																									
							Bg			149.63~150.00m: 軽微な変質を受け、緑色を帯びる。上位に比べて硬質である。微細な割れ目が見られる。 149.80~149.85m: 傾斜40°、幅40mmで変質し、暗緑色の熱水変質脈を不規則に伴い、暗緑色を帯びる。上下位に比べて軟質で硬さ「D」となる。周囲の硬岩部との境界は明瞭である。																									

余白

H24-D1-3

ボーリング柱状図

調査名 []
事業・工事名 []

ボーリングNo.	[] [] [] [] [] [] [] [] [] [] []
	1

ボーリング名	H24-D1-3			調査位置	X:257.570, Y:898.500		北緯	35° 45' 12.41"	
発注機関	日本原子力発電株式会社			調査期間	2013年5月14日 ~ 2013年6月5日		東経	136° 1' 3.72"	
調査業者名	[]			主任技師	[]	現代理人	コ定ア者	ボーリング責任者	
孔口標高	6.90 m	角上		方位		地盤勾配	水平 0°	使用機種	試験機
総掘削長	60.00 m	角下							ハンマー 落下用具
									エンジン
									ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	深さ (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	試験 (標準貫入) (N値 ~ 深度) 図			原位置試験 (孔内水深差)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
															N	深度	図																			
				黒褐					0.00~0.84m: 盛土 0.00~0.18m: 硬 径5~20mmの黒色砂岩からなる。 0.18~3.57m: 疎溜し粗砂 径10~50mmの花崗斑岩。アブライトの歪角礫を含む粗粒砂でルーズである。礫は殆んどが硬質である。径3~10mmの黒色砂岩も多く含む。					(100)																						
1																																				
2																																				
3		4.38								3.57~4.00m: スライム ほぼ均質な中粒砂で、ルーズである。3.96m以下では若干シルト分を含む。					(457)																					
4		4.07		コア欠如					4.00~4.49m: 礫・シルト溜しり中砂 径2~5mmの石英粒、長石粒、径5~20mmの花崗斑岩、アブライト、黒色砂岩片を含む。若干のシルト分を含む。ルーズである。4.00m, 4.15m, 4.30m付近に木片を含む。																											
		4.00		灰褐					4.49~5.00m: 疎溜しり粗砂 径2~5mmの石英粒、長石粒、径5~10mmの花崗斑岩、黒雲母花崗岩、アブライトの歪角礫を含む。ルーズである。礫は殆んどが硬質。稀に黒色砂岩の礫も含む。 4.49m, 4.65m付近に径70~100mmの黒雲母花崗岩、花崗斑岩の歪角礫を含む。																											
				盛土																																
				にぶい黄緑																																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
														N	値	0	10	20												30	40	50	
6	2.66	6.00	[X]	盛土	にぶい黄橙					5.00~5.10m: 礫は孔壁から落下したコアである。 5.12m: 木片を含む。 5.25m付近に黒色の砂岩を含む。	[0-100]	D'																					
	2.38	6.39		コア欠如	にぶい黄褐	6.00~6.39m: スライム中砂からなる。所々、粗砂を含み、やや不均質でややルーズ。 6.25~6.27m: 径2~3mmの黒色砂岩片を含む。 6.39~7.40m: 砂礫礫は径2~5mmの石英粒、径、5~120mmの硬質な花崗斑岩の亜角~亜円礫からなり、礫率30~40%程度。基質は締まった粗砂からなる。																											
7	1.67	7.40	[X]	盛土	にぶい黄橙					7.00m: 径30mmの黒雲母花崗岩の半クサリ礫を含む。 7.20~7.25m: 礫は孔壁から落下したコアである。	[0-100]	D'																					
	1.42	7.75		コア欠如	にぶい黄褐	7.40~7.75m: スライム中砂からなる。所々、粗砂や硬質礫を含み不均質。全体がややルーズである。																											
8	0.97	8.38	[X]	盛土	にぶい黄褐					7.75~8.38m: 礫混じり砂径2~10mmの黒雲母花崗岩、花崗斑岩の礫を含む細~中砂からなる。	[0-100]	D'																					
	0.73	8.73		コア欠如	灰黄褐	8.38~8.73m: スライム 8.38~8.60m間は径10~30mmの花崗斑岩の硬質な亜角礫主体で、8.50mに径20mmの黒色砂岩礫も含む。8.60~8.73m間は中砂からなる。																											
9	0.54	9.00	[X]	盛土	にぶい黄褐					8.73~9.00m: 中砂やや不均質である。若干のシルトと小礫を含む。ややルーズである。	[0-100]	D'																					
	0.01	9.75		コア欠如	にぶい黄橙	9.00~9.75m: スライム中砂からなる。9.66~9.75mには花崗斑岩の礫を含む。 9.35m付近に径5~10mmのモルタル片を多く含む。																											
	-0.06	9.84	[+]	盛土	灰黄褐					9.75~9.84m: モルタル砂岩状を呈する硬質モルタル。基盤岩と傾斜55°で採している。 9.84~60.00m: 花崗斑岩斑岩は径1~5mmの石英、径1~7mmの長石からなる。 9.84~10.77m: 著しく軟質化し、割れ目はほぼ消滅する。原岩組織は残留する。径10mm前後の大型の長石斑晶を多く含む。粘土化部や粘土脈は分布しない。消滅しかつた傾斜40~60°の割れ目が残存することがある。	[0-100]	D'																					
			花崗斑岩	明補灰	Eg	Vlg	dg	δ	2																								

標 尺 (m)	標 高 度 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]		岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) 測定月日	標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原 位 置 試 験 (孔内水平距離)	室 内 試 験	掘 進 日	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) / 孔壁保護	コ ア チ ュー プ ノ ビ ット	給 回 送 水 量 (L / 分)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L / 分)	排 水 量 (L / 分)												
										N	(N) 値			0	10	20	30	40											50											
11		-0.50	10.47	+	+	+																																		
		-0.52	10.50	+	+	+																																		
				+	+	+																																		
				+	+	+																																		
12		-1.59	12.00	+	+	+																																		
		-1.68	12.13	+	+	+																																		
				+	+	+																																		
13				+	+	+																																		
				+	+	+																																		
				+	+	+																																		
				+	+	+																																		
				+	+	+																																		
				+	+	+																																		
14				+	+	+																																		
				+	+	+																																		
				+	+	+																																		
				+	+	+																																		
				+	+	+																																		
				+	+	+																																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
														(N値~深度) 図																		
		16	花崗斑岩	にふい橙	Dg	cg	δ			16.17~16.28m: 割れ目沿いに風化・砂状化が進み、径10~30mmの礫状コアを呈する。	CL'																					
		17																													灰褐	Bg
		18			IVg		2			18.05~21.00m: 割れ目沿いに薄くマンガン鉱染を受ける。																						
		19		明褐灰	Cg	cg				19.10~19.22m: 割れ目沿いに薄く砂状化する。		CL'																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																			
													0	10	20	30	40												50																																		
21			花崗斑岩	明褐灰			γ		20.77m: 傾斜50°で幅1~2mmの明黄褐色の軟質粘土脈を挟む。粘土脈の上・下はマンガン鉱染で黒褐色化する。 21.00~22.30m: 傾斜40~60°の割れ目。低密着割れ目がほぼ平行に分布する。粘土脈の挟在はないが、風化で薄く砂状化する割れ目もある。 21.18m・60°・21.61m・48°に幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布するが、後者の石英脈は直交する傾斜55°の割れ目で止まっている。		CL'																																																				
22																																	花崗斑岩	明褐灰		δ	22.28m: 傾斜58°の割れ目周辺幅1cmが緑泥石化により淡緑灰色化する。径1mmの白雲母を伴う。 22.47~23.77m: 割れ目は少なくなり、やや硬質~硬質部からなる。傾斜50~60°の割れ目が主体で、やや硬質の区間では、割れ目の一部はごく薄く砂状化するが、硬質の区間では砂状化は見られない。割れ目に粘土脈は挟まない。 22.77m: 傾斜55°の割れ目は交差する割れ目を止めている。一部、細いマンガン汚染の筋が横断する。割れ目に細粒部は認められない。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 22.78~23.40m: 径2~3mmの黒雲母の斑晶が目立つ。		CL'																								
23																																																														花崗斑岩	明褐灰
24																																	花崗斑岩	明褐灰		δ	24.94~25.29m: 上位に比べ割れ目が多くなり、割れ目沿いに薄く砂状化することが多い。		CL'																								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給送水量 (L/分)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	排水量 (L/分)																		
													(N)	値																												
		26	+	明褐灰		Vg			25.29~26.97m: 傾斜50~70°の割れ目主体で、一部でこれと斜交~直交する50~60°の割れ目が見られる。上位に比べ風化は弱くなるが、一部の割れ目では薄く砂状化する。粘土化部はなく、数箇所の割れ目に幅1~5mmの軟質粘土脈を挟む。	0 50 100 2 [12]			0 10 20 30 40 50																													
		27							Dg																IVg		25.94m: 傾斜20°で幅20mmがマンガン鉱染で黒褐色化する。 26.14m: 傾斜58°の割れ目の一部に幅1~5mmの軟質な灰白色粘土が分布する。割れ目沿いは全体にマンガン鉱染で黒褐色化する。 26.34m: 傾斜45°で幅0.5mmの軟質な灰白色粘土を挟む。 26.72m以深は上位に比べ、硬くなる(硬さ「C」)。	10 [10]														
									Cg																	26.97~27.26m: 上端45°, 下端50°の割れ目間は風化で全体が軟質化する。粘土化や粘土脈は分布しない。																
		28		花崗斑岩		Vg	cg δ 2		27.26~28.43m: 27.64m以浅はやや硬質であるが、それ以深は軟質化する。割れ目は残留し、傾斜40~60°のものが主体で同角度の低密着割れ目も多い。割れ目や低密着割れ目沿いは薄く砂状化することが多いが、粘土部や粘土脈の分布は少ない。 27.70m: 傾斜60°の割れ目沿いで、幅5mm程度は長石が粘土化する。	15 [15]																																
			Dg						IVg																28.43m: 傾斜60°で幅1~2mmの軟質粘土脈を挟むが、マンガン鉱染により褐灰色化し、粘土の色調は不明である。 28.43~29.31m: 風化のため割れ目の一部は消滅しかかっている。割れ目は上位と同様に傾斜40~60°のものが主体であるが、一部でこれらと斜交~直交する40~50°の割れ目も分布する。また、これらの低密着割れ目も多い。割れ目沿いに薄く砂状化するものも多いが、粘土化や粘土脈の挟入は少ない。 28.57m・45°, 28.72m・55°の割れ目は幅2~3mmの軟質な灰白色粘土脈を挟む。 29.31~29.95m: 上位と硬さはほぼ同程度であるが、割れ目は少なくなる。風化で割れ目が消滅していることが多い。	8 [8]																
		29		にぶい黄橙		Vg			29.95~33.30m: 全体に風化により軟質化~著しく軟質化する。32.63m以浅では割れ目が残留し、一部の割れ目沿いが薄く砂状化するが、それ以深では割れ目は一部消滅し、割れ目や周辺部まで砂状化が進む。割れ目は傾斜20~40°とこれらに斜交~直交する50~70°の割れ目及び低密着割れ目が主体である。粘土化部や粘土脈の分布はわずかである。また、部分的に割れ目沿いにマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。	1 [12]																																